



613-002662 Rev.L 250812

レジリエント・ユニファイド・マネージメント・スイッチ

CentreCOM[®] x950 シリーズ

取扱説明書

CentreCOM® x950 シリーズ

取扱説明書

本製品のご使用にあたって

本製品は、医療・原子力・航空・海運・軍事・宇宙産業など人命に関わる場合や高度な安全性・信頼性を必要とするシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用を意図した設計および製造はされていません。

したがって、これらのシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じて、かかる損害が直接的または間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任において、このようなシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで使用する場合には、使用環境・条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策・火災延焼対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなど万全を期されるようご注意願います。

安全のために

必ずお守りください

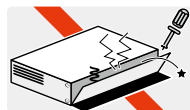


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源ケーブル・プラグを抜き、弊社サポートセンターまたは販売店にご連絡ください。



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電のおそれがあります。

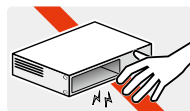


設置場所注意

取り付け・取り外しのときはコネクター・回路部分にさわらない

感電の原因となります。

稼働中に周辺機器の取り付け・取り外し（ホットスワップ）に対応した機器の場合でも、コネクターの接点部分・回路部分にさわらないように注意して作業してください。



感電注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。

製品の取扱説明書に記載の電圧で正しくお使いください。なお、AC 電源製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですご注意ください。



電圧注意

正しい配線器具を使用する

本製品に付属または取扱説明書に記載のない電源ケーブルや電源アダプター、電源コンセントの使用は火災や感電の原因となります。



正しい器具

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源ケーブル・プラグを抜く

感電の原因となります。



ケーブルを
抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。

ケーブル類やプラグの取扱上の注意

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントなどから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

光源をのぞきこまない

目に傷害を被る場合があります。

光ファイバーインターフェースを持つ製品をお使いの場合は、光ファイバーケーブルのコネクター、ケーブルの断面、製品本体のコネクターなどをのぞきこまないでください。



のぞかない

適切な部品で正しく設置する

取扱説明書に従い、適切な設置部品を用いて正しく設置してください。指定以外の設置部品の使用や不適切な設置は、火災や感電の原因となります。



正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光のあたる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書きに従ってください）

はじめに

このたびは、CentreCOM x950シリーズをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

CentreCOM x950シリーズは、10G/40G/100Gイーサネットに対応したレジリエント・ユニファイド・マネージメント・スイッチです。

AT-x950-28XSQは、SFP/SFP+ スロットを24ポート、100G対応のQSFP+/QSFP28 スロットを4スロット、AT-XEM2シリーズに対応した拡張用スロットを1スロット備えています。

AT-x950-52XSQは、SFP/SFP+ スロットを48ポート、100G対応のQSFP+/QSFP28 スロットを4スロット備えています。

AT-x950-28XTQmは、100/1000/2.5G/5G/10GBASE-T ポートを24ポート、100G対応のQSFP+/QSFP28 スロットを4スロット、AT-XEM2シリーズに対応した拡張用スロットを1スロット備えています。

AT-x950-52XTQmは、100/1000/2.5G/5G/10GBASE-T ポートを48ポート、100G対応のQSFP+/QSFP28 スロットを4スロット備えています。

CentreCOM x950シリーズは、アライドテレシス社製のスイッチやルーターを一元管理するAMF/AMF Plus マスター機能に対応するため、ネットワーク管理ツールを個別に準備することなく、スイッチ、ルーターが統合されたユニファイド・ネットワークを最適なコストで実現できます。二重化構成が可能なモジュール式電源の採用や、ネットワークとしての信頼性を向上させるVCS/LD-VCS、EPSRのサポートに加え、スタティックルーティングや各種ダイナミックルーティング機能も使用可能なため、高帯域を必要とするネットワーク・バックボーンへの接続環境を提供します。

また、1Uサイズのため、ラックの利用コストを最小限に抑えることができます。

最新のファームウェアについて

弊社は、改良（機能拡張、不具合修正など）のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。

また、ご購入時に機器にインストールされているファームウェアは最新でない場合があります。最新のファームウェアは、弊社ホームページから入手していただけますが、ファームウェアバージョンアップのご利用には保守契約へのご加入が必要です。

弊社ホームページ内の保守契約者向けページでは、各バージョンのリリースノートにて注意事項や最新情報をご案内していますので、掲載のリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>

保守契約の詳細につきましては、本製品をご購入いただいた代理店にご相談ください。

マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の3部で構成されています。

各マニュアルは弊社ホームページに掲載しておりますので、よくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。

<http://www.allied-tesisys.co.jp/>

○ 取扱説明書（本書）

本製品のご使用にあたり、最初に必要な準備や設置のしかたについて説明しています。設置や接続を行う際の注意事項も記載されていますので、ご使用前に必ずお読みください。

○ コマンドリファレンス

本製品で利用できるすべての機能とコマンドについて詳しく説明しています。各機能の使用手法やコマンドの解説に加え、具体的な設定例も数多く掲載しています。

トップメニュー

各章へのリンクが表示されます。
各章は機能別におおまかなグループ分けがされています。

サブメニュー

各章の機能別索引が表示されます。
章内は機能解説とコマンドリファレンスで構成されています。



コマンドリファレンス画面

○ リリースノート（弊社ホームページ内保守契約者向けページに掲載）

ファームウェアリリースで追加された機能、変更点、注意点や、取扱説明書とコマンドリファレンスの内容を補足する最新の情報が記載されています。

リリースノートは弊社ホームページ内の保守契約者向けページに掲載されています。

はじめに

表記について

アイコン

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライター体で表します。
	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

対象機種と製品名の表記

本書は、以下の製品を対象に記述されています。

シャーシ：

AT-x950-28XSQ

AT-x950-52XSQ

AT-x950-28XTQm

AT-x950-52XTQm

電源ユニット：

AT-PWR600-70 (AC 電源)

AT-PWR600-80 (DC 電源)

電源ユニット リバースエアフロー：

AT-PWR600R-70 (AC 電源)

AT-PWR600R-80 (DC 電源)

スเปアファンモジュール：

AT-FAN05

スเปアファンモジュール リバースエアフロー：

AT-FAN05R

拡張モジュール：

AT-XEM2-12XT (100/1000/10GBASE-T ポート × 12)

AT-XEM2-12XTm (100/1000/2.5G/5G/10GBASE-T ポート × 12)

AT-XEM2-12XS (SFP/SFP+ スロット × 12)

AT-XEM2-12XS v2 (SFP/SFP+ スロット × 12)

AT-XEM2-8XSTm (100/1000/2.5G/5G/10GBASE-T ポート × 4・SFP/SFP+ スロット × 4)

AT-XEM2-4QS (QSFP+ スロット × 4)

AT-XEM2-1CQ (QSFP28 スロット × 1)

「本製品」と表記している場合は、特に記載がないかぎり、AT-x950-28XSQ、AT-x950-52XSQ、AT-x950-28XTQm、AT-x950-52XTQmの4製品を意味します。製品の図や画面表示例は、特に記載がないかぎり、AT-x950-28XSQを使用しています。

画面表示

本書で使用されている画面表示例は、開発中のバージョンを用いているため、実際の製品とは異なる場合があります。また、旧バージョンから機能的な変更がない場合は、画面表示などに旧バージョンのものを使用する場合があります。あらかじめご了承ください。

目次

安全のために	4
はじめに	6
最新のファームウェアについて	6
マニュアルの構成	7
表記について	8
目次	10
1 お使いになる前に	13
1.1 梱包内容	14
シャーシ	14
AC電源ユニット	16
DC電源ユニット	16
拡張モジュール	17
スเปアファンモジュール	17
1.2 概要	18
構成製品	18
オプション (別売)	18
1.3 各部の名称と働き	24
前面	24
背面	31
側面	32
AC電源ユニット (AT-PWR600-70)	33
DC電源ユニット (AT-PWR600-80)	35
AC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-70)	37
DC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-80)	39
スเปアファンモジュール (AT-FAN05)	41
スเปアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R)	42
拡張モジュール (AT-XEM2-12XT)	43
拡張モジュール (AT-XEM2-12XTm)	45
拡張モジュール (AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-12XS v2)	47
拡張モジュール (AT-XEM2-8XSTm)	49
拡張モジュール (AT-XEM2-4QS)	52
拡張モジュール (AT-XEM2-1CQ)	54
2 設置と接続	57
2.1 設置方法を確認する	58
設置するときの注意	58

2.2	ゴム足を取り付ける.....	59
	ゴム足の取り付け/取りはずし.....	59
2.3	19インチラックに取り付ける.....	60
2.4	壁面に設置する.....	62
2.5	オプションを利用して設置する.....	64
2.6	電源ユニットを取り付ける.....	65
	電源ユニットの取り付けかた.....	66
2.7	ファンモジュールを取り付ける.....	67
	ファンモジュールの取り付けかた.....	67
2.8	SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28を取り付ける.....	69
	SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28の取り付けかた.....	71
2.9	拡張モジュールを取り付ける.....	75
	拡張モジュールの取り付けかた.....	75
2.10	ネットワーク機器を接続する.....	78
	ケーブル.....	78
	接続のしかた.....	81
2.11	スタック接続をする.....	83
	用語解説.....	83
	概要.....	83
	対応インターフェースとケーブル.....	85
	接続のしかた.....	86
2.12	コンソールを接続する.....	89
	コンソール.....	89
	ケーブル.....	89
	接続のしかた.....	90
2.13	AC電源に接続する.....	91
	ケーブル.....	91
	接続のしかた.....	91
	電源を二重化する.....	92
2.14	DC電源に接続する.....	93
	ケーブル.....	93
	圧着端子.....	93
	接続のしかた.....	93

目 次

電源を二重化する	96
2.15 設定の準備	97
コンソールターミナルを設定する	97
本製品を起動する	98
2.16 操作の流れ	99
3 付 録	103
3.1 困ったときに	104
自己診断テストの結果を確認する	104
LED表示を確認する	105
ログを確認する	105
異常高温時の電源シャットダウン機能	106
電源の異常検知について	107
トラブル例	107
3.2 仕 様	112
コネクタ・ケーブル仕様	112
本製品の仕様	115
電源仕様	119
3.3 製品保証	124
保証と修理	124
ファームウェアのバージョンアップ	124
保守契約	124
廃棄方法について	126

1

お使いになる前に

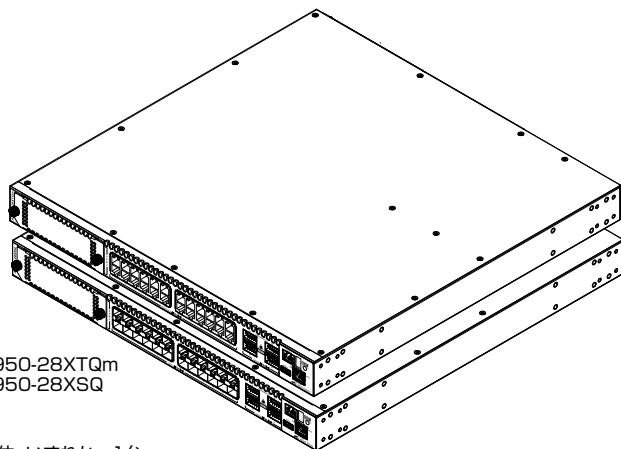
この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きについて説明します。

1.1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。

シャーシ

AT-x950-28XSQ・AT-x950-28XTQm

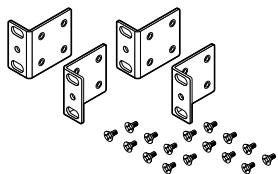


AT-x950-28XTQm
AT-x950-28XSQ

☐ 本体 いずれか 1台

※ ファンモジュールスロットにはファンモジュールが2台標準装備されています。

※ 拡張モジュールスロットには1個、電源ユニットスロットには1個のカバーパネルが付いています。



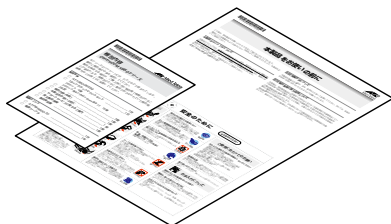
☐ 19インチラック/ウォールマウントキット 1式

・ブラケット 4個

・ブラケット用ネジ (M3×6mm 皿ネジ) 16個

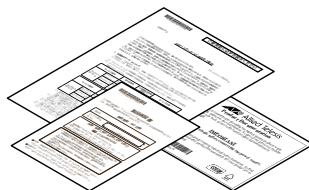


☐ ゴム足 7個



☐ 本製品をお使いの前に 1部

☐ 梱包内容 1部



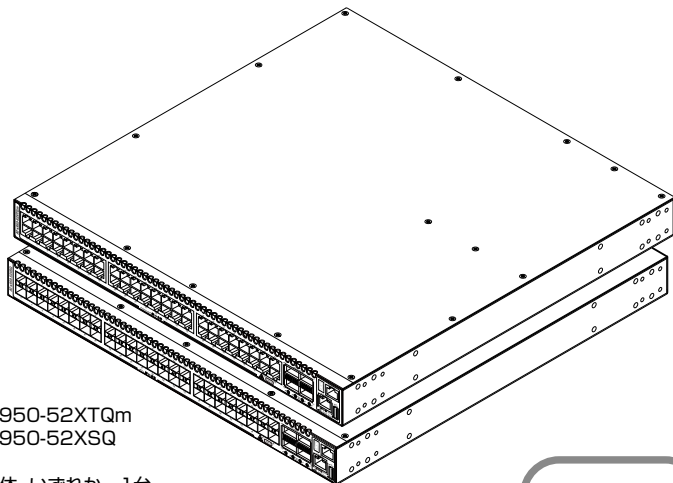
☐ 製品保証書 1部

☐ サポートサービスに関するご案内 1部

☐ 英文製品情報* 1部

※ 日本語版マニュアルのみに従って、
正しくご使用ください。

AT-x950-52XSQ・AT-x950-52XTQm



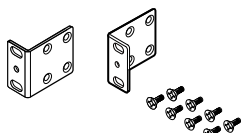
AT-x950-52XTQm
AT-x950-52XSQ

☐ 本体 いずれか 1台

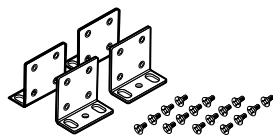
- ※ ファンモジュールスロットにはファンモジュールが2台標準装備されています。
- ※ 電源ユニットスロットには1個のカバーパネルが付いています。



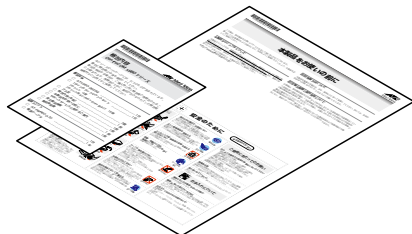
☐ ゴム足 7個



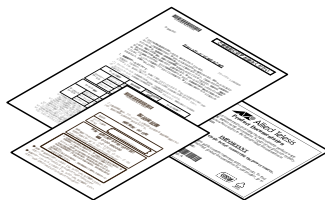
☐ 19インチラックマウントキット 1式
・ブラケット 2個
・ブラケット用ネジ (M4×8mm 皿ネジ) 8個



☐ ウォールマウントキット 1式
・ブラケット 4個
・ブラケット用ネジ (M3×6mm 皿ネジ) 16個



☐ 本製品をお使いの前に 1部
☐ 梱包内容 1部

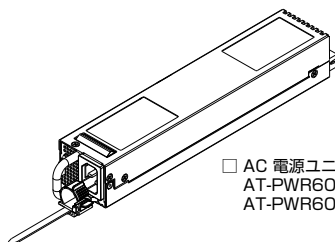


☐ 製品保証書 1部
☐ サポートサービスに関するご案内 1部
☐ 英文製品情報* 1部

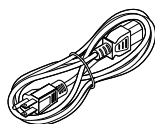
※ 日本語版マニュアルのみに従って、
正しくご使用ください。

1.1 梱包内容

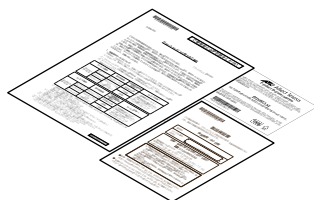
AC 電源ユニット



- ☐ AC 電源ユニット いずれか1台
AT-PWR600-70
AT-PWR600R-70



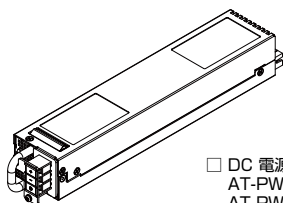
- ☐ 電源ケーブル(1.8m) 1本
- ※ 同梱の電源ケーブルはAC100V用です。
AC200Vでご使用の場合は、設置業者にご相談ください。
- ※ 同梱の電源ケーブルは本製品専用です。
他の電気機器では使用できませんので、
ご注意ください。



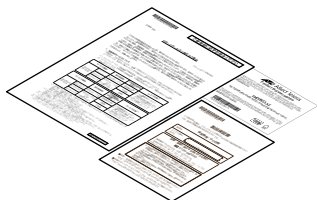
- ☐ 製品保証書 1部
- ☐ サポートサービスに関するご案内 1部
- ☐ 英文製品情報* 1部

※ 日本語版マニュアルのみに従って、
正しくご使用ください。

DC 電源ユニット



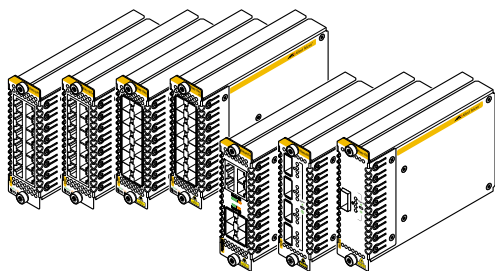
- ☐ DC 電源ユニット いずれか1台
AT-PWR600-80
AT-PWR600R-80



- ☐ 製品保証書 1部
- ☐ サポートサービスに関するご案内 1部
- ☐ 英文製品情報* 1部

※ 日本語版マニュアルのみに従って、
正しくご使用ください。

拡張モジュール

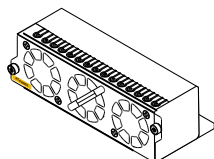


- ☐ 拡張モジュール いずれか1台
 - AT-XEM2-12XT
 - AT-XEM2-12XTm
 - AT-XEM2-12XS
 - AT-XEM2-12XS v2
 - AT-XEM2-8XSTm
 - AT-XEM2-4QS
 - AT-XEM2-1CQ

- ☐ 製品保証書 1部
- ☐ サポートサービスに関するご案内 1部
- ☐ 英文製品情報* 1部

※ 日本語版マニュアルのみに従って、
正しくご使用ください。

スペアファンモジュール



- ☐ スペアファンモジュール いずれか1台
 - AT-FAN05
 - AT-FAN05R

- ☐ 英文製品情報* 1部
- ☐ サポートサービスに関するご案内 1部
- ☐ 製品保証書 1部

※ 日本語版マニュアルのみに従って、
正しくご使用ください。

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、本製品がおさめられていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

1.2 概 要

CentreCOM x950シリーズの概要について説明します。

本製品は、シャーシ型のモジュラー・スイッチです。本製品をスイッチとして機能させるために最低限必要となるコンポーネントは次のとおりです。

- シャーシ×1
- 電源ユニット×1
- ファンモジュール×2 (シャーシに標準装備)

コンポーネントを追加することによって、ネットワーク環境に応じてポート数を増やしたり(AT-x950-28XSQ、AT-x950-28XTQm)、電源を二重化することができます。

コンポーネントは将来的に追加される場合がありますので、最新の情報はリリースノートやデータシートでご確認ください。

構成製品

- シャーシ
 - AT-x950-28XSQ
 - AT-x950-52XSQ
 - AT-x950-28XTQm
 - AT-x950-52XTQm
- AC電源ユニット
 - AT-PWR600-70
- DC電源ユニット
 - AT-PWR600-80
- 拡張モジュール (AT-x950-28XSQ、AT-x950-28XTQm)

AT-XEM2-12XT	100/1000/10GBASE-T (RJ-45) ポート×12
AT-XEM2-12XTm	100/1000/2.5G/5G/10GBASE-T (RJ-45) ポート×12
AT-XEM2-12XS	SFP/SFP+スロット×12
AT-XEM2-12XS v2	SFP/SFP+スロット×12
AT-XEM2-8XSTm	100/1000/2.5G/5G/10GBASE-T (RJ-45) ポート×4
	SFP/SFP+スロット×4
AT-XEM2-4QS	QSFP+スロット×4
AT-XEM2-1CQ	QSFP28スロット×1

オプション (別売)

- AC電源ユニット リバースエアフロー
 - AT-PWR600R-70
- DC電源ユニット リバースエアフロー
 - AT-PWR600R-80

1.2 概要

AT-SW-WL10-1Y-2020更新用	10AP 1年 更新用 ^{*5}
AT-SW-WL10ADD-1Y-2020	10AP 1年 追加
AT-SW-WL10ADD-5Y-2020	10AP 5年 追加
AT-SW-WL10ADD-7Y-2020	10AP 7年 追加
AT-SW-WL10ADD-1Y-2020更新用	10AP 1年 追加 更新用 ^{*5}

無線チャンネルブランクライセンス<AWC-CB + AWC-SC>^{*6}

=1年/5年/7年の利用期限付き=

AT-SW-CB10-1Y-2022	10AP 1年
AT-SW-CB10-5Y-2022	10AP 5年
AT-SW-CB10-7Y-2022	10AP 7年
AT-SW-CB10-1Y-2022更新用	10AP 1年 更新用 ^{*5}
AT-SW-CB10ADD-1Y-2022	10AP 1年 追加
AT-SW-CB10ADD-5Y-2022	10AP 5年 追加
AT-SW-CB10ADD-7Y-2022	10AP 7年 追加
AT-SW-CB10ADD-1Y-2022更新用	10AP 1年 追加 更新用 ^{*5}

無線チャンネルブランクライセンス<AWC-CB>^{*6}

AT-SW-CB10-1Y-2020更新用	10AP 1年 更新用 ^{*5}
AT-SW-CB10ADD-1Y-2020更新用	10AP 1年 追加 更新用 ^{*5}

無線スマートコネクトライセンス<AWC-SC>^{*7}

AT-SW-SC10-1Y-2020更新用	10AP 1年 更新用 ^{*5}
AT-SW-SC10ADD-1Y-2020更新用	10AP 1年 追加 更新用 ^{*5}

- ※1 対応ファームウェアバージョンなどの詳細については、最新のリリースノートやデータシートでご確認ください。
- ※2 VCS構成でフィーチャライセンスの各機能を利用する場合は、VCSマスターおよびVCSスレーブの双方に同一のフィーチャライセンスが必要です。
- ※3 MACsecはAT-XEM2-12XS・AT-XEM2-12XS v2・AT-XEM2-8XSTm上のポートでのみ使用可能です。
- ※4 本製品をAMF/AMF Plusメンバーとしてご利用される際は、本追加ライセンスは必要ありません。
- ※5 更新専用ライセンスになります。新規購入時の利用可能期間にかかわらず、利用期限付きライセンスを更新する場合は、更新専用ライセンスをご購入ください。
- ※6 AWC-CBを運用するには、無線チャンネルブランクライセンスと、同数以上の無線AP管理に対応する無線LANコントローラライセンスの両方が必要となります。
- ※7 AWC-SCを運用するには、無線スマートコネクトライセンスと、同数以上の無線AP管理に対応する無線LANコントローラライセンスの両方が必要となります。
- ※8 基本ライセンスで機能を有効化し、追加ライセンスで管理ノードを追加できます。追加ライセンスで管理ノード数を追加する場合、基本ライセンスの導入が必須となります。本ライセンスはファームウェアバージョン5.4.8-0が、また、追加ライセンスの開始日を基本ライセンスと別日に設定する場合は5.4.8-2以降が必要となります。ただし、5.4.8-2以降でサポートされた機能については、当該インシタルバージョンからのサポートとなります。

○ コンソールケーブル^{*9}

CentreCOM VT-Kit2 plus
CentreCOM VT-Kit2
AT-VT-Kit3

- ※9 コンソール接続には「CentreCOM VT-Kit2 plus」、「CentreCOM VT-Kit2」、または「AT-VT-Kit3」が必要です。

○ ラックマウントキット

AT-RKMT-SL01 19インチスライディング ラックマウントキット

AT-PWR600-70 / AT-PWR600R-70 オプション

○ L字型コネクタ電源ケーブル(下/上) *10

AT-PWRCBL-J01L

AT-PWRCBL-J01R

※ 10 AT-PWRCBL-J01Lの電源ケーブルの向きは下方向、AT-PWRCBL-J01Rの電源ケーブルの向きは上方向に突出し1Uの高さを超えますのでご注意ください。また、電源ケーブル抜け防止フックは使用できません。

SFP/SFP+スロット、AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-12XS v2・AT-XEM2-8XSTm オプション

○ SFP モジュール *11

AT-SPTXa	1000BASE-T (RJ-45) *12
AT-SPTXc	1000BASE-T (RJ-45) *12
AT-SPSX	1000BASE-SX (2連LC)
AT-SPSX2	1000M MMF (2km) (2連LC)
AT-SPLX10	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX10a	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX10/I	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX40	1000M SMF (40km) (2連LC)
AT-SPLX40/I	1000M SMF (40km) (2連LC)
AT-SPZX80	1000M SMF (80km) (2連LC)
AT-SPZX120/I	1000M SMF (120km) (2連LC)
AT-SPBDM-A・AT-SPBDM-B	1000M MMF (550m) (LC)
AT-SPBD10-13・AT-SPBD10-14	1000BASE-BX10 (LC)
AT-SPBD10/I-13・AT-SPBD10/I-14	1000BASE-BX10 (LC)
AT-SPBD40-13/I・AT-SPBD40-14/I	1000M SMF (40km) (LC)
AT-SPBD80-A・AT-SPBD80-B	1000M SMF (80km) (LC)

○ SFP+モジュール

AT-SP10T	1000/10GBASE-T (RJ-45) *13
AT-SP10Ta (Rev.C以降)	1000/10GBASE-T (RJ-45) *13
AT-SP10TM	1000/10GBASE-T (RJ-45) *13
AT-SP10SR	10GBASE-SR (2連LC)
AT-SP10LR	10GBASE-LR (2連LC)
AT-SP10LRa/I	10GBASE-LR (2連LC)
AT-SP10ER40/I	10GBASE-ER (2連LC)
AT-SP10ER40a/I	10GBASE-ER (2連LC)
AT-SP10ZR80/I	10G SMF (80km) (2連LC)
AT-SP10BD10/I-12・AT-SP10BD10/I-13	10G SMF (10km) (LC)
AT-SP10BD20-12・AT-SP10BD20-13	10G SMF (20km) (LC)
AT-SP10BD40/I-12・AT-SP10BD40/I-13	10G SMF (40km) (LC)
AT-SP10TW1	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (1m) *14
AT-SP10TW3	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (3m) *14
AT-SP10TW7	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (7m) *14, *15

1.2 概要

○ 10Gスタックモジュール

AT-SP10T	1000/10GBASE-T (RJ-45) *13
AT-SP10SR	10GBASE-SR (2連LC)
AT-SP10LR	10GBASE-LR (2連LC)
AT-SP10LRa/I	10GBASE-LR (2連LC)
AT-SP10ER40/I	10GBASE-ER (2連LC)
AT-SP10ER40a/I	10GBASE-ER (2連LC)
AT-SP10ZR80/I	10G SMF (80km) (2連LC)
AT-SP10BD10/I-12・AT-SP10BD10/I-13	10G SMF (10km) (LC)
AT-SP10BD20-12・AT-SP10BD20-13	10G SMF (20km) (LC)
AT-SP10BD40/I-12・AT-SP10BD40/I-13	10G SMF (40km) (LC)
AT-SP10TW1	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (1m)
AT-SP10TW3	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (3m)
AT-SP10TW7	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (7m)
AT-StackXS/1.0	銅スタックモジュール (1m)

※11 スタックモジュールとしては使用できません。

※12 1000Mでの通信のみサポートしています。

※13 AT-SP10T・AT-SP10Ta・AT-SP10TMを使用する場合は、上下左右に隣接するSFP/SFP+スロットを空きスロットにしてください。全SFP/SFP+スロットのうち、半数のSFP/SFP+スロットにのみ搭載可能です(AT-x950-28XSQは最大12個、AT-x950-52XSQは最大24個、拡張モジュールAT-XEM2-12XS、AT-XEM2-12XS v2は最大6個、AT-XEM2-8XSTmは最大2個)。

※14 SFP+ダイレクトアタッチケーブルは、弊社製品同士での接続のみサポート対象となり、他社製品との接続はサポート対象外となります。他社製品との接続が必要な場合は、SFP+ダイレクトアタッチケーブル以外のSFP+モジュールを用いて、事前に十分な検証を行ったうえで接続するようにしてください。

※15 (AT-x950-52XSQ) AT-SBx81XS16、AT-SBx81XLEM/XS8との接続は未サポート。

AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-12XS v2・AT-XEM2-8XSTmオプション

○ SFP+モジュール

AT-SP10BD80/I-14・AT-SP10BD80/I-15	10G SMF (80km) (LC)
-----------------------------------	---------------------

QSFP+スロット、AT-XEM2-4QSオプション

○ QSFP+モジュール

AT-QSFPSR	40GBASE-SR4 (MPO)
AT-QSFPSR4 (Rev.B以降)	40GBASE-SR4 (MPO)
AT-QSFPSR4LC	40G MMF (440m) (2連LC)
AT-QSFPLR4	40GBASE-LR4 (2連LC)
AT-QSFPER4	40GBASE-ER4 (2連LC)
AT-QSFP1CU	QSFP+ダイレクトアタッチケーブル (1m) *16
AT-QSFP3CU	QSFP+ダイレクトアタッチケーブル (3m) *16
AT-QSFP-4SFP10G-3CU	QSFP+4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル (3m) *17
AT-QSFP-4SFP10G-5CU	QSFP+4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル (5m) *17

○ 40Gスタックモジュール

AT-QSFPSR	40GBASE-SR4 (MPO)
-----------	-------------------

AT-QSFP28SR4 (Rev.B以降)	40GBASE-SR4 (MPO)
AT-QSFP28LR4	40GBASE-LR4 (2 連LC)
AT-QSFP28ZR4	40GBASE-ER4 (2 連LC)
AT-QSFP281CU	QSFP+ダイレクトアタッチケーブル (1m) ^{*16}
AT-QSFP283CU	QSFP+ダイレクトアタッチケーブル (3m) ^{*16}

○ AT-QSFP28SR, AT-QSFP28SR4 (Rev.E以降) 用光ファイバーケーブル ^{*18}

ET3-MP008-4LC-5	ブレイクアウト光ファイバーケーブル (5m)
ET3-MP008-4LC-10	ブレイクアウト光ファイバーケーブル (10m)

※ 16 QSFP+ダイレクトアタッチケーブル、QSFP+4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル (以下ダイレクトアタッチケーブル) は、弊社製品同士での接続のみサポート対象となり、他社製品との接続はサポート対象外となります。他社製品との接続が必要な場合は、ダイレクトアタッチケーブル以外の QSFP+ モジュールを用いて、事前に十分な検証を行ったうえで接続するようにしてください。

※ 17 QSFP+4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブルの QSFP+ コネクター側は、弊社製品での使用のみをサポートしています。接続製品についての詳細は、弊社ホームページをご参照ください。

※ 18 AT-QSFP28SR4での使用はサポート対象外です。

QSFP28 スロット、AT-XEM2-1CQ オプション

○ QSFP28 モジュール / 100G スタックモジュール

AT-QSFP28SR4	100GBASE-SR4 (MPO)
AT-QSFP28LR4	100GBASE-LR4 (2 連LC) ^{*19}
AT-QSFP28ZR4	100G SMF (80km) (2 連LC) ^{*19} ^{*20}
AT-QSFP281CU	QSFP28ダイレクトアタッチケーブル (1m) ^{*21}
AT-QSFP283CU	QSFP28ダイレクトアタッチケーブル (3m) ^{*21}

※ 19 本製品の QSFP28 スロットで AT-QSFP28LR4/AT-QSFP28ZR4 を使用する場合は、該当ポートに fec コマンド (インターフェースモード) の fec c191 パラメーターを設定し、前方誤り訂正 (FEC) を明示的に有効化してください。また対向機器でも FEC を有効に設定してください。

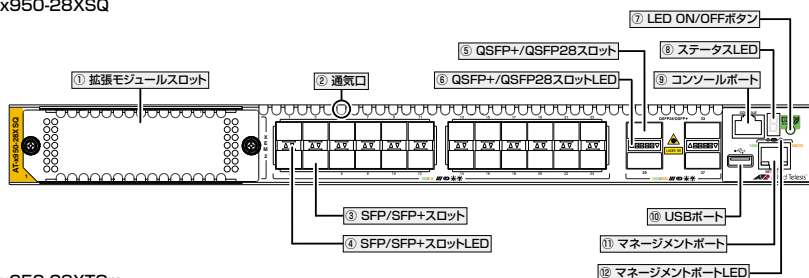
※ 20 AT-QSFP28ZR4 を 2 本使用した場合、残り 2 スロットの使用はできません。また、QSFP28 ダイレクトアタッチケーブルと併用する場合は、AT-QSFP28ZR4 を使用している上下のスロットで QSFP28 ダイレクトアタッチケーブルの使用はできません。

※ 21 QSFP28 ダイレクトアタッチケーブル (以下、ダイレクトアタッチケーブル) は、弊社製品同士での接続のみサポート対象となり、他社製品との接続はサポート対象外となります。他社製品との接続が必要な場合は、ダイレクトアタッチケーブル以外の QSFP28 モジュールを用いて、事前に十分な検証を行ったうえで接続するようにしてください。

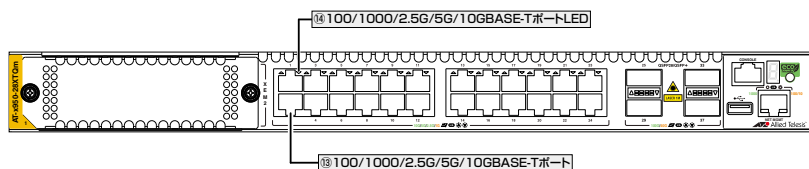
1.3 各部の名称と働き

前面

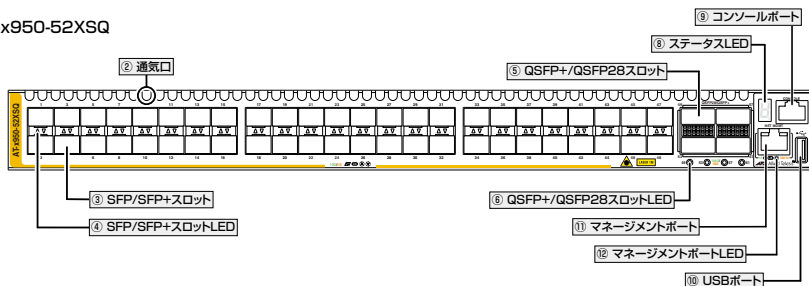
AT-x950-28XSQ



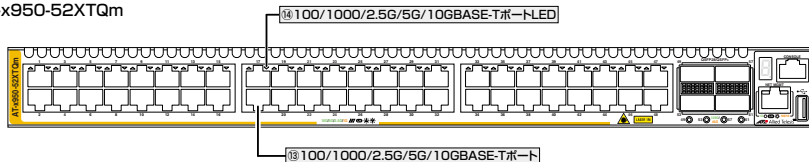
AT-x950-28XTQm



AT-x950-52XSQ



AT-x950-52XTQm



① 拡張モジュールスロット

オプション(別売)の拡張モジュールを装着するスロットです。

ご購入時には、カバーパネルが取り付けられています。



拡張モジュールを装着しない場合は、カバーパネルを取り付けるようにしてください。カバーパネルを取り付けておくことで、シャーシの通気が適切に行われます。また、本製品の保管や移送にもカバーパネルが必要になりますので、大切に保管してください。



75 ページ「拡張モジュールを取り付ける」

② 通気口

本製品内部に空気を取り入れる、または本製品内部の空気を排出するための穴です。使用するファンモジュールと電源ユニットによって空気の流れる向きが異なります。標準装備のファンモジュールまたはスベアファンモジュール(AT-FAN05)と、AC電源ユニット(AT-PWR600-70)またはDC電源ユニット(AT-PWR600-80)を使用しているときは、前面(ポート面)から空気を取り入れ、背面(電源面)から排出します。スベアファンモジュール リバースエアフロー(AT-FAN05R)と、AC電源ユニット リバースエアフロー(AT-PWR600R-70)またはDC電源ユニット リバースエアフロー(AT-PWR600R-80)を使用しているときは、背面から空気を取り入れ、前面から排出します。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

③ SFP/SFP+ スロット

オプション(別売)のSFP/SFP+モジュール(以下、SFP/SFP+)を装着するスロットです。AT-x950-28XSQは、ポート1～ポート24の24個のスロットがあり、AT-x950-52XSQは、ポート1～ポート48の48個のスロットがあります。



注意

- ・ 1000M/2.5G/5G/10Gでの通信のみサポートしています。10/100Mで使用することはできませんのでご注意ください。
- ・ AT-SP10T・AT-SP10Ta・AT-SP10TMを使用する場合は、上下左右に隣接するSFP/SFP+スロットを空きスロットにしてください。全SFP/SFP+スロットのうち、半数のSFP/SFP+スロットにのみ搭載可能です(AT-x950-28XSQは最大12個、AT-x950-52XSQは最大24個)。



参照 69ページ「SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28を取り付ける」



参照 78ページ「ネットワーク機器を接続する」



参照 83ページ「スタック接続をする」

④ SFP/SFP+ スロットLED

SFP/SFP+ポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDです。

- L/A (Link/Activity)

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

SFP/SFP+スロットLEDは、LED ON/OFFボタン(AT-x950-28XSQ・AT-x950-28XTQm)やCLI上のエコLED機能によって点灯させないように設定することもできます。



参照 29ページ「LED表示」

1.3 各部の名称と働き

⑤ QSFP+/QSFP28 スロット

オプション（別売）のQSFP+/QSFP28/スタックモジュールを装着するスロットです。AT-x950-28XSQ・AT-x950-28XTQmは、ポート25、29、33、37の4個のスロットがあり、AT-x950-52XSQ・AT-x950-52XTQmは、ポート49、53、57、61の4個のスロットがあります。

 69ページ「SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28を取り付ける」

 78ページ「ネットワーク機器を接続する」

 83ページ「スタック接続をする」

⑥ QSFP+/QSFP28 スロットLED

QSFP+/QSFP28ポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDです。

○ L/A (Link/Activity)

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

QSFP+/QSFP28 ス ロ ッ ト LED は、LED ON/OFF ボ タ ン (AT-x950-28XSQ・AT-x950-28XTQm) や CLI 上のエコ LED 機能によって点灯させないように設定することもできます。

 29ページ「LED表示」

⑦ LED ON/OFF ボタン

LEDの点灯・消灯を切り替えるボタンです。

LEDによる機器監視が不要なときに、LEDを消灯させることで、電力消費を抑えて省エネの効果を得ることができます（エコLED）。マネジメントポートLEDは、LED ON/OFFにかかわらず常時点灯します。



AT-x950-52XSQ、AT-x950-52XTQmにはLED ON/OFFボタンは付いていません。LEDを消灯させる場合はCLI上のエコLED機能を有効に設定してください。

 29ページ「LED表示」

⑧ ステータスLED

本製品全体の状態を表示する7セグメントとドットのLEDです。

 29ページ「LED表示」

⑨ コンソールポート

コンソールを接続するコネクタ（RJ-45）です。

ケーブルはオプション（別売）のコンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」、「CentreCOM VT-Kit2」、または「AT-VT-Kit3」を使用してください。

 89ページ「コンソールを接続する」

⑩ USBポート

USBメモリーを接続するためのUSB 2.0のポートです。ファームウェアファイルや設定ファイルの持ち運び、バックアップ、インストールに使用します。



- ・ ご使用の際には、お客様の使用環境で事前に検証を行ったうえで導入してください。
- ・ USBメモリー以外のものを接続しないでください。USB延長ケーブルやUSBハブを介した接続は動作保証をいたしませんのでご注意ください。
- ・ USBメモリーを長期間利用する場合は、USBメモリーの製品保証期間をご確認のうえでご使用ください。

⑪ マネージメントポート

管理作業専用の機器を接続する10/100/1000BASE-T (RJ-45)ポートです。

このポートを使うと、運用ネットワークを使用せずに、ファームウェアや設定ファイルを転送したり、SNMPで情報を取得したりすることができます。

ケーブルは10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用します。接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

通信モードは、デフォルトでオートネゴシエーションが設定されています。

なお、ファームウェアでは、マネージメントポートは「eth0」のインターフェース名で扱われます。



- 10/100/1000M Full Duplexでの通信のみサポートしています。オートネゴシエーションまたは固定設定にかかわらず、10/100M Half Duplexで使用することはできませんのでご注意ください。

 78ページ「ネットワーク機器を接続する」

⑫ マネージメントポートLED

マネージメントポートの状態を表示するLEDランプです。

- L/A (Link/Activity)

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。



29ページ「LED表示」

1.3 各部の名称と働き

⑬ 100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポート

※ 本書では、100BASE-T/1000BASE-T/2.5GBASE-T/5GBASE-T/10GBASE-Tポートを100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートと表記します。

UTP/STPケーブルを接続するコネクタ（RJ-45）です。ポート1～24の24個のコネクタがあり、各ポートで100Mbps、1000Mbps、2.5Gbps、5Gbps、10Gbpsの通信速度をサポートします。

なお、CLI上の設定によって、100/1000/2.5G/5G/10GBASE-TポートをVCS用の10Gbpsスタックポートにすることもできます。

ケーブルは100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000/2.5G/5GBASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリ 5以上、10GBASE-Tの場合はカテゴリ 6のUTP/STPケーブル、カテゴリ 6AのUTP/STPケーブルのいずれかを使用してください。

接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。



100M/1000M/2.5G/5G/10G Full Duplexでの通信のみサポートしています。オートネゴシエーションまたは固定設定にかかわらず、100M Half Duplexで使用することはできませんのでご注意ください。



78ページ「ネットワーク機器を接続する」



83ページ「スタック接続をする」

⑭ 100/1000/2.5G/5G/10GBASE-TポートLED

100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDランプです。

- L/A (Link/Activity)

通信速度（100/1000Mbps、2.5/5/10Gbps）、接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

100/1000/2.5G/5G/10GBASE-TポートLEDは、LED ON/OFF ボタンやCLI上のエコLED機能によって点灯させないように設定することもできます。



29ページ「LED表示」

LED表示

100/1000/2.5G/5G/10GBASE-T ポートLED

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	2.5G/5G/10Gbpsでリンクが確立しています。
		点滅	2.5G/5G/10Gbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	100/1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100/1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
			LED ON/OFF ボタンがLED OFF、またはCLI上のエコLED機能が有効に設定されています。

SFP/SFP+ スロットLED

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	2.5G/5G/10Gbpsでリンクが確立しています。
		点滅	2.5G/5G/10Gbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
			LED ON/OFF ボタンがLED OFF、またはCLI上のエコLED機能が有効に設定されています。

QSFP+/QSFP28 スロットLED

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	100Gbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Gbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	40Gbpsでリンクが確立しています。または、10G×4モードで、いずれか1つ以上のポートでリンクが確立しています。
		点滅	40Gbpsでパケットを送受信しています。または、10G×4モードで、いずれか1つ以上のポートでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
			LED ON/OFF ボタンがLED OFF、またはCLI上のエコLED機能が有効に設定されています。

マネージメントポートLED

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10/100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10/100Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。

1.3 各部の名称と働き

ステータスLED

LED	色	状態	表示内容
7セグメントを使用した表示 (本製品への電源供給と以下の内容を表します。)			
	緑	点灯	VCS 機能が無効で、単体で動作しています。
  	緑	点灯	VCS 機能が有効で、スタックメンバーとして動作しています。 数字はスタックメンバー ID を表します。＊1
	緑	点灯＊2	ファームウェアが起動中です。
			ファンまたは内部温度に異常があります。
	緑	点灯	LED ON/OFF ボタンが LED OFF、または CLI 上のエコLED 機能が有効に設定されています (LED OFF、LED 機能有効設定時でも、電源供給確認のため本 LED だけは点灯します)。 横3セグメントで、以下の状態を表します。 上：スタックメンバーのマスターとして動作しています。 中：VCS 機能が無効で、単体で動作しています。 下：スタックメンバーのスリープとして動作しています。
ドットを使用した表示			
	緑	点滅	USB メモリー接続時、USB メモリーに対してファイルの書き込み / 読み出しが行われています。
		点灯	USB メモリーが接続されています。
		消灯	LED ON/OFF ボタンが LED OFF、または CLI 上のエコLED 機能が有効に設定されています USB メモリーが接続されていません。
7セグメントとドットを使用した表示			
	緑	点灯	ファームウェアが起動準備中です。
	—	消灯	本製品に電源が供給されていません。

※1 ファームウェアのバージョンにより、スタック可能な最大台数など、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「コマンドリファレンス」でご確認ください。

※2 「F」の点灯は、VCS 機能の無効を示す「0」、スタックメンバー ID を示す「1～8」のいずれかと、約1秒間ずつ交互に表示されます。

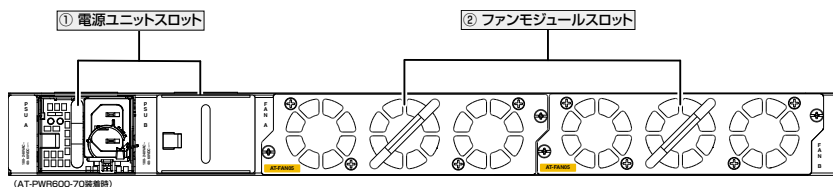


VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」に記載されています。ご使用の際は、必ず「コマンドリファレンス」の「バーチャルシャーシスタック (VCS)」をお読みになり内容をご確認ください。

背面

電源ユニットの取り付け・取りはずし方は、65ページ「電源ユニットを取り付ける」を参照ください。

ファンモジュールの取り付け・取りはずし方は、67ページ「ファンモジュールを取り付ける」を参照ください。



① 電源ユニットスロット

電源ユニットを装着するスロットです。

PSU A(左)とPSU B(右)の2個のスロットがあり、出荷時は、PSU A(左)は何も挿入されていない状態で、PSU B(右)には、カバーパネルが取り付けられています。



電源ユニットを装着していない空きスロットには、カバーパネルを取り付けるようにしてください。空きスロットにカバーパネルを取り付けておくことで、シャーシの通気が適切に行われます。また、本製品の保管や移送にもカバーパネルが必要になりますので、大切に保管してください。



ヒント

本製品に、電源ユニットは同梱されていません。別途、ご購入ください。

② ファンモジュールスロット

ファンモジュールを装着するスロットです。

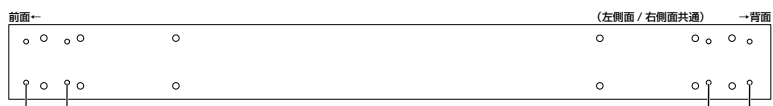
FAN A(左)とFAN B(右)の2個のスロットがあり、ファンモジュールが2台標準装備されています。

1.3 各部の名称と働き

側面

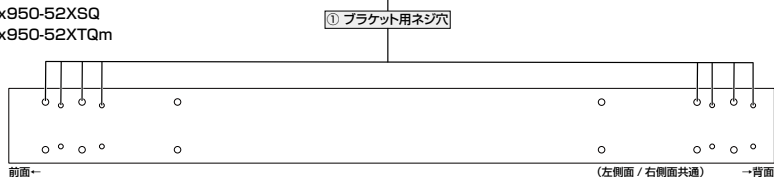
AT-x950-28XSQ

AT-x950-28XTQm



AT-x950-52XSQ

AT-x950-52XTQm



① ブラケット用ネジ穴

ラックマウントキット、ウォールマウントキットのブラケットを取り付けるためのネジ穴です。ネジ穴は前面側と背面側の2箇所があり、どちらにでもブラケットが取り付けられます。

AT-x950-28XSQ・AT-x950-28XTQm：

19インチラックに取り付ける場合は、19インチラック/ウォールマウントキットのブラケットを2個使用します。壁面に取り付ける場合は、19インチラック/ウォールマウントキットのブラケットを4個使用します。

AT-x950-52XSQ・AT-x950-52XTQm：

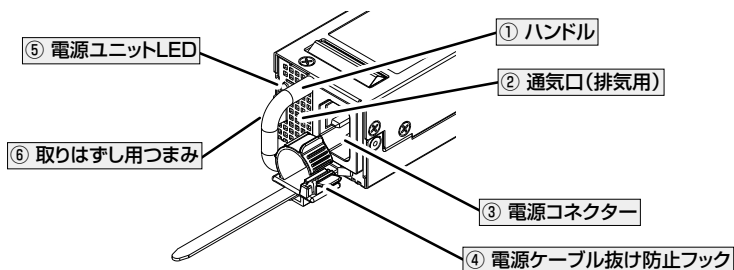
19インチラックに取り付ける場合は、19インチラックマウントキットのブラケットを使用し大きいネジ穴の方に取り付けます。壁面に取り付ける場合は、ウォールマウントキットのブラケットを使用し小さいネジ穴の方に取り付けます。

 60ページ「19インチラックに取り付ける」

 62ページ「壁面に設置する」

AC 電源ユニット (AT-PWR600-70)

AC 電源ユニットの取り付け・取りはずし方は、65 ページ「電源ユニットを取り付ける」を参照ください。



① ハンドル

電源ユニットの取り付け・取りはずしの際に使用するハンドルです。

② 通気口 (排気用)

空気を排出するための穴です。

本製品は前面から空気を取り入れ、背面から排出します。

電源ユニットにはファンが1個搭載されていて、本製品内部を冷却します。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

③ 電源コネクタ

AC 電源ケーブルを接続するコネクタです。

④ 電源ケーブル抜け防止フック

AC 電源ケーブルの抜け落ちを防止するためのフックです。

1.3 各部の名称と働き

⑤ 電源ユニットLED

AC電源ユニットの状態を表示するLEDです。

LED		説明
黄	緑	
消灯	点灯	正常に動作しています。
消灯	点滅	稼働中 (ACを供給したまま) の電源ユニットがはずれている。 または、106ページ「異常高温時の電源シャットダウン機能」によりシステム電源がシャットダウンされている状態です。 ※復旧には、AC電源ケーブルの抜き差しが必要となります。AC電源ケーブルの抜き差しをしても復旧しない場合は、故障と考えられますので、124ページ弊社修理受付窓口へご連絡ください。
点滅	点灯	Warning 状態： 内部温度異常、ファン異常、DC出力過電流、AC入力電圧の低下のいずれか の原因により、DC出力には影響しませんが異常が発生しています。
点灯	消灯	Fault 状態： 内部温度異常、ファン異常、DC出力過電流、AC入力電圧の低下のいずれか の原因によりDC出力に異常が発生しています。 ※復旧には、AC電源ケーブルの抜き差しが必要となります。AC電源ケーブルの抜き差しをしても復旧しない場合は、故障と考えられますので、124ページ弊社修理受付窓口へご連絡ください。

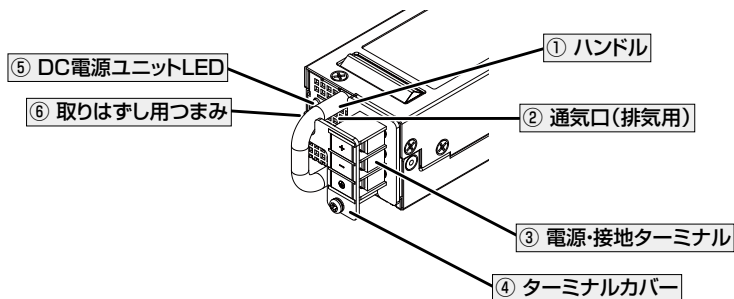
⑥ 取りはずし用つまみ

AC電源ユニットを本体から取りはずす際に使用するつまみです。

 65ページ「電源ユニットを取り付ける」

DC 電源ユニット (AT-PWR600-80)

DC 電源ユニットの取り付け・取りはずし方は、65 ページ「電源ユニットを取り付ける」を参照ください。



① ハンドル

電源ユニットの取り付け・取りはずしの際に使用するハンドルです。

② 通気口 (排気用)

空気を排出するための穴です。

本製品は前面から空気を取り入れ、背面から排出します。

電源ユニットにはファンが1個搭載されていて、本製品内部を冷却します。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

③ 電源・接地ターミナル

DC 電源ケーブルと FG (フレームグランド) 線を接続するターミナルです。プラス端子、マイナス端子、接地端子があります。

DC 電源ケーブルと FG 線は、UL 規格に対応した 18AWG (線径 1.024mm) ～ 16AWG (線径 1.291mm) の銅線を別途ご用意ください。本製品に DC 電源ケーブル、FG 線、圧着端子は同梱されていません。

④ ターミナルカバー

接続部分を保護するためのカバーです。DC 電源ケーブルの取り付け・取りはずしを行うとき以外はターミナルカバーをはずさないでください。

1.3 各部の名称と働き

⑤ DC電源ユニットLED

DC電源ユニットの状態を表示するLEDです。

LED		説明
黄	緑	
消灯	点灯	正常に動作しています。
消灯	点滅	稼働中 (DCを供給したまま) の電源ユニットがはずれている。 または、106ページ「異常高温時の電源シャットダウン機能」によりシステム電源がシャットダウンされている状態です。 ※復旧には、電源設備のブレーカーをOFFにし、再度ONにする必要があります。ブレーカーのOFF/ONで復旧しない場合は故障と考えられますので、124ページ弊社修理受付窓口へご連絡ください。
点滅	点灯	Warning 状態： 内部温度異常、ファン異常、DC出力過電流、入力電圧の低下のいずれかの原因によりDC出力には影響しませんが異常が発生しています。
点灯	消灯	Fault 状態： 内部温度異常、ファン異常、DC出力過電流、入力電圧の低下のいずれかの原因によりDC出力に異常が発生しています。 ※復旧には、電源設備のブレーカーをOFFにし、再度ONにする必要があります。ブレーカーのOFF/ONで復旧しない場合は故障と考えられますので、124ページ弊社修理受付窓口へご連絡ください。

⑥ 取りはずし用つまみ

DC電源ユニットを本体から取りはずす際に使用するつまみです。

 65ページ「電源ユニットを取り付ける」

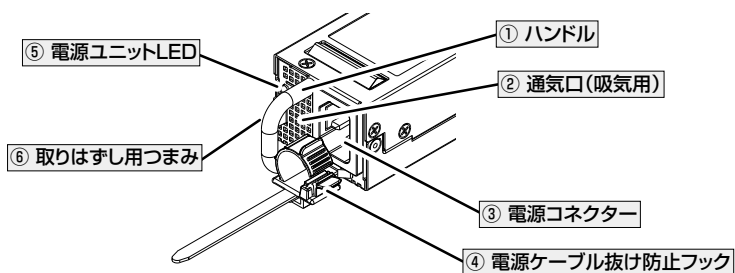
AC 電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-70)

AC 電源ユニットの取り付け・取りはずし方は、65 ページ「電源ユニットを取り付ける」を参照ください。



注意

リバースエアフローは、電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-70 または AT-PWR600R-80) とスเปアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) の組み合わせでのみ動作します。リバースエアフロー使用時は、必ず標準装備またはスเปアファンモジュール (AT-FAN05) 2 台を取りはずし、スเปアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) を 2 台を取り付けてください。



① ハンドル

電源ユニットの取り付け・取りはずしの際に使用するハンドルです。

② 通気口 (吸気用)

空気を取り入れるための穴です。

本製品は背面から空気を取り入れ、前面から排出します。

電源ユニットにはファンが 1 個搭載されていて、本製品内部を冷却します。



注意

通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

③ 電源コネクタ

AC 電源ケーブルを接続するコネクタです。

④ 電源ケーブル抜け防止フック

AC 電源ケーブルの抜け落ちを防止するためのフックです。

1.3 各部の名称と働き

⑤ 電源ユニットLED

AC電源ユニットの状態を表示するLEDです。

LED		説明
黄	緑	
消灯	点灯	正常に動作しています。
消灯	点滅	稼働中 (ACを供給したまま) の電源ユニットがはずれている。 または、106ページ「異常高温時の電源シャットダウン機能」によりシステム電源がシャットダウンされている状態です。 ※復旧には、AC電源ケーブルの抜き差しが必要となります。AC電源ケーブルの抜き差しをしても復旧しない場合は、故障と考えられますので、124ページ弊社修理受付窓口へご連絡ください。
点滅	点灯	Warning 状態： 内部温度異常、ファン異常、DC出力過電流、AC入力電圧の低下のいずれか の原因により、DC出力には影響しませんが異常が発生しています。
点灯	消灯	Fault 状態： 内部温度異常、ファン異常、DC出力過電流、AC入力電圧の低下のいずれか の原因により DC出力に異常が発生しています。 ※復旧には、AC電源ケーブルの抜き差しが必要となります。AC電源ケーブルの抜き差しをしても復旧しない場合は、故障と考えられますので、124ページ弊社修理受付窓口へご連絡ください。

⑥ 取りはずし用つまみ

AC電源ユニットを本体から取りはずす際に使用するつまみです。

 65ページ「電源ユニットを取り付ける」

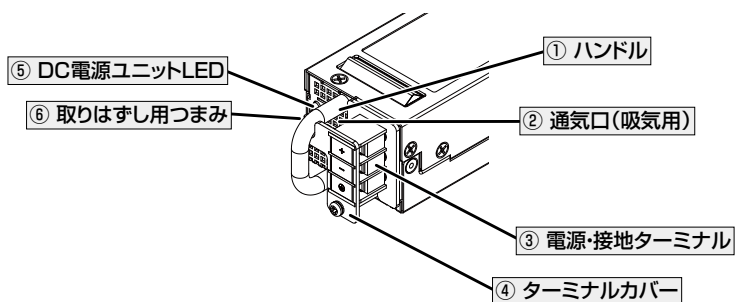
DC 電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-80)

DC 電源ユニットの取り付け・取りはずし方は、65 ページ「電源ユニットを取り付ける」を参照ください。



注意

リバースエアフローは、電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-70 または AT-PWR600R-80) とスเปアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) の組み合わせでのみ動作します。リバースエアフロー使用時は、必ず標準装備またはスเปアファンモジュール (AT-FAN05) 2 台を取りはずし、スเปアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) を 2 台を取り付けてください。



① ハンドル

電源ユニットの取り付け・取りはずしの際に使用するハンドルです。

② 通気口(吸気用)

空気を取り入れるための穴です。

本製品は背面から空気を取り入れ、前面から排出します。

電源ユニットにはファンが1個搭載されていて、本製品内部を冷却します。



注意

通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

③ 電源・接地ターミナル

DC 電源ケーブルと FG (フレームグランド) 線を接続するターミナルです。プラス端子、マイナス端子、接地端子があります。

DC 電源ケーブルと FG 線は、UL 規格に対応した 18AWG (線径 1.024mm) ~ 16AWG (線径 1.291mm) の銅線を別途ご用意ください。本製品に DC 電源ケーブル、FG 線、圧着端子は同梱されていません。

1.3 各部の名称と働き

④ ターミナルカバー

接続部分を保護するためのカバーです。DC電源ケーブルの取り付け・取りはずしを行うとき以外はターミナルカバーをはずさないでください。

⑤ DC電源ユニットLED

DC電源ユニットの状態を表示するLEDです。

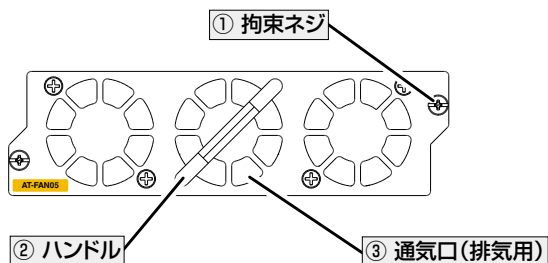
LED		説明
黄	緑	
消灯	点灯	正常に動作しています。
消灯	点滅	稼働中 (DC を供給したまま) の電源ユニットがはずれている。 または、106 ページ「異常高温時の電源シャットダウン機能」によりシステム電源がシャットダウンされている状態です。 ※復旧には、電源設備のブレーカーを OFF にし、再度 ON にする必要があります。ブレーカーの OFF/ON で復旧しない場合は故障と考えられますので、124 ページ弊社修理受付窓口へご連絡ください。
点滅	点灯	Warning 状態： 内部温度異常、ファン異常、DC 出力過電流、入力電圧の低下のいずれかの原因により DC 出力には影響しませんが異常が発生しています。
点灯	消灯	Fault 状態： 内部温度異常、ファン異常、DC 出力過電流、入力電圧の低下のいずれかの原因により DC 出力に異常が発生しています。 ※復旧には、電源設備のブレーカーを OFF にし、再度 ON にする必要があります。ブレーカーの OFF/ON で復旧しない場合は故障と考えられますので、124 ページ弊社修理受付窓口へご連絡ください。

⑥ 取りはずし用つまみ

DC電源ユニットを本体から取りはずす際に使用するつまみです。

 65 ページ「電源ユニットを取り付ける」

スペアファンモジュール (AT-FAN05)



① 拘束ネジ

ファンモジュールをシャーシに固定するためのネジです。パネル両端に1個ずつ、計2個あります。

 参照 67ページ「ファンモジュールを取り付ける」

② ハンドル

ファンモジュールの取り付け・取りはずしの際に使用するハンドルです。

③ 通気口 (排気用)

本製品内部の空気を排出するための穴です。

本製品は前面から空気を取り入れ、背面から排出します。

ファンモジュールにはファンが3個搭載されていて、本製品内部を冷却します。



注意 通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

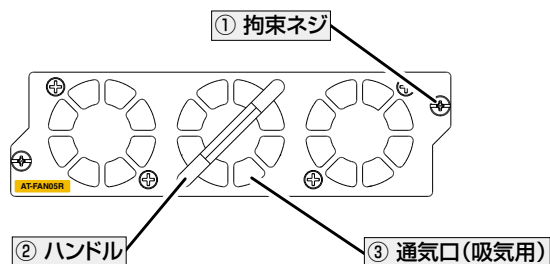
1.3 各部の名称と働き

スเปアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R)



注意

リバースエアフローは、電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-70 または AT-PWR600R-80) とスเปアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) の組み合わせでのみ動作します。リバースエアフロー使用時は、必ず標準装備またはスเปアファンモジュール (AT-FAN05) 2台を取りはずし、スเปアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) を2台を取り付けてください。



① 拘束ネジ

ファンモジュールをシャーシに固定するためのネジです。パネル両端に1個ずつ、計2個あります。

 参照 67ページ「ファンモジュールを取り付ける」

② ハンドル

ファンモジュールの取り付け・取りはずしの際に使用するハンドルです。

③ 通気口(吸気用)

本製品内部に空気を取り入れるための穴です。

本製品は背面から空気を取り入れ、前面から排出します。

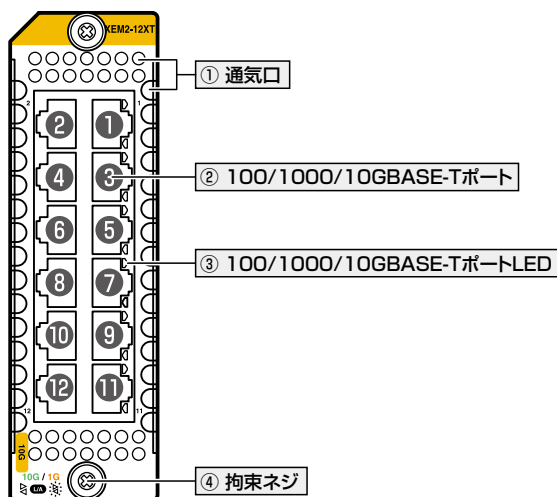
ファンモジュールにはファンが3個搭載されていて、本製品内部を冷却します。



注意

通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

拡張モジュール (AT-XEM2-12XT)



① 通気口

本製品内部に空気を取り入れる、または本製品内部の空気を排出するための穴です。使用するファンモジュールと電源ユニットによって空気の流れる向きが異なります。標準装備のファンモジュールまたはスペアファンモジュール (AT-FAN05) と、AC電源ユニット (AT-PWR600-70) またはDC電源ユニット (AT-PWR600-80) を使用しているときは、前面から空気を取り入れ、背面から排出します。スペアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) と、AC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-70) またはDC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-80) を使用しているときは、背面から空気を取り入れ、前面から排出します。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

1.3 各部の名称と働き

② 100/1000/10GBASE-Tポート

UTP/STPケーブルを接続するコネクタ（RJ-45）です。

ポート1～ポート12の12個のコネクタがあります。

ケーブルは100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを、10GBASE-Tの場合はカテゴリ 6のUTP/STPケーブル、カテゴリ 6AのUTP/STPケーブルのいずれかを使用します。

接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができますが、不要なトラブルを避けるため、ストレートタイプを使用することをおすすめします。

通信モードは、デフォルトでオートネゴシエーションが設定されています。



注意 100M/1000M/10G Full Duplexでの通信のみサポートしています。オートネゴシエーションまたは固定設定にかかわらず、100M Half Duplexで使用することはできませんのでご注意ください。

※ 本書では、100BASE-TX/1000BASE-T/10GBASE-Tポートを100/1000/10GBASE-Tポートと表記します。また、100/1000/10GBASE-Tポートと100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートの両方に該当する内容については、まとめて100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートと表記する場合があります。

78ページ「ネットワーク機器を接続する」

83ページ「スタック接続をする」

③ 100/1000/10GBASE-TポートLED

100/1000/10GBASE-Tポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDです。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	10Gbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Gbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	100/1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100/1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFF ボタンが LED OFF、または CLI 上のエコLED 機能が有効に設定されています

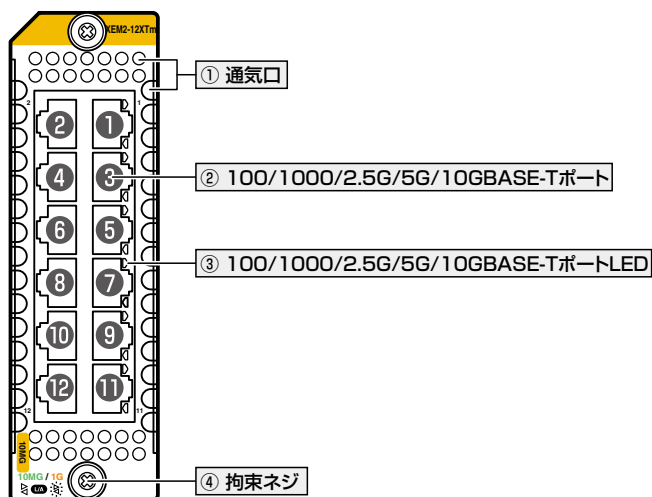
④ 拘束ネジ

拡張モジュールをシャーシに固定するためのネジです。

パネル両端に1個ずつ、計2個あります。

75ページ「拡張モジュールを取り付ける」

拡張モジュール (AT-XEM2-12XTm)



① 通気口

本製品内部に空気を取り入れる、または本製品内部の空気を排出するための穴です。使用するファンモジュールと電源ユニットによって空気の流れる向きが異なります。標準装備のファンモジュールまたはスเปアファンモジュール (AT-FAN05) と、AC電源ユニット (AT-PWR600-70) またはDC電源ユニット (AT-PWR600-80) を使用しているときは、前面から空気を取り入れ、背面から排出します。スเปアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) と、AC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-70) またはDC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-80) を使用しているときは、背面から空気を取り入れ、前面から排出します。



注意 通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

1.3 各部の名称と働き

② 100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポート

UTP/STPケーブルを接続するコネクタ（RJ-45）です。

ポート1～ポート12の12個のコネクタがあります。

ケーブルは100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上、1000/2.5G/5GBASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリ5以上のUTPケーブルを、10GBASE-Tの場合はカテゴリ6のUTP/STPケーブル、カテゴリ6AのUTP/STPケーブルのいずれかを使用します。接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができますが、不要なトラブルを避けるため、ストレートタイプを使用することをおすすめします。

通信モードは、デフォルトでオートネゴシエーションが設定されています。



100M/1000M/2.5G/5G/10G Full Duplexでの通信のみサポートしています。オートネゴシエーションまたは固定設定にかかわらず、100M Half Duplexで使用することはできませんのでご注意ください。

※ 本書では、100BASE-TX/1000BASE-T/2.5GBASE-T/5GBASE-T/10GBASE-Tポートを100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートと表記します。また、100/1000/10GBASE-Tポートと100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートの両方に該当する内容については、まとめて100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートと表記する場合があります。



78ページ「ネットワーク機器を接続する」



83ページ「スタック接続をする」

③ 100/1000/2.5G/5G/10GBASE-TポートLED

100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDです。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	2.5/5/10Gbpsでリンクが確立しています。
		点滅	2.5/5/10Gbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	100/1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100/1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFFボタンがLED OFF、またはCLI上のエコLED機能が有効に設定されています

④ 拘束ネジ

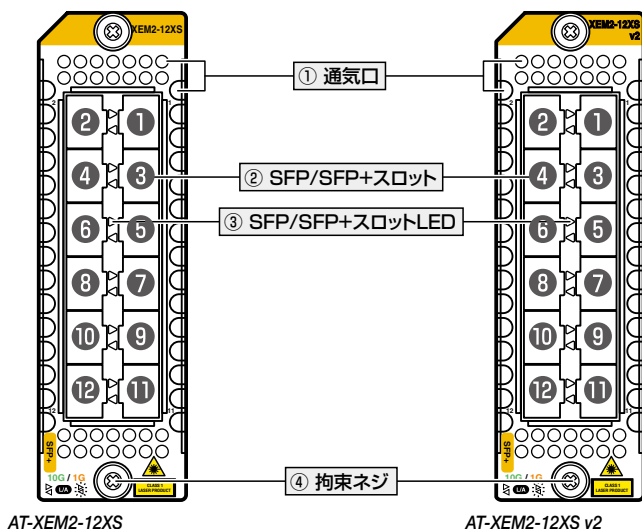
拡張モジュールをシャーシに固定するためのネジです。

パネル両端に1個ずつ、計2個あります。



75ページ「拡張モジュールを取り付ける」

拡張モジュール (AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-12XS v2)



① 通気口

本製品内部に空気を取り入れる、または本製品内部の空気を排出するための穴です。使用するファンモジュールと電源ユニットによって空気の流れる向きが異なります。標準装備のファンモジュールまたはスペアファンモジュール(AT-FAN05)と、AC電源ユニット(AT-PWR600-70)またはDC電源ユニット(AT-PWR600-80)を使用しているときは、前面から空気を取り入れ、背面から排出します。

スペアファンモジュール リバースエアフロー(AT-FAN05R)と、AC電源ユニット リバースエアフロー(AT-PWR600R-70)またはDC電源ユニット リバースエアフロー(AT-PWR600R-80)を使用しているときは、背面から空気を取り入れ、前面から排出します。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

1.3 各部の名称と働き

② SFP/SFP+ スロット

オプション(別売)のSFP/SFP+ モジュール(以下、SFP/SFP+)を装着するスロットです。ポート1～ポート12の12個のスロットがあります。



- ・ 1000M/10Gでの通信のみサポートしています。10/100Mで使用することはできませんのでご注意ください。
- ・ AT-SP10Tを使用する場合は、上下左右に隣接するSFP/SFP+スロットを空きスロットにしてください。全SFP/SFP+スロットのうち、半数のSFP/SFP+スロットにのみ搭載可能です(最大6個)。



69ページ「SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28を取り付ける」



78ページ「ネットワーク機器を接続する」



83ページ「スタック接続をする」

③ SFP/SFP+ スロットLED

SFP/SFP+ポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDです。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	10Gbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Gbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
			LED ON/OFFボタンがLED OFF、またはOLI上のエコLED機能が有効に設定されています

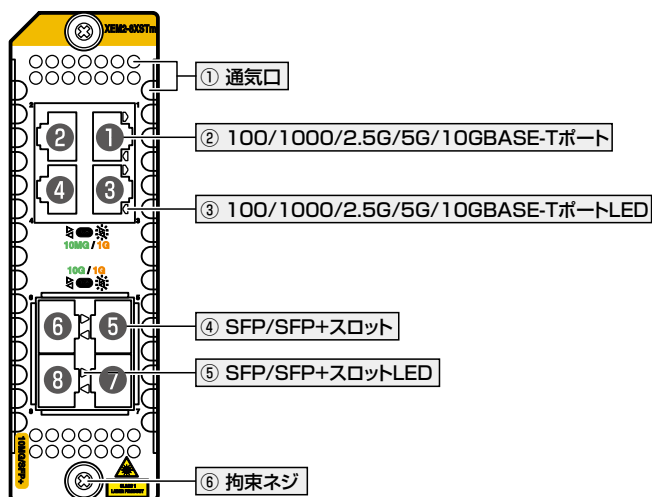
④ 拘束ネジ

拡張モジュールをシャーシに固定するためのネジです。パネル両端に1個ずつ、計2個あります。



75ページ「拡張モジュールを取り付ける」

拡張モジュール (AT-XEM2-8XSTm)



① 通気口

本製品内部に空気を取り入れる、または本製品内部の空気を排出するための穴です。使用するファンモジュールと電源ユニットによって空気の流れる向きが異なります。標準装備のファンモジュールまたはスペアファンモジュール (AT-FAN05) と、AC電源ユニット (AT-PWR600-70) またはDC電源ユニット (AT-PWR600-80) を使用しているときは、前面から空気を取り入れ、背面から排出します。スペアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) と、AC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-70) またはDC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-80) を使用しているときは、背面から空気を取り入れ、前面から排出します。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

1.3 各部の名称と働き

② 100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポート

UTP/STPケーブルを接続するコネクタ（RJ-45）です。

ポート1～ポート4の4個のコネクタがあります。

ケーブルは100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上、1000/2.5G/5GBASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリ5以上のUTPケーブルを、10GBASE-Tの場合はカテゴリ6のUTP/STPケーブル、カテゴリ6AのUTP/STPケーブルのいずれかを使用します。接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができますが、不要なトラブルを避けるため、ストレートタイプを使用することをおすすめします。

通信モードは、デフォルトでオートネゴシエーションが設定されています。



100M/1000M/2.5G/5G/10G Full Duplexでの通信のみサポートしています。オートネゴシエーションまたは固定設定にかかわらず、100M Half Duplexで使用することはできませんのでご注意ください。



78ページ「ネットワーク機器を接続する」



83ページ「スタック接続をする」

③ 100/1000/2.5G/5G/10GBASE-TポートLED

100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDです。



51ページ「LED表示」

④ SFP/SFP+スロット

オプション（別売）のSFP/SFP+モジュール（以下、SFP/SFP+）を装着するスロットです。ポート5～ポート8の4個のスロットがあります。



・1000M/10Gでの通信のみサポートしています。10/100Mで使用することはできませんのでご注意ください。

・AT-SP10Tを使用する場合は、上下左右に隣接するSFP/SFP+スロットを空きスロットにしてください。全SFP/SFP+スロットのうち、半数のSFP/SFP+スロットにのみ搭載可能です（最大2個）。



69ページ「SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28を取り付ける」



78ページ「ネットワーク機器を接続する」



83ページ「スタック接続をする」

⑤ SFP/SFP+スロットLED

SFP/SFP+ポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDです。



51ページ「LED表示」

⑥ 拘束ネジ

拡張モジュールをシャーシに固定するためのネジです。

パネル両端に1個ずつ、計2個あります。



75ページ「拡張モジュールを取り付ける」

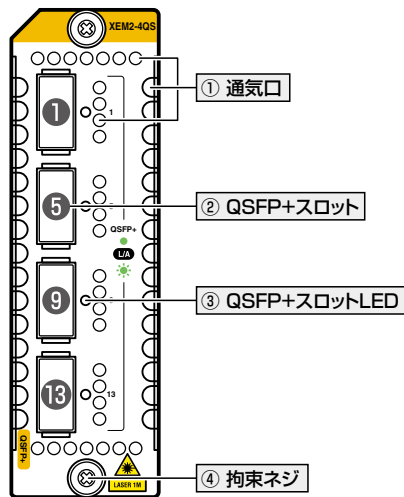
LED表示

100/1000/2.5G/5G/10GBASE-TポートLED			
LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	2.5G/5G/10Gbpsでリンクが確立しています。
		点滅	2.5G/5G/10Gbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	100/1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100/1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
			LED ON/OFFボタンがLED OFF、またはCLI上のエコLED機能が有効に設定されています

SFP/SFP+スロットLED			
LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	10Gbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Gbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
			LED ON/OFFボタンがLED OFF、またはCLI上のエコLED機能が有効に設定されています。

1.3 各部の名称と働き

拡張モジュール (AT-XEM2-4QS)



① 通気口

本製品内部に空気を取り入れる、または本製品内部の空気を排出するための穴です。使用するファンモジュールと電源ユニットによって空気の流れる向きが異なります。標準装備のファンモジュールまたはスペアファンモジュール (AT-FAN05) と、AC電源ユニット (AT-PWR600-70) またはDC電源ユニット (AT-PWR600-80) を使用しているときは、前面から空気を取り入れ、背面から排出します。スペアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) と、AC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-70) またはDC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-80) を使用しているときは、背面から空気を取り入れ、前面から排出します。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

② QSFP+スロット

オプション (別売) のQSFP+モジュール (以下、QSFP+) を装着するスロットです。ポート1、5、9、13の4個のスロットがあります。

 69ページ「SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28を取り付ける」

 78ページ「ネットワーク機器を接続する」

 83ページ「スタック接続をする」

③ QSFP+スロットLED

QSFP+ポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDです。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	40Gbpsでリンクが確立しています。または、10G×4モードで、いずれか1つ以上のポートでリンクが確立しています。
		点滅	40Gbpsでパケットを送受信しています。または、10G×4モードで、いずれか1つ以上のポートでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFFボタンがLED OFF、またはCLI上のエコLED機能が有効に設定されています。

④ 拘束ネジ

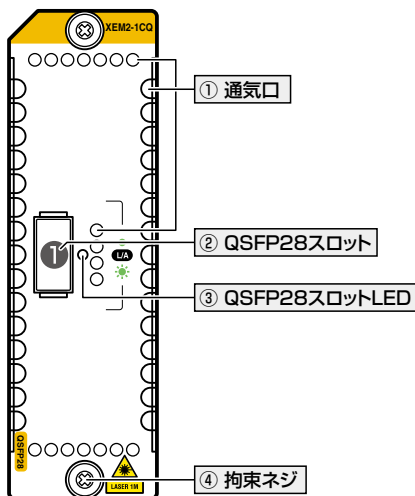
拡張モジュールをシャーシに固定するためのネジです。

パネル両端に1個ずつ、計2個あります。

 75ページ「拡張モジュールを取り付ける」

1.3 各部の名称と働き

拡張モジュール (AT-XEM2-1CQ)



① 通気口

本製品内部に空気を取り入れる、または本製品内部の空気を排出するための穴です。使用するファンモジュールと電源ユニットによって空気の流れる向きが異なります。標準装備のファンモジュールまたはスペアファンモジュール (AT-FAN05) と、AC電源ユニット (AT-PWR600-70) またはDC電源ユニット (AT-PWR600-80) を使用しているときは、前面から空気を取り入れ、背面から排出します。スペアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) と、AC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-70) またはDC電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-80) を使用しているときは、背面から空気を取り入れ、前面から排出します。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

② QSFP28スロット

オプション (別売) のQSFP28モジュール (以下、QSFP28) を装着するスロットです。1個のスロットがあります。



69ページ「SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28を取り付ける」



78ページ「ネットワーク機器を接続する」



83ページ「スタック接続をする」

③ QSFP28 スロットLED

QSFP28ポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDです。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	パケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
			LED ON/OFF ボタンが LED OFF、または CLI 上のエコLED 機能が有効に設定されています。

④ 拘束ネジ

拡張モジュールをシャーシに固定するためのネジです。

パネル両端に1個ずつ、計2個あります。

 75ページ「拡張モジュールを取り付ける」

2

設置と接続

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明しています。

2.1 設置方法を確認する

本製品は次の方法による設置ができます。

AT-x950-28XSQ・AT-x950-28XTQm

- ゴム足による水平方向の設置
- 同梱の19インチラック/ウォールマウントキットによる19インチラックへの設置
- 同梱の19インチラック/ウォールマウントキットによる壁面への設置

AT-x950-52XSQ・AT-x950-52XTQm

- ゴム足による水平方向の設置
- 同梱の19インチラックマウントキットによる19インチラックへの設置
- 同梱のウォールマウントキットによる壁面への設置



警告

- ・ 弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、火災や故障の原因となります。
- ・ 水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほごりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合にはただちに使用をやめ、弊社サポートセンターにご連絡ください。



注意

- ・ 製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

設置するときの注意

本製品の設置や保守をはじめる前に、必ず4ページ「安全のために」をよくお読みください。設置については、次の点にご注意ください。

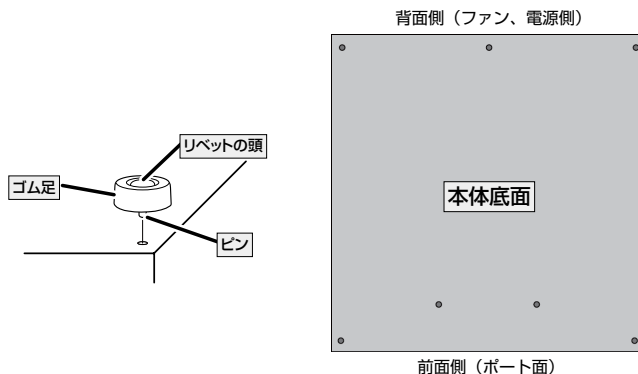
- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置は避けてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 充分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 底面を上にして設置しないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほごりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクターの端子にさわらないでください。静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると静電気の放電により故障の原因になります。

2.2 ゴム足を取り付ける

ゴム足の取り付け / 取りはずし

ゴム足の取り付け

- 1 本体底面の7箇所のゴム足用穴に、ゴム足のピンを挿入します。

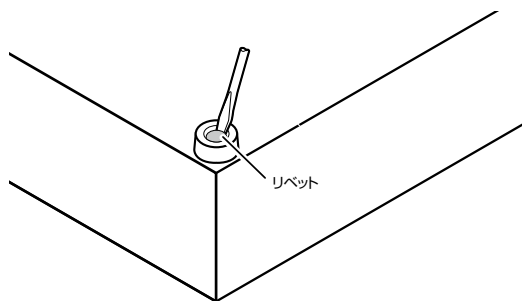


- 2 指でリベットの頭を押し込みます。リベットの先端が広がり、穴から抜けなくなります。

ゴム足の取りはずし

- 1 本体底面の7箇所に留められているゴム足をはずします。

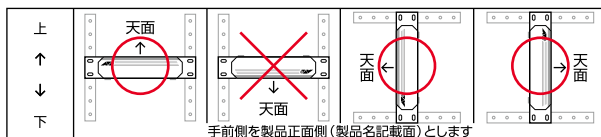
リベットの頭とゴム足の隙間に小型のマイナスドライバーを差し込み、リベットの頭をこじって頭を1～2mm抜いてください。固定が解除され、ゴム足がはずれます。



2.3 19 インチラックに取り付ける

同梱のラックマウントキットを使用して、EIA 規格の 19 インチラックに取り付けることができます。ブラケットは本体前面側または背面側のどちらにでも取り付けられます。

必ず下図の○の方向に設置してください。



・必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

・ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用してください。同梱以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。

・本製品を 19 インチラックへ取り付ける際は適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

・本製品を接地された 19 インチラックに搭載するときは、電源のアースは 19 インチラックと同電位の場所から取るようにしてください。

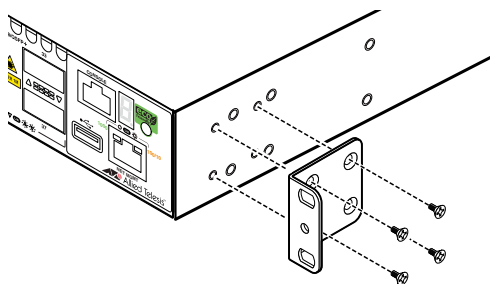
1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。

2 同梱の皿ネジを使用して、本体両側面にブラケットを取り付けます。

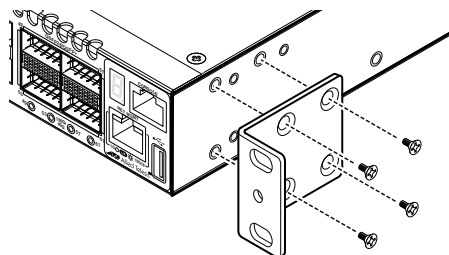
AT-x950-28XSQ・AT-x950-28XTQm : M3 × 6mm 皿ネジ

AT-x950-52XSQ・AT-x950-52XTQm : M4 × 8mm 皿ネジ

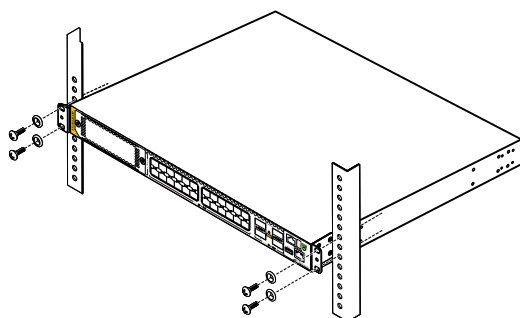
AT-x950-28XSQ・AT-x950-28XTQm



AT-x950-52XSQ・AT-x950-52XTQm



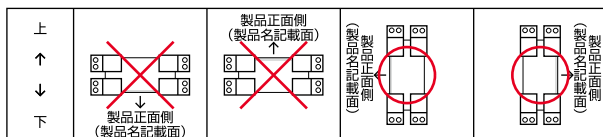
- 3** ラックに付属のネジを使用して、19インチラックに本製品を取り付けます。



2.4 壁面に設置する

同梱のウォールマウントキットを使用して、壁面に取り付けことができます。

必ず下図の○の方向に設置してください。



- 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用してください。同梱以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。
- 本製品を壁面へ取り付ける際は適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

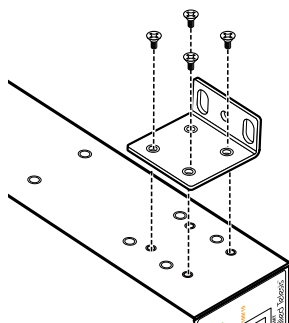


- 本製品に壁面への取り付け用ネジは同梱されていません。壁面の強度などをご確認のうえ、適切な長さや太さのネジを別途ご用意ください。壁面への取り付けには4個のネジが必要です。
- 壁面に設置する際は、本製品からゴム足ははずした状態で設置してください。

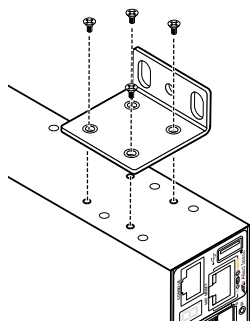
1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。

2 同梱のM3×6mm 皿ネジを使用して、本体両側面の前面側と背面側にブラケットを取り付けます。

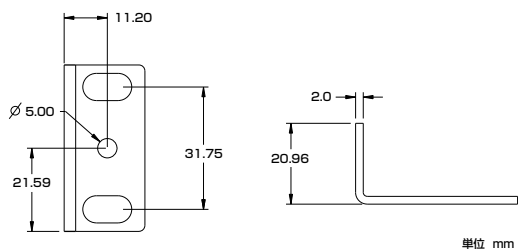
AT-x950-28XSQ・AT-x950-28XTQm



AT-x950-52XSQ・AT-x950-52XTQm



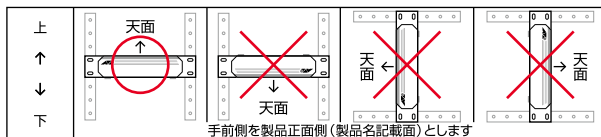
- 3 ブラケットの中央のネジ穴を用いて、壁面に固定してください。壁面の強度が弱いなどの場合は、落下しないようブラケットの上下の穴も使用し確実に壁面に固定してください。



2.5 オプションを利用して設置する

本製品は、オプション（別売）の19インチスライディングラックマウントキット「AT-RKMT-SL01」を使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。19インチラック内で製品を前後にスライドさせることができるため、ケーブル類がおさまりにやすく、保守作業がしやすい位置への設置が可能になります。取り付け方法については、「AT-RKMT-SL01」に付属の取扱説明書を参照してください。

必ず下図の○の方向に設置してください。



- ・ 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- ・ 本製品をオプションの19インチラックマウントキットを使用して19インチラックに取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。
- ・ 本製品へのラックマウントキットの取り付けは、ラックマウントキットの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。
- ・ 本製品を接地された19インチラックに搭載するときは、電源のアースは19インチラックと同電位の場所から取るようにしてください。

2.6 電源ユニットを取り付ける

電源ユニットの取り付け方を説明します。

本製品には、オプション（別売）で以下の電源ユニットが用意されています。

AT-PWR600-70	AC電源ユニット
AT-PWR600-80	DC電源ユニット
AT-PWR600R-70	AC電源ユニット リバースエアフロー
AT-PWR600R-80	DC電源ユニット リバースエアフロー



静電気の放電を避けるため、電源ユニット取り付け・取りはずしの際には、ESD リストストラップをするなど静電防止対策を行ってください。



- ・ AC電源ユニットとDC電源ユニットを併用することはできません。
- ・ 電源ユニットスロットのカバーパネルは、電源ユニットを装着するとき以外、はずさないようにしてください。空きスロットにカバーパネルを取り付けておくことで、シャーシの通気が適切に行われます。
- ・ 二重化された電源ユニットは、通電していない状態ではCLIのshow systemコマンド（非特権EXECモード）上で認識されず、ホットスワップを示すメッセージも表示されません。電源ケーブルを接続して電力が供給されると、CLIのshow systemコマンド（非特権EXECモード）上で認識され、ホットスワップを示すメッセージが表示されます。
- ・ リバースエアフローは、電源ユニット リバースエアフロー（AT-PWR600R-70またはAT-PWR600R-80）とスเปアファンモジュール リバースエアフロー（AT-FAN05R）の組み合わせでのみ動作します。リバースエアフロー使用時は、必ず標準装備またはスเปアファンモジュール（AT-FAN05）2台を取りはずし、スเปアファンモジュール リバースエアフロー（AT-FAN05R）を2台を取り付けてください。



- ・ 電源ユニットはホットスワップ対応のため、二重化構成時はシステムの電源を切らずに交換できます。
- ・ 電源ユニットスロットのPSU A（左）とPSU B（右）に機能的な違いはありません。どちらのスロットに装着しても電源ユニットの動作は同じです。
電源ユニットを1台だけ装着する場合は、カバーパネルが取り付けられていないPSU A（左）に装着するようにしてください。
- ・ オプションのL字型コネクター電源ケーブルを使用する場合：
AT-PWRCBL-J01Lの電源ケーブルの向きは下方向、AT-PWRCBL-J01Rの電源ケーブルの向きは上方向に突出し1Uの高さを超えますのでご注意ください。また、電源ケーブル抜け防止フックは使用できません。

2.6 電源ユニットを取り付ける

電源ユニットの取り付けかた

- 1 電源ユニットをPSU A(左)のスロットに差し込みカチッと音がするまでゆっくりと押し込みます。
- 2 電源を二重化するために、電源ユニットをPSU B(右)側に取り付ける場合は、カバーパネルの取りはずし用つまみをつまみながら引き抜いた後に、電源ユニットをPSU B(右)側に差し込みカチッと音がするまでゆっくりと押し込んでください。カバーパネルは、本製品の保管や移送にも必要になりますので、大切に保管してください。



注意 スロットに押し込む際には、ハンドルを持つようにして、指をはさまないよう充分注意してください。

2.7 ファンモジュールを取り付ける

ファンモジュールの取り付け方を説明します。

ファンモジュールはシャーシに2台標準装備されています。

本製品には、オプション（別売）で以下のファンモジュールが用意されています。

AT-FAN05	スベアファンモジュール
AT-FAN05R	スベアファンモジュール リバースエアフロー

ファンモジュールを交換する際に、本手順を参照してください。



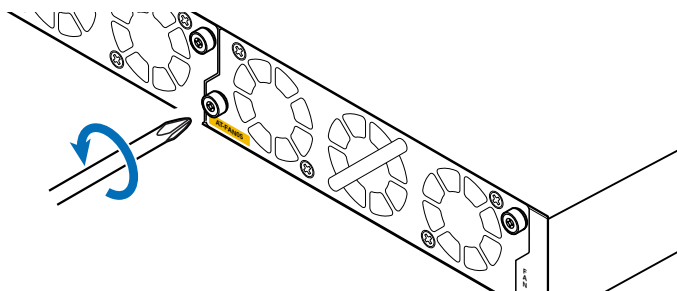
静電気の放電を避けるため、ファンモジュール取り付け・取りはずしの際には、ESD リストストラップをするなど静電防止対策を行ってください。



- ・ ファンモジュールはホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本体の電源を切る必要はありません。ただし、ホットスワップを行う際は、長時間ファンモジュールをはずした状態にしないでください。
- ・ リバースエアフローは、電源ユニット リバースエアフロー（AT-PWR600R-70またはAT-PWR600R-80）とスベアファンモジュール リバースエアフロー（AT-FAN05R）の組み合わせでのみ動作します。リバースエアフロー使用時は、必ず標準装備またはスベアファンモジュール（AT-FAN05）2台を取りはずし、スベアファンモジュール リバースエアフロー（AT-FAN05R）を2台を取り付けてください。

ファンモジュールの取り付けかた

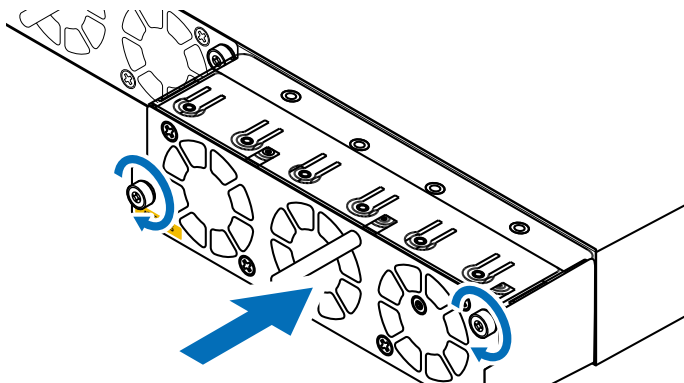
- 1 装着済みのファンモジュールの拘束ネジをドライバーでゆるめます。



- 2 ハンドルを持って、ファンモジュールをゆっくりと引き出します。

2.7 ファンモジュールを取り付ける

- 3** ファンモジュールをスロットに差し込み、ファンモジュールの前面パネルがシャーシの背面パネルとそろう位置までゆっくりと押し込みます。



- 4** ファンモジュールの拘束ネジをドライバーでしめます。
- 5** 以上でファンモジュールの取り付けが完了しました。

2.8 SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 を取り付ける

SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28の取り付け方を説明します。

本体各スロット、AT-XEM2-12XS、AT-XEM2-12XS v2、AT-XEM2-8XSTm、AT-XEM2-4QS、AT-XEM2-1CQにはオプション（別売）で以下のSFP/SFP+/QSFP+/QSFP28が用意されています。

SFP/SFP+スロット、AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-12XS v2・AT-XEM2-8XSTmオプション

SFPモジュール	
AT-SPTXa	1000BASE-T (RJ-45)
AT-SPTXc	1000BASE-T (RJ-45)
AT-SPSX	1000BASE-SX (2連LC)
AT-SPSX2	1000M MMF (2km) (2連LC)
AT-SPLX10	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX10a	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX10/I	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX40	1000M SMF (40km) (2連LC)
AT-SPLX40/I	1000M SMF (40km) (2連LC)
AT-SPZX80	1000M SMF (80km) (2連LC)
AT-SPZX120/I	1000M SMF (120km) (2連LC)
AT-SPBDM-A・AT-SPBDM-B	1000M MMF (550m) (LC)
AT-SPBD10-13・AT-SPBD10-14	1000BASE-BX10 (LC)
AT-SPBD10/I-13・AT-SPBD10/I-14	1000BASE-BX10 (LC)
AT-SPBD40-13/I・AT-SPBD40-14/I	1000M SMF (40km) (LC)
AT-SPBD80-A・AT-SPBD80-B	1000M SMF (80km) (LC)

SFP+モジュール	
AT-SP10T	1000/10GBASE-T (RJ-45)
AT-SP10Ta (Rev.C以降) ^{※1}	1000/10GBASE-T (RJ-45)
AT-SP10TM ^{※2}	1000/2.5G/5G/10GBASE-T (RJ-45)
AT-SP10SR	10GBASE-SR (2連LC)
AT-SP10LR	10GBASE-LR (2連LC)
AT-SP10LRa/I	10GBASE-LR (2連LC)
AT-SP10ER40/I	10GBASE-ER (2連LC)
AT-SP10ER40a/I	10GBASE-ER (2連LC)
AT-SP10ZR80/I	10G SMF (80km) (2連LC)
AT-SP10BD10/I-12・AT-SP10BD10/I-13	10G SMF (10km) (LC)
AT-SP10BD20-12・AT-SP10BD20-13	10G SMF (20km) (LC)
AT-SP10BD40/I-12・AT-SP10BD40/I-13	10G SMF (40km) (LC)
AT-SP10TW1	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (1m)
AT-SP10TW3	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (3m)
AT-SP10TW7 ^{※3 ※4}	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (7m)

※1 AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-12XS v2・AT-XEM2-8XSTmでの接続は未サポート。

※2 AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-8XSTmでの接続は未サポート。AT-XEM2-12XS v2でAT-SP10TMを使用する場合はノーマルエアフローでのみサポートとなります。

※3 (AT-x950-52XSQ) AT-SBx81XS16・AT-SBx81XLEM/XS8との接続は未サポート。

※4 (AT-XEM2-12XS v2・AT-XEM2-8XSTm) XEM2カード同士 (AT-XEM2-12XT・AT-XEM2-12XS v2・AT-XEM2-8XSTm) での接続のみサポート。

2.8 SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 を取り付ける

AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-12XS v2・AT-XEM2-8XSTm オプション

SFP モジュール	
AT-SP10BD80/I-14・AT-SP10BD80/I-15	10G SMF (80km) (LC)

QSFP+ スロット、AT-XEM2-4QS オプション

QSFP+ モジュール	
AT-QSFPSR	40GBASE-SR4 (MPO)
AT-QSFPSR4 (Rev.B以降)	40GBASE-SR4 (MPO)
AT-QSFPSR4LC	40G MMF (440m) (2連LC)
AT-QSFPLR4	40GBASE-LR4 (2連LC)
AT-QSFPER4	40GBASE-ER4 (2連LC)
AT-QSFP1CU	QSFP+ダイレクトアタッチケーブル (1m)
AT-QSFP3CU	QSFP+ダイレクトアタッチケーブル (3m)
AT-QSFP-4SFP10G-3CU	QSFP+-4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル (3m)
AT-QSFP-4SFP10G-5CU	QSFP+-4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル (5m)
AT-QSFPSR 用 光ファイバーケーブル	
ET3-MPO08-4LC-5	ブレイクアウト光ファイバーケーブル (5m)
ET3-MPO08-4LC-10	ブレイクアウト光ファイバーケーブル (10m)

QSFP28 スロット、AT-XEM2-1CQ オプション

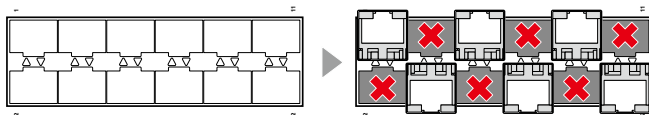
QSFP28 モジュール	
AT-QSFP28SR4	100GBASE-SR4 (MPO)
AT-QSFP28LR4 ^{※5}	100GBASE-LR4 (2連LC)
AT-QSFP28ZR4 ^{※5}	100G SMF (2連LC)
AT-QSFP28-1CU	QSFP28ダイレクトアタッチケーブル (1m)
AT-QSFP28-3CU	QSFP28ダイレクトアタッチケーブル (3m)

※5 本製品の QSFP28 スロットで AT-QSFP28LR4/AT-QSFP28ZR4 を使用する場合は、該当ポートに fec コマンド (インターフェースモード) の fec cl91 パラメーターを設定し、前方誤り訂正 (FEC) を明示的に有効化してください。また対向機器でも FEC を有効に設定してください。



- ・弊社販売品以外の SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 では動作保証をいたしませんのでご注意ください。
- ・SFP+/QSFP+ダイレクトアタッチケーブル、QSFP+-4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル、QSFP28ダイレクトアタッチケーブル (以下 ダイレクトアタッチケーブル) は、弊社製品同士での接続のみサポート対象となり、他社製品との接続はサポート対象外となります。他社製品との接続が必要な場合は、ダイレクトアタッチケーブル以外の SFP+/QSFP+/QSFP28 モジュールを用いて、事前に十分な検証を行ったうえで接続するようにしてください。
- ・QSFP+-4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブルの QSFP+コネクタ側は、弊社製品での使用のみをサポートしています。接続製品についての詳細は、弊社ホームページをご参照ください。
- ・(QSFP+スロット) AT-QSFPSR を 10Gbps × 4 スイッチポートとして使用する場合は、弊社販売品のブレイクアウト光ファイバーケーブル [ET3-MPO08-4LC-5/10] をご使用ください。

- ・ (QSFP+ スロット) ET3-MP008-4LC-5、ET3-MP008-4LC-10はAT-QSFPSR用の光ファイバーケーブルです。AT-QSFPSR4、AT-QSFP28SR4での使用はサポート対象外ですのでご注意ください。
- ・ (SFP/SFP+ スロット) AT-SPTXa、AT-SPTXcは1000Mでの接続のみサポートしています。10/100Mで使用することはできませんのでご注意ください。
- ・ (SFP/SFP+ スロット) AT-SP10T・AT-SP10Ta・AT-SP10TMを装着する場合は、上下左右に隣接するSFP/SFP+ スロットを空きスロットにしてください。全SFP/SFP+ スロットのうち、半数のSFP/SFP+ スロットにのみ搭載可能です(AT-x950-28XSQは最大12個、AT-x950-52XSQは最大24個、拡張モジュールAT-XEM2-12XS、AT-XEM2-12XS v2はAT-SP10Tを最大6個、AT-XEM2-8XSTmはAT-SP10Tを最大2個)。



- ・ (QSFP28 スロット) AT-QSFP28ZR4を2本使用した場合、残り2スロットの使用はできません。また、QSFP28ダイレクトアタッチケーブルと併用する場合は、AT-QSFP28ZR4を使用している上下のスロットでQSFP28ダイレクトアタッチケーブルの使用はできません。



- ・ 各スイッチポートは、設定によってVCS用のスタックポートとして使用できます。CLI上でVCS機能を有効にし、スタックポートに設定することでスタックポートに、スタックポートの設定を解除、またはVCS機能を無効に設定するとスイッチポートになります。VCS機能は初期設定で無効化されています。
なお、VCS機能およびスタックポート設定の反映には、システムの再起動が必要になります。
- ・ SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28の仕様については、各製品に付属または弊社ホームページに掲載のインストレーションガイドを参照してください。

SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 の取り付けかた



- ・ 静電気の放電を避けるため、SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 取り付け・取りはずしの際には、ESD リストストラップをするなど静電防止対策を行ってください。
- ・ (SFP/SFP+ スロット) SFP/SFP+ はクラス1 レーザー製品です。本製品装着時に光ファイバーケーブルやコネクタをのぞきこまないでください。目に傷害を被る場合があります。
- ・ (QSFP+ スロット) AT-QSFPSR4、AT-QSFPLR4、AT-QSFPER4はクラス1 レーザー製品、AT-QSFPSR、AT-QSFPSR4LCはクラス1M レーザー製品です。本製品装着時に光ファイバーケーブルやコネクタをのぞきこまないでください。特に、光学器具(ルーペ、拡大鏡など)を用いてレーザー光を観察すると、目に傷害を被る場合があります。
- ・ (QSFP28 スロット) AT-QSFP28LR4はクラス1 レーザー製品、AT-QSFP28SR4はクラス1M レーザー製品です。本製品装着時に光ファイバーケーブルやコネクタをのぞきこまないでください。特に、光学器具(ルーペ、拡大鏡など)を用いてレーザー光を観察すると、目に傷害を被る場合があります。

2.8 SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 を取り付ける

- ・ SFP+/QSFP+ダイレクトアタッチケーブル、QSFP+4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル、QSFP28ダイレクトアタッチケーブル（以下、ダイレクトアタッチケーブル）を介して接続される機器のアースは、必ず同電位の場所に接続するようにしてください。アースの電位が異なる機器同士をダイレクトアタッチケーブルで接続すると、ショートや故障の原因となる恐れがあります。



- ・ SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 に付属のダストカバーは、SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 を使用するとき以外、はずさないようにしてください。
- ・ SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 を取りはずしてから再度取り付ける場合は、しばらく間をあけてください。
- ・ SFP/SFP+/QSFP+/（AT-XEM2-1CQ 上での）QSFP28 はホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本体の電源を切る必要はありません。本体の QSFP+/QSFP28 スロットのみ、QSFP28 モジュール挿入後にシステムの再起動を行う必要があります。異なる種類（型番）のモジュールに変更する際も、システムの再起動を行う必要があります。



- ・ （SFP/SFP+ スロット）SFP/SFP+ には、スロットへの固定・取りはずし用にハンドルが付いているタイプとボタンが付いているタイプがあります。形状は異なりますが、機能的には同じものです。

取り付け

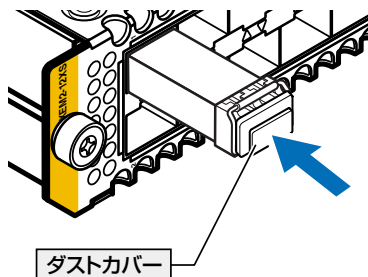
AT-XEM2-12XS を例に説明します。

○ SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 モジュール

- 1 SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 の両脇を持ってスロットに差し込み、カチッとハマるまで押し込みます。ハンドルが付いているタイプはハンドルを上げた状態（SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 に沿わせた状態）で差し込んでください。



- ・ （QSFP+/QSFP28 スロット）本体の QSFP+/QSFP28 スロットに QSFP+/QSFP28 を装着する際の向きは、上列と下列で同じになります。
- ・ （SFP/SFP+ スロット）奇数番号のスロットには、SFP/SFP+ を下図で示す向きに装着してください。偶数番号のスロットでは装着する向きが上下逆になります。



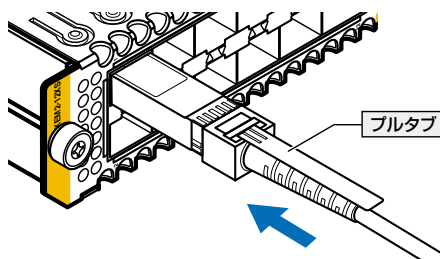
- 2 SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 にダストカバーが付いている場合は、ダストカバーをはずします。

○ SFP+/QSFP+ダイレクトアタッチケーブル、QSFP+-4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル、QSFP28ダイレクトアタッチケーブル

- 1 コネクターの両脇を持ってスロットに差し込み、カチッとハマるまで押し込みます。このとき、スロットにブルタブが巻き込まれないように注意してください。



- ・ (QSFP+/QSFP28スロット) 本体のQSFP+/QSFP28スロットにQSFP+/QSFP28を装着する際の向きは、上列と下列で同じになります。
- ・ (SFP/SFP+スロット) 奇数番号のスロットには、SFP/SFP+を下図で示す向きに装着してください。偶数番号のスロットでは装着する向きが上下逆になります。



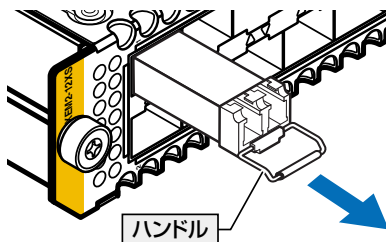
- 2 同様の手順で、ケーブルの反対側のコネクタを、もう1台の機器のスロットに接続します。

取りはずし

AT-XEM2-12XSを例に説明します。

○ SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28モジュール

- 1 各ケーブルをはずします。ボタンが付いているタイプはボタンを押して、ハンドルが付いているタイプはハンドルを下げて (SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28から離れた状態にして)、スロットへの固定を解除します。

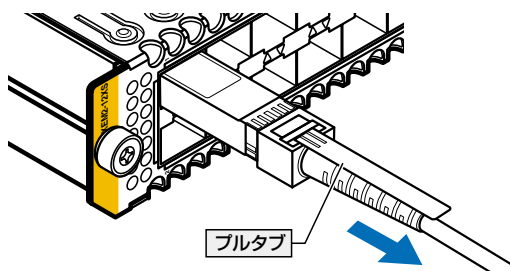


- 2 SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28の両脇を持ってスロットから引き抜きます。

2.8 SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 を取り付ける

○ SFP+/QSFP+ダイレクトアタッチケーブル、QSFP+-4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル、QSFP28ダイレクトアタッチケーブル

- 1 コネクター上部のプルタブを持って、スロットから手前にまっすぐ引き抜きます。



- 2 同様の手順で、ケーブルの反対側のコネクターをスロットから引き抜きます。

2.9 拡張モジュールを取り付ける

拡張モジュールの取り付け方を説明します。

AT-x950-28XSQ、AT-x950-28XTQmには、オプション（別売）で以下の拡張モジュールが用意されています。

AT-XEM2-12XT	100/1000/10GBASE-Tポート×12
AT-XEM2-12XTm	100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポート×12
AT-XEM2-12XS	SFP/SFP+スロット×12
AT-XEM2-12XS v2	SFP/SFP+スロット×12
AT-XEM2-8XSTm	100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポート×4 SFP/SFP+スロット×4
AT-XEM2-4QS	QSFP+スロット×4
AT-XEM2-1CQ	QSFP28スロット×1



・ 上記以外の拡張モジュールは使用できませんのでご注意ください。

注意

- ・ (AT-XEM2-12XT・AT-XEM2-12XTm・AT-XEM2-8XSTm) AT-XEM2-12XTは100M/1000M/10G Full Duplex、AT-XEM2-12XTm、AT-XEM2-8XSTm（ポート1～4）は100M/1000M/2.5G/5G/10G Full Duplexでの通信のみサポートしています。オートネゴシエーションまたは固定設定にかかわらず、100M Half Duplexで使用することはできませんのでご注意ください。
- ・ (AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-8XSTm) SFP+モジュール AT-SP10Ta・AT-SP10TMの接続は未サポートです。
- ・ (AT-XEM2-12XS v2) SFP+モジュール AT-SP10Taの接続は未サポートです。AT-XEM2-12XS v2でAT-SP10TMを使用する場合はノーマルエアフローでのみサポートとなります。

拡張モジュールの取り付けかた



警告 静電気の放電を避けるため、拡張モジュール取り付け・取りはずしの際には、ESD リストストラップをするなど静電防止対策を行ってください。



- ・ 拡張モジュールスロットのカバーパネルは、拡張モジュールを装着するとき以外、はずさないようにしてください。カバーパネルを取り付けておくことで、シャーシの通気が適切に行われます。
- ・ 拡張モジュールはホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本体の電源を切る必要はありません。ただし、ホットスワップを行う際は、以下の点にご確認ください。
 - ・ AT-XEM2-12XS / AT-XEM2-12XS v2 / AT-XEM2-8XSTm / AT-XEM2-4QS / AT-XEM2-1CQをホットスワップするときは、拡張モジュールからSFP/SFP+/QSFP+/QSFP28をすべて取りはずした状態で、拡張モジュールの取りはずし・取り付けを行ってください。
 - ・ AT-XEM2-1CQが取り付けられていたスロットに異なる種類（型番）の拡張モジュールを取り付けるとき、または、異なる種類（型番）の拡張モジュールが取り付けられていたスロットにAT-XEM2-1CQを取り付けるときは、システムを再起動してください。また、シャーシを起動してから使用されていないスロットにAT-XEM2-1CQを取り付けるときも、システムを再起動してください。

2.9 拡張モジュールを取り付ける

- 拡張モジュールのホットスワップは、CLIに表示されるメッセージを確認しながら行ってください。取りはずし完了時、取り付け完了時に以下のメッセージが表示されます。これらのメッセージが表示されてから、次の作業に移ってください。

取りはずし完了メッセージ

Removal event on bay A.B has been completed

取り付け完了メッセージ

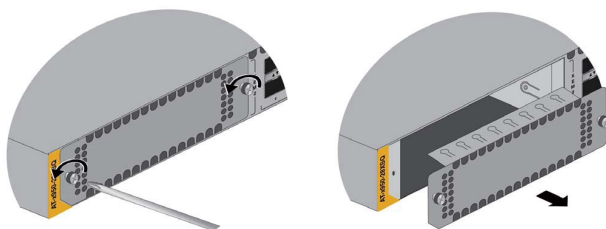
Configuration update completed for portA.B.Y-portA.B.Z

拡張モジュールのホットスワップ後に、SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28の取り付けやケーブルの接続を行う場合も、取り付け完了のメッセージを確認してから実施してください。

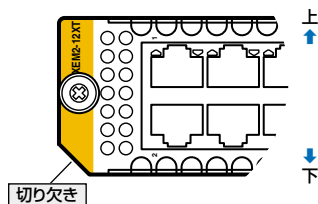
- 拡張モジュールを取りはずした後、すぐに取り付けた場合に以下のメッセージが表示され、拡張モジュールが正しく認識されないことがあります。この場合は、メッセージに従い、一度拡張モジュールを取りはずしてから、再度取り付けるようにしてください。

Unable to initialize XEM in bay 1. Please remove and re-insert the XEM.

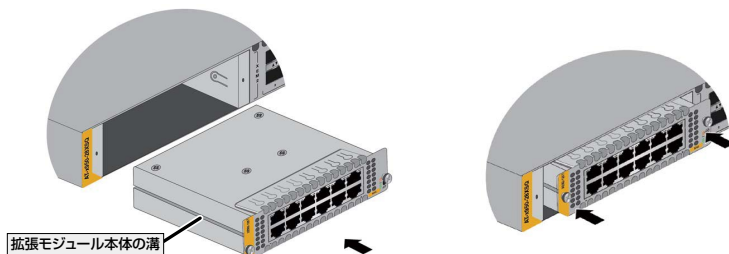
- カバーパネルを取りはずします。拡張モジュールの拘束ネジをドライバーでゆるめ、拘束ネジを持ってカバーパネルを引き出します。カバーパネルは、本製品の保管や移送にも必要になりますので、大切に保管してください。



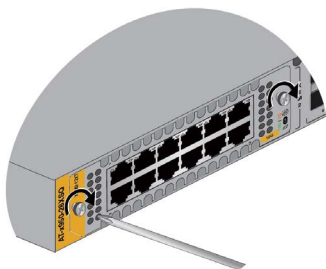
- 拡張モジュールを装着する向きを確認します。
前面パネルの一角にある切り欠きが左下になるようにしてください。



- 3** 拡張モジュール本体の左右には溝があり、スロット内の左には突起状のレールがあります(ここでは、ガイドレールと呼びます)。
拡張モジュール本体の溝をガイドレールにはめるようにしながら、拡張モジュールをスロットに差し込みます。



- 4** 拡張モジュールの前面パネルがシャーシの前面パネルとそろう位置までゆっくりと押し込みます。
ホットスワップ時には、CLIに取り付け完了メッセージが表示されることを確認してください。
- 5** 拡張モジュールの拘束ネジをドライバーでしめます。



- 6** 以上で拡張モジュールの取り付けが完了しました。

拡張モジュールを取りはずす際は、拘束ネジをドライバーでゆるめ、拘束ネジを持ってゆっくりと引き出します。

2.10 ネットワーク機器を接続する

本製品にコンピューターや他のネットワーク機器を接続します。

ケーブル

使用ケーブルと最大伝送距離は以下のとおりです。

ポート	使用ケーブル		最大伝送距離	
10/100/1000BASE-T ・AT-x950-28XSQ ^{*1} ・AT-x950-52XSQ ^{*1} ・AT-SPTXa ^{*2} ・AT-SPTXc ^{*2}	10BASE-T	UTP カテゴリー 3 以上	100m	
	100BASE-TX	UTP カテゴリー 5 以上		
	1000BASE-T	UTP エンハンスド・カテゴリー 5 以上		
100/1000/10GBASE-T ・AT-XEM2-12XT ^{*3}	100BASE-TX	UTP カテゴリー 5 以上	100m	
	1000BASE-T	UTP エンハンスド・カテゴリー 5 以上	55m	
	10GBASE-T ^{*5}	STP カテゴリー 6	100m	
		UTP/STP カテゴリー 6A		
100/1000/2.5G/5G/10GBASE-T ・AT-XEM2-12XTm ^{*3} ・AT-XEM2-8XSTm ^{*3} ・AT-x950-28XTQm ^{*3} ・AT-x950-52XTQm ^{*3}	100BASE-TX	UTP カテゴリー 5 以上	100m	
	1000BASE-T	UTP エンハンスド・カテゴリー 5 以上		
	2.5GBASE-T ^{*4}			
	5GBASE-T ^{*4}	100m		
	10GBASE-T ^{*5}		UTP カテゴリー 6	55m
			STP カテゴリー 6	100m
UTP/STP カテゴリー 6A				
1000/10GBASE-T ・AT-SP10T	1000BASE-T	UTP エンハンスド・カテゴリー 5 以上	100m	
	10GBASE-T ^{*5}	UTP/STP カテゴリー 6A	20m	
		STP カテゴリー 7		
1000/10GBASE-T ・AT-SP10Ta ^{*6} (Rev.C以降)	1000BASE-T	UTP エンハンスド・カテゴリー 5 以上	100m	
	10GBASE-T ^{*4}	UTP/STP カテゴリー 6A		
		STP カテゴリー 7		
1000/2.5G/5G/10GBASE-T ・AT-SP10TM ^{*7}	1000BASE-T	UTP エンハンスド・カテゴリー 5 以上	100m	
	2.5GBASE-T ^{*4}			
	5GBASE-T ^{*4}			
	10GBASE-T ^{*4}	UTP/STP カテゴリー 6A		100m
STP カテゴリー 7				
1000BASE-SX ・AT-SPSX	GI 50/125 マルチモードファイバー		550m(伝送帯域 500MHz・km時)	
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー		275m(伝送帯域 200MHz・km時)	
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPSX2	GI 50/125 マルチモードファイバー		1km	
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー		2km	
1000BASE-LX ・AT-SPLX10 ・AT-SPLX10a	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		10km	
	GI 50/125 マルチモードファイバー ^{*8}		550m(伝送帯域 500MHz・km時)	
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー ^{*8}			
1000BASE-LX ・AT-SPLX10/I	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		10km	
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPLX40 ・AT-SPLX40/I	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		40km	

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
長距離用 1000Mbps 光 ・ AT-SPZX80	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	80km ^{*9}
長距離用 1000Mbps 光 ・ AT-SPZX120/I	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	120km ^{*9}
1 心双方向 1000Mbps 光 ・ AT-SPBDM-A・B	GI 50/125 マルチモードファイバー GI 62.5/125 マルチモードファイバー	550m
1000BASE-BX10 ・ AT-SPBD10-13・14 ・ AT-SPBD10/I-13・14	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
1 心双方向 1000Mbps 光 ・ AT-SPBD40-13/I・14/I	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	40km
1 心双方向 1000Mbps 光 ・ AT-SPBD80-A・B	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	80km ^{*9}
10GBASE-SR ・ AT-SP10SR	GI 50/125 マルチモードファイバー	66m (伝送帯域 400MHz・km 時)
		82m (伝送帯域 500MHz・km 時)
		300m (伝送帯域 2000MHz・km 時)
		400m ^{*11} (伝送帯域 4700MHz・km 時)
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	26m (伝送帯域 160MHz・km 時) 33m (伝送帯域 200MHz・km 時)
10GBASE-LR ・ AT-SP10LR ・ AT-SP10LRa/I	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
10GBASE-ER ・ AT-SP10ER40/I ・ AT-SP10ER40a/I	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	40km
長距離用 10Gbps 光 ・ AT-SP10ZR80/I	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	80km ^{*9}
1 心双方向 10Gbps 光 ・ AT-SP10BD10/I-12・13	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
1 心双方向 10Gbps 光 ・ AT-SP10BD20-12・13	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	20km
1 心双方向 10Gbps 光 ・ AT-SP10BD40/I-12・13	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	40km
1 心双方向 10Gbps 光 ・ AT-SP10BD80/I-14・15 ^{*10}	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	80km ^{*9}
SFP+ ダイレクトアタッチケーブル		
・ AT-SP10TW1		1m
・ AT-SP10TW3		3m
・ AT-SP10TW7		7m
40GBASE-SR4 ・ AT-QSFPSR	GI 50/125 マルチモードファイバー	OM2 30m (伝送帯域 500MHz・km 時)
		OM3 100m (伝送帯域 2000MHz・km 時)
		OM4 150m (伝送帯域 4700MHz・km 時)
40GBASE-SR4 ・ AT-QSFPSR4 (Rev.B 以降)	GI 50/125 マルチモードファイバー	OM3 100m (伝送帯域 2000MHz・km 時)
		OM4 150m (伝送帯域 4700MHz・km 時)

2.10 ネットワーク機器を接続する

ポート	使用ケーブル		最大伝送距離
40Gbps 光 ・AT-QSFPsR4LC	GI 50/125 マルチモードファイバー	OM3	240m (伝送帯域2000MHz・km時)
		OM4	350m (伝送帯域4700MHz・km時)
		OM5	440m (伝送帯域 4700MHz・km@850nm 2470MHz・km@953nm時)
40GBASE-LR4 ・AT-QSFPsLR4	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		10km
40GBASE-ER4 ・AT-QSFPsER4	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		40km
AT-QSFPsR 用 ブレークアウト光ファイバーケーブル ^{*12}			
・ET3-MPO08-4LC-5	GI 50/125 マルチモードファイバー (OM3)		5m
・ET3-MPO08-4LC-10			10m
QSFP+ダイレクトアタッチケーブル			
・AT-QSFP1CU			1m
・AT-QSFP3CU			3m
100GBASE-SR4 ・AT-QSFP28SR4	GI 50/125 マルチモードファイバー	OM3	70m (伝送帯域2000MHz・km時)
		OM4	100m (伝送帯域4700MHz・km時)
100GBASE-LR4 ・AT-QSFP28LR4 ^{*13}	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		10km
長距離用 100Gbps 光 ・AT-QSFP28ZR4 ^{*13}	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		80km ^{*14}
QSFP+・4SFP+ ブレークアウトダイレクトアタッチケーブル			
・AT-QSFP-4SFP10G-3CU			3m
・AT-QSFP-4SFP10G-5CU			5m
QSFP28 ダイレクトアタッチケーブル			
・AT-QSFP28-1CU			1m
・AT-QSFP28-3CU			3m

- ※1 本製品のマネージメントポートは、10/100/1000M Full Duplexでの通信のみサポートしています。
- ※2 AT-SPTXa、AT-SPTXcは1000Mでの通信のみサポートしています。
- ※3 AT-XEM2-12XTは100M/1000M/10G Full Duplex、AT-x950-28XTQm・AT-x950-52XTQm・AT-XEM2-12XTm・AT-XEM2-8XSTm (ポート1～4)は100M/1000M/2.5G/5G/10G Full Duplexでの通信のみサポートしています。
- ※4 最大伝送距離は理論値であり、実際の伝送距離は使用環境によって異なります。
- ※5 最大伝送距離は理論値であり、実際の伝送距離は使用環境によって異なります。また、隣接したケーブルや外部からのノイズの影響を低減するため、STPケーブルの使用をおすすめします。
- ※6 AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-12XS v2・AT-XEM2-8XSTmでの接続は未サポートです。
- ※7 AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-8XSTmでの接続は未サポートです。AT-XEM2-12XS v2でAT-SP10TMを使用する場合はノーマルエアフローでのみサポートとなります。
- ※8 マルチモードファイバーを使用する際には、対応するモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。
- ※9 使用ケーブルの損失が0.25dB/km以下、分散が20ps/nm・kmの場合です。
- ※10 AT-x950-28XSQ、AT-x950-52XSQでの接続は未サポートです。
- ※11 ハードウェアリビジョンRev.G以降で対応しています。
- ※12 AT-QSFPsR4、AT-QSFP28SR4での使用はサポート対象外です。

- ※ 13 本製品の QSFP28 スロットで AT-QSFP28LR4/AT-QSFP28ZR4 を使用する場合は、該当ポートに fec コマンド (インターフェースモード) の fec cl91 パラメーターを設定し、前方誤り訂正 (FEC) を明示的に有効化してください。また対向機器でも FEC を有効に設定してください。
- ※ 14 使用ケーブルの損失が 0.35dB/km 以下の場合です。

接続のしかた



STP ケーブル、SFP+/QSFP+ダイレクトアタッチケーブル、QSFP+4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル、QSFP28ダイレクトアタッチケーブル (以下 ダイレクトアタッチケーブル) を介して接続される機器のアースは、必ず同電位の場所に接続するようにしてください。アースの電位が異なる機器同士を STP ケーブル、ダイレクトアタッチケーブルで接続すると、ショートや故障の原因となる恐れがあります。



SFP+/QSFP+ダイレクトアタッチケーブル、QSFP+4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル、QSFP28ダイレクトアタッチケーブルはモジュールとケーブルが一体型です。接続手順については、69 ページ「SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 を取り付ける」をご覧ください。

10/100/1000BASE-T・100/1000/2.5G/5G/10GBASE-T ポート

MDI/MDI-X 自動認識機能により、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

- 1 本製品の 10/100/1000BASE-T ポートまたは 100/1000/2.5G/5G/10GBASE-T ポートに UTP ケーブルの RJ-45 コネクタを差し込みます。
- 2 UTP ケーブルのもう一端の RJ-45 コネクタを接続先機器の 10/100/1000BASE-T ポートまたは 100/1000/2.5G/5G/10GBASE-T ポートに差し込みます。

1000/10GBASE-T ポート

○ 1000BASE-T

MDI/MDI-X 自動認識機能により、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

○ 10GBASE-T

MDI/MDI-X 自動認識機能により、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができますが、不要なトラブルを避けるため、ストレートタイプを使用することをおすすめします。

- 1 拡張モジュールの 1000/10GBASE-T ポートに UTP/STP ケーブルの RJ-45 コネクタを差し込みます。
- 2 UTP/STP ケーブルのもう一端の RJ-45 コネクタを接続先機器の 1000/10GBASE-T ポートに差し込みます。

2.10 ネットワーク機器を接続する

光ポート

光ファイバーケーブルは、SFP/SFP+、AT-QSFPSR4LC、AT-QSFPLR4、AT-QSFP28LR4、AT-QSFP28ZR4にはLCコネクタが装着されたものをご用意ください。

AT-SPBDシリーズ、AT-SP10BDシリーズ以外のSFP/SFP+、AT-QSFPSR4LC、AT-QSFPLR4、AT-QSFPER4、AT-QSFP28LR4、AT-QSFP28ZR4で使用する光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。本製品のTXを接続先の機器のRXに、本製品のRXを接続先の機器のTXに接続してください。

AT-SPBDシリーズ、AT-SP10BDシリーズは、送受信で異なる波長の光を用いるため、1本の光ファイバーケーブルで通信ができます。

AT-QSFPSR、AT-QSFPSR4、AT-QSFP28SR4の接続には、MPOコネクタが装着されたものをご用意ください。

- 1 本製品に装着したSFP/SFP+/QSFP+/QSFP28の光ポートに光ファイバーケーブルのコネクタを差し込みます。
- 2 光ファイバーケーブルのもう一端のコネクタを接続先機器側の光ポートに差し込みます。

2.11 スタック接続をする

VCS機能を利用して、スタック接続をする方法を説明します。

VCSは最大8台のスイッチのポート間をケーブルで接続することにより、仮想的に1台のスイッチとして動作させる機能です。

ここでは、VCSの物理構成における、具体的な接続手順と注意事項について説明します。VCSの初期設定から運用までの流れについては、「コマンドリファレンス」をご覧ください。



VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」に記載されています。ご使用の際は、必ず「コマンドリファレンス」の「バーチャルシャーシスタック (VCS)」をお読みになり内容をご確認ください。

また、ファームウェアのバージョンにより、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「コマンドリファレンス」でご確認ください。

用語解説

本製品のVCSの説明では、以下の用語を用います。

- **スタックモジュール (ファイバースタックモジュール、銅スタックモジュール)**
スタック接続に使用するSFP+/QSFP+/QSFP28のうち、光ファイバーケーブルタイプを「ファイバースタックモジュール」、UTPケーブルタイプおよびダイレクトアタッチケーブルタイプを「銅スタックモジュール」と呼びます。
「スタックモジュール」と表記している場合は、「ファイバースタックモジュール」と「銅スタックモジュール」の両方を意味します。
また、スタック接続に使用するモジュールの種別を添えて、「SFP+ファイバースタックモジュール」のように呼ぶこともあります。
- **VCSグループ、スタックメンバー**
VCS機能によって作られる仮想的なスイッチをVCSグループ、VCSグループを構成する個々のスイッチをスタックメンバーと呼びます。
- **スタックリンク、スタックポート**
スタック接続に使用するポートを「スタックポート」と呼びます。
隣接した2台のスタックメンバー間の接続を「スタックリンク」と呼びます。スタックリンクは、複数のスタックポートから構成されることもあり、例えば、通信速度40GbpsのQSFP+を2ポート使用して、80Gbpsの帯域幅を持つ1本のスタックリンクとして取り扱うことができます。

概要

VCSのおもな仕様は以下のとおりです。

- **スタック台数 (VCSグループあたり)**
8台 (マスター1台、スレーブ1～7台)
3台以上をスタックする場合、スタックリンクに冗長性を持たせ、耐障害性を高めるため、通常は偶数のポートを使用し、スタックリンクをリング状に接続することをおすすめします。

2.11 スタック接続をする

- スタックポート数（メンバーあたり）

ポート	通信速度	スタックポート数
AT-x950-28XSQ・AT-x950-52XSQ・AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-12XS・ AT-XEM2-12XS v2・AT-XEM2-8XSTm: SFP/SFP+ポート	10Gbps	最大8ポート
AT-XEM2-12XT: 100/1000/10GBASE-Tポート		
AT-x950-28XTQm・AT-x950-52XTQm・AT-XEM2-12XTm・AT-XEM2-8XSTm: 100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポート		
本体QSFP+/QSFP28ポート（40Gスタックモジュール使用時）	40Gbps	最大4ポート
AT-XEM2-4QS QSFP+ポート		
本体QSFP+/QSFP28ポート（100Gスタックモジュール使用時）	100Gbps	最大2ポート
AT-XEM2-1CQ QSFP28ポート		

- 任意のポートをスタックポートとして使用可能
本体、拡張モジュールの各スイッチポートは、設定によってVCS用のスタックポートとして使用できます。CLI上でVCS機能を有効にし、スタックポートに設定することでスタックポートに、スタックポートの設定を解除、またはVCS機能を無効に設定するとスイッチポートになります。VCS機能は初期設定で無効化されています。なお、VCS機能およびスタックポート設定の反映には、システムの再起動が必要になります。
- 同じ通信速度、同じメディアタイプのスタックポートを使用可能
VCSグループ内では、通信速度とメディアタイプが同じであれば接続できます。例えば、AT-x950-28XSQのSFP/SFP+スロット上のAT-SP10TとAT-x950-28XTQmの100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートを使用したスタック接続が可能です。また、伝送距離の異なるファイバースタックモジュールを混在して使用することもできます。
ただし、同じメディアタイプであっても、同一メンバー上で本体ポートと拡張モジュール上のポートを混在させるスタック接続はサポートしていません。
- スタックリンクの帯域幅は統一する
VCSグループ内では、すべてのスタックリンクの帯域幅を統一する必要があります。
- VCSグループはCentreCOM x950シリーズのみで構成する
他のVCSサポート製品との混在はできません。
- スタックポート間は直結させる
スタックポート間に他のネットワーク機器を接続することはできません。
- レジリエンシーリンクはカッパースタックモジュール・100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポート使用時は必須、ファイバースタックモジュール使用時は任意
レジリエンシーリンクとは、ヘルスチェックメッセージの送受信によって状態確認を行うための予備リンクです。レジリエンシーリンクを使用する場合は、各メンバーのマネージメントポート（eth0）か任意のスイッチポート1ポートをレジリエンシーリンクに設定し、適切なケーブルで接続します。レジリエンシーリンクの使用は、カッパースタックモジュールまたは100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポート使用時は必須、ファイバースタックモジュール使用時は任意となります。
なお、eth0をレジリエンシーリンクに設定している場合は、eth0を通常のマネージメントポートとしても使用することができます。スイッチポートをレジリエンシーリンクに設定している場合は、該当スイッチポートはレジリエンシーリンク専用となり、他の用途には使用できません。

対応インターフェースとケーブル

スタックポートとして使用可能なモジュールとポート、および使用ケーブルと最大伝送距離は以下のとおりです。

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
AT-XEM2-12XT・AT-XEM2-12XTm・AT-XEM2-8XSTm・AT-x950-28XTQm・AT-x950-52XTQm 使用時		
100/1000/10GBASE-Tポート・100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポート		
—	UTP カテゴリー 6	55m
	STP カテゴリー 6	100m
	UTP/STP カテゴリー 6A	100m
本体 SFP/SFP+ スロット、AT-XEM2-12XS・AT-XEM2-12XS v2・AT-XEM2-8XSTm 使用時		
10G ファイバースタックモジュール		
AT-SP10SR	GI 50/125 マルチモードファイバー	66m (伝送帯域 400MHz・km 時)
		82m (伝送帯域 500MHz・km 時)
		300m (伝送帯域 2000MHz・km 時)
		400m ^{*1} (伝送帯域 4700MHz・km 時)
	GI 50/125 マルチモードファイバー	26m (伝送帯域 160MHz・km 時) 33m (伝送帯域 200MHz・km 時)
AT-SP10LR AT-SP10LRa/I	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
AT-SP10ER40/I AT-SP10ER40a/I	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	40km
AT-SP10ZR80/I	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	80km
AT-SP10BD10/I-12 AT-SP10BD10/I-13	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
AT-SP10BD20-12 AT-SP10BD20-13	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	20km
AT-SP10BD40/I-12 AT-SP10BD40/I-13	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	40km
10G カッパースタックモジュール		
AT-StackXS/1.0		1m
AT-SP10T	UTP カテゴリー 6A	20m
	STP カテゴリー 6A	
	STP カテゴリー 7	
AT-SP10TW1		1m
AT-SP10TW3		3m
AT-SP10TW7		7m

2.11 スタック接続をする

ポート	使用ケーブル		最大伝送距離
本体 QSFP+/QSFP28 スロット、AT-XEM2-4QS 使用時			
40G ファイバースタックモジュール			
AT-QSFPSR	GI 50/125 マルチモードファイバー	OM2	30m (伝送帯域 500MHz・km 時)
		OM3	100m (伝送帯域 2000MHz・km 時)
		OM4	150m (伝送帯域 4700MHz・km 時)
AT-QSFPSR4 (Rev.B以降)	GI 50/125 マルチモードファイバー	OM3	100m (伝送帯域 2000MHz・km 時)
		OM4	150m (伝送帯域 4700MHz・km 時)
AT-QSFLR4	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		10km
AT-QSFPER4			40km
40G カッパースタックモジュール			
AT-QSFP1CU			1m
AT-QSFP3CU			3m
本体 QSFP+/QSFP28 スロット、AT-XEM2-1CQ 使用時			
100G ファイバースタックモジュール			
AT-QSFP28SR4	GI 50/125 マルチモードファイバー	OM3	70m (伝送帯域 2000MHz・km 時)
		OM4	100m (伝送帯域 4700MHz・km 時)
AT-QSFP28LR4	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		10km
AT-QSFP28ZR4	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		80km
100G カッパースタックモジュール			
AT-QSFP28-1CU			1m
AT-QSFP28-3CU			3m

※ 1 ハードウェアリビジョン Rev.G 以降で対応しています。

接続のしかた

以下の説明では、電源ユニットといった必要なコンポーネントは、各シャーシに取り付けられているものとします。なお、電源ユニット、拡張モジュール、SFP+/QSFP+/QSFP28 モジュールの取り付けかたや注意事項については、下記を参照してください。AT-StackXS/1.0 については、ダイレクトアタッチケーブルと同じ手順で取り付け・取りはずしを行います。

 65 ページ「電源ユニットを取り付ける」

 75 ページ「拡張モジュールを取り付ける」

 69 ページ「SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28 を取り付ける」

- 7 VCS グループを構築するのに必要な機材を手元に準備してください。例として、AT-x950-28XSQ 2台でQSFP+ スタックモジュールを使用してVCS グループを構築する場合に必要な機材を次に記します。

スタックメンバーになるシャーシ		2台
拡張モジュールを使用して構築する場合		2台
ファイバースタックモジュール使用時		
QSFP+モジュール	2ポート接続の場合	4個
	4ポート接続の場合	8個
光ファイバークーブル	2ポート接続の場合	2本
	4ポート接続の場合	4本
銅スタックモジュール使用時		
QSFP+ダイレクトアタッチケーブル	2ポート接続の場合	2個
	4ポート接続の場合	4個
レジリエンシーリンク用の機材		
マネージメントポート (eth0) 使用時	UTPケーブル	1本
スイッチポート使用時	拡張モジュールを使用する場合	2台
	(本体、AT-XEM2-12XS/AT-XEM2-12XS v2/ AT-XEM2-8XSTm/AT-XEM2-4QS/AT-XEM2-1CQ) SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28モジュールのいずれか	2個*
	UTPケーブルまたは光ファイバークーブル	1本*

※ SFP+/QSFP+ダイレクトアタッチケーブルの場合は1個(ケーブルは不要)

- 2 スタックメンバーとなるシャーシを用意したら、最初に各シャーシを単体で起動し、以下の作業を行ってください。

- ・ファームウェアバージョンの確認と統一
- ・スタートアップコンフィグの確認とバックアップ
- ・VCS機能とスタックポートの有効化
- ・スタックメンバー IDの設定
- ・スタートアップコンフィグの保存
- ・フィーチャーライセンスの確認と統一

 91 ページ「AC電源に接続する」

 93 ページ「DC電源に接続する」

- 3 手順2の初期設定が完了したら、各シャーシの電源を切ります。

- 4 スタックモジュールを使用する場合は、シャーシにスタックモジュールを取り付けます。

 69 ページ「SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28を取り付ける」

- 5 各シャーシを適切なケーブルで接続し、スタックリンクを形成します。
シャーシ間の配線については、83ページの「概要」、および、コマンドリファレンスを参考にしてください。
また、各ケーブルの接続方法については、78ページの「ネットワーク機器を接続する」を参照してください。

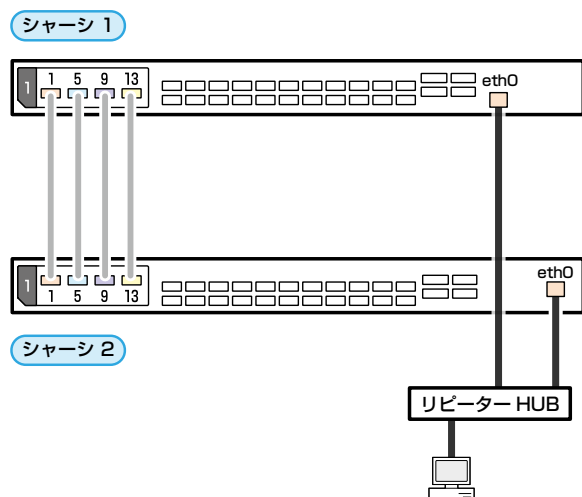
2.11 スタック接続をする

- 6 スタックメンバーの接続が完了したら、各シャーシに同時に電源を入れます。
 - 7 LED表示を確認します。

各メンバーは、起動後にメッセージを交換してマスターを選出し、必要に応じてIDの再割り当てを行います。各シャーシのステータスLED (7セグメントLED) で、スタックメンバー ID が重複なく点灯していることを確認してください。

また、各シャーシのQSFP+スロットLEDのL/Aが緑に点灯していることを確認してください。

なお、LED ON/OFFボタンによってLED OFF (エコLED) に設定することで、ステータスLEDの横3セグメントに、マスターであれば上側のライン"―"、スレーブであれば下側のライン"_"が点灯します。
 - 8 LED表示に問題がなければVCSグループの起動は完了です。
 - 9 VCSグループが起動したら、必要に応じてVCSグループの初期設定を行います。レジリエンシーリンクを使用する場合は、マネージメントポート (eth0) が任意のスイッチポート1ポートをレジリエンシーリンクに設定してください。
 - 10 レジリエンシーリンク用に設定した各メンバーのポート (eth0 がスイッチポート) 同士を適切なケーブルで接続します。
- マネージメントポート (eth0) をレジリエンシーリンクだけでなく、通常のマネージメントポートとしても利用したい場合は、UTPケーブルを2本以上用意して、次の図のように、マネージメントポート (eth0) 間にリピーター HUB を接続してください。



2.12 コンソールを接続する

本製品に設定を行うためのコンソールを接続します。

本製品のコンソールポートはRJ-45コネクタを使用しています。弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、CentreCOM VT-Kit2、またはAT-VT-Kit3を使用して、本体前面コンソールポートとコンソールのシリアルポート（またはUSBポート）を接続します。



CentreCOM VT-Kit2 plus、CentreCOM VT-Kit2、またはAT-VT-Kit3を使用した接続以外は動作保証をいたしませんのでご注意ください。

コンソール

コンソールには、VT100をサポートした通信ソフトウェアが動作するコンピューター、または非同期のRS-232インターフェースを持つVT100互換端末を使用してください。



通信ソフトウェアの設定については、97ページ「コンソールターミナルを設定する」で説明します。

ケーブル

ケーブルは弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、CentreCOM VT-Kit2、またはAT-VT-Kit3をご使用ください。

○ CentreCOM VT-Kit2 plus: マネージメントケーブルキット

以下のコンソールケーブルが3本セットになっています。

- ・ D-Sub 9ピン(オス)/D-Sub 9ピン(メス)
- ・ RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)
- ・ D-Sub 9ピン(オス)/USB

ご使用のコンソールのシリアルポート（D-Sub 9ピン）またはUSBポートへの接続が可能です。なお、USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

○ CentreCOM VT-Kit2: RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブル

○ AT-VT-Kit3: RJ-45(メス)/USB変換コンソールケーブル

UTPケーブル（別売）を接続して、ご使用のコンソールのUSBポートへの接続が可能です。なお、USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

2.12 コンソールを接続する

接続のしかた

1 CentreCOM VT-Kit2 plusまたはCentreCOM VT-Kit2

本製品のコンソールポートにコンソールケーブルのRJ-45コネクター側を接続します。

AT-VT-Kit3

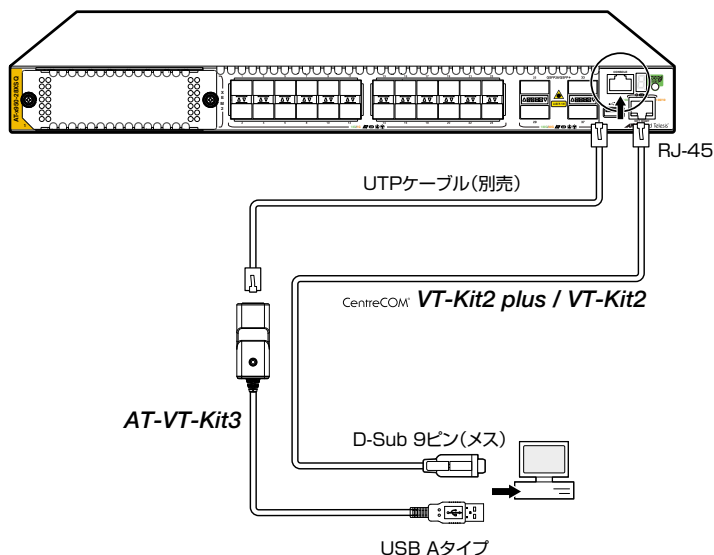
本製品のコンソールポートにUTPケーブル（別売）のRJ-45コネクター側を接続します。

2 CentreCOM VT-Kit2 plusまたはCentreCOM VT-Kit2

コンソールケーブルのD-Subコネクター側をコンソールのシリアルポートに接続します。

AT-VT-Kit3

UTPケーブル（別売）のもう一方をAT-VT-Kit3のRJ-45ポートに接続し、USB AタイプコネクターをコンピュータのUSBポートに接続します。



CentreCOM VT-Kit2 plusまたはCentreCOM VT-Kit2をお使いの場合、ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン（オス）以外の場合は、別途変換コネクターを用意してください。

2.13 AC 電源に接続する

AC 電源ユニット「AT-PWR600-70」または「AT-PWR600R-70」を AC 電源に接続します。

本製品は AC 電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

以下の説明では、電源ユニットはすでに取り付けられているものとします。

 65 ページ「電源ユニットを取り付ける」

ケーブル

本製品では、次の電源ケーブルを使用できます。

- AC 電源ユニットに同梱されている AC 電源ケーブル (AC100V 用)

- オプション (別売) の L 字型コネクター電源ケーブル (AC100V 用)

AT-PWRCBL-J01L/AT-PWRCBL-J01R*

※ AT-PWRCBL-J01L の電源ケーブルの向きは下方向、AT-PWRCBL-J01R の電源ケーブルの向きは上方向に突出し 1U の高さを超えますのでご注意ください。また、電源ケーブル抜け防止フックは使用できません。



同梱、およびオプション (別売) の電源ケーブルは AC100V 用です。AC200V で使用する場合は、設置業者にご相談ください。

不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。



同梱の電源ケーブルは AT-PWR600-70 または AT-PWR600R-70 専用です。他の電気機器では使用できませんので、ご注意ください。

接続のしかた



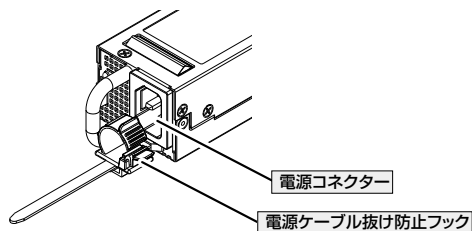
- ・ 同梱、またはオプション (別売) の接地端子付きの 3 ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの 3 ピン電源コンセントに接続してください。

- ・ 本製品を接地された 19 インチラックに搭載するときは、電源のアースは 19 インチラックと同電位の場所から取るようにしてください。



- ・ 電源をオフしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

2.13 AC 電源に接続する



- 1 AC電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
- 2 AC電源ケーブル抜け防止フックで電源ケーブルが抜けないようにしめます。
- 3 AC電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。
- 4 以上でAC電源への接続が完了しました。
電源が入ると、電源ユニットのLED（緑）が点灯します。

電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。

電源を二重化する

本製品はシャーシ内での電源の二重化が可能です。

電源を二重化する場合は、電源ユニットを2台装着し、「接続のしかた」の手順を繰り返して、2台目の電源ユニットに電源を入れてください。

2本の電源ケーブルを異なる電源系統に接続することにより、どちらか一方で、サーキットブレーカーの遮断などによる商用電源の供給停止が発生しても、システムがシャットダウンするのを防ぐことができます。

2.14 DC 電源に接続する

DC 電源ユニット「AT-PWR600-80」または「AT-PWR600R-80」を DC 電源に接続します。

本製品と電源ユニットに電源スイッチは付いていません。DC 電源ケーブル接続後に電源設備のブレーカーをオンにすることで電源が入ります。以下の説明では、電源ユニットはすでに取り付けられているものとします。

 参照 65 ページ「電源ユニットを取り付ける」

ケーブル

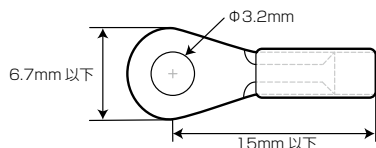
DC 電源ケーブルは、UL 規格に対応した下記サイズの銅線（定格電圧 600V / 定格温度 90℃ 以上）を別途ご用意ください。本製品に DC 電源ケーブルは同梱されていません。長さは 2m 以内を目安に配線してください。

DC 入力線、FG 線	18AWG (線径 1.024mm) ~ 16AWG (線径 1.291mm)
-------------	---

圧着端子

圧着端子は、DC 電源ケーブルに適応した以下の端子をご使用ください。本製品に圧着端子は同梱されていません。

幅	6.7mm 以下
穴径	Φ 3.2mm
ネジ穴中心からの長さ	15mm 以下



接続のしかた



- 必ず電源が遮断されていることを確認してから作業を行ってください。電源供給が行われている状態で結線すると、感電や機器故障の原因となります。
- 通電中に電源ターミナルに触れないでください。電源ターミナルのネジに触れると、感電の恐れがあります。
- 電源ケーブルに圧着端子を取り付けるときは、推奨値以上に絶縁体をはがさないでください。また、結線後は心線が露出していないことをご確認ください。感電や機器故障、ほこりなどの付着による発火の原因となります。
- 本製品を接地された 19 インチラックに搭載するときは、電源のアースは 19 インチラックと同電位の場所から取るようにしてください。

2.14 DC 電源に接続する



注意

- ・ AC 電源ユニットと DC 電源ユニットを併用することはできません。
- ・ DC 電源ユニットの取り付けまたは交換は、訓練を受け、十分な知識を持った技術者が行ってください。
- ・ DC 電源を使用する場合、本製品は施設・管理された立ち入り制限区域に設置してください。
- ・ 電源をオフしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。



ヒント

DC 電源を二重化する場合、両電源ユニットの FG 線や DC 電源ケーブルが干渉したり、ホットスワップ (電源ユニットの抜き差し) の妨げにならないよう注意して配線してください。

FG 線を接続する



注意

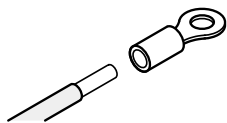
DC 電源ケーブルを接続する場合は FG 線を最初に接続し、DC 電源ケーブルをはずす場合は FG 線を最後にはずしてください。

- 1 電源設備のブレーカーがオフになっていることを確認します。
- 2 18AWG (線径 1.024mm) ~ 16AWG (線径 1.291mm) の銅線を用意し、ワイヤーストリッパーで銅線の先端の被覆をはがします。
- 3 適切な圧着工具で、銅線の先端に圧着端子を取り付けます。

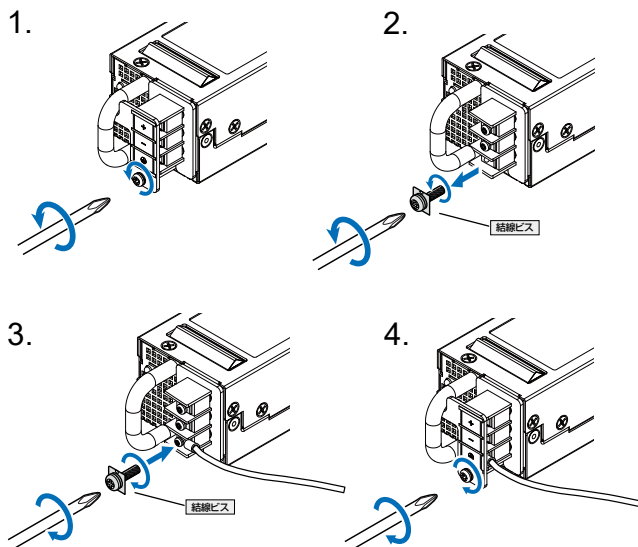


注意

絶縁保護が付いていない圧着端子を使用する場合は、銅線に圧着端子を取り付けたあと、絶縁テープなどを使用して絶縁処理を行うようにしてください。



- 4 ターミナルカバーのネジ、電源・接地ターミナルの接地端子の結線ピスを取りはずし、FG線を接地端子に取り付けます（しめ付けトルク：0.5～1.4Nm）。
DC電源ケーブルの接続を続けて行わない場合はターミナルカバーを戻します。



- 5 FG線のもう一方の端を設置場所の適切な接地点に接続します。

DC入力線を接続する

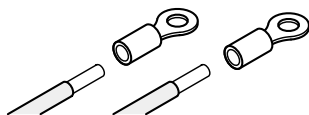


DC電源ケーブルを接続する場合はFG線を最初に接続し、DC電源ケーブルをはずす場合はFG線を最後にはずしてください。

- 1 電源設備のブレーカーがオフになっていることを確認します。
- 2 18AWG（線径 1.024mm）～16AWG（線径 1.291mm）の銅線を用意し、ワイヤーストリッパーで銅線の先端の被覆をはがします。
- 3 適切な圧着工具で、銅線の先端に圧着端子を取り付けます。

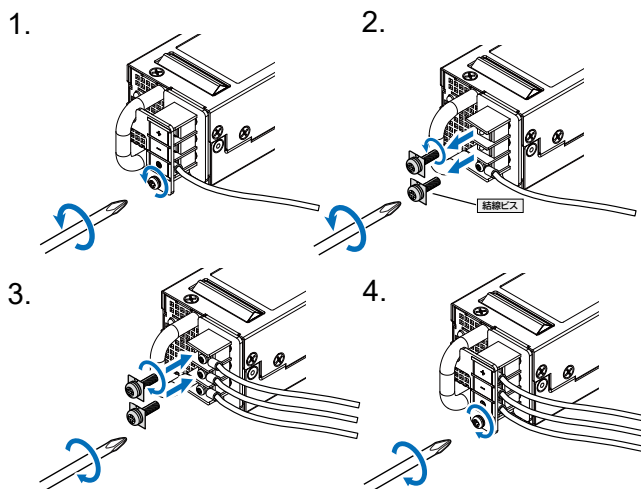


絶縁保護が付いていない圧着端子を使用する場合は、銅線に圧着端子を取り付けたあと、絶縁テープなどを使用して絶縁処理を行うようにしてください。



2.14 DC 電源に接続する

- 4 ターミナルカバーのネジ、電源・接地ターミナルのプラス端子とマイナス端子の結線ビスを取りはずし、DC 電源ケーブルを電源・接地ターミナルに取り付けます（締め付けトルク：0.5 ～ 1.4Nm）。最後に、ターミナルカバーを戻します。



- 5 DC 電源ケーブルのもう一方の端を電源設備の分電盤に接続し、ブレーカーをオンにします。

電源を二重化する



DC 電源を二重化する場合、両電源ユニットの FG 線や DC 電源ケーブルが干渉したり、ホットスワップ（電源ユニットの抜き差し）の妨げにならないよう注意して配線してください。

本製品はシャーシ内での電源の二重化が可能です。

電源を二重化する場合、電源ユニットを 2 台装着し、「接続のしかた」の手順を繰り返して、2 台目の電源ユニットに電源を入れてください。

2 組の電源ケーブルを異なる電源系統に接続することにより、どちらか一方で、サーキットブレーカーの遮断などによる商用電源の供給停止が発生しても、システムがシャットダウンするのを防ぐことができます。

2.15 設定の準備

コンソールターミナルを設定する

本製品に対する設定は、管理用端末から本製品の管理機構であるコマンドラインインターフェース (CLI) にアクセスして行います。

管理用端末には、次のいずれかを使用します。

- コンソールポートに接続したコンソールターミナル
- ネットワーク上の Telnet クライアント
- ネットワーク上の Secure Shell (SSH) クライアント

コンソールターミナル (通信ソフトウェア) に設定するパラメーターは次のとおりです。「エミュレーション」、「BackSpace キーの送信方法」は edit コマンド (特権 EXEC モード) のための設定です。

項目	値
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	ハードウェア
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの送信方法	Delete



ヒント

Telnet/SSHを使用するには、あらかじめコンソールターミナルからログインし、本製品に IP アドレスなどを設定しておく必要があります。本製品のご購入時には IP アドレスが設定されていないため、必ず一度はコンソールターミナルからログインすることとなります。

また、SSHを使用する場合は、本製品の SSH サーバーを有効化するための設定も必要です。SSH サーバーの設定については「コマンドリファレンス」をご覧ください。



101 ページ「IP インターフェースを作成する」



コマンドリファレンス / 運用・管理 / Secure Shell

2.15 設定の準備

本製品を起動する

- 1 コンピューター（コンソール）の電源を入れ、通信ソフトウェアを起動します。
- 2 本製品の電源を入れます。
 91 ページ「AC 電源に接続する」
 93 ページ「DC 電源に接続する」
- 3 自己診断テストの実行後、システムソフトウェアが起動し、起動時コンフィグが実行されます。
 104 ページ「自己診断テストの結果を確認する」



起動メッセージの内容は機種やファームウェアのバージョンによって異なります。下記はヒントあくまでも一例であり、内容も省略してありますので、ご了承ください

```
Bootloader X.X.X loaded
Press <Ctrl+B> for the Boot Menu

Loading flash:x950-5.4.8A-1.2.rel...
Verifying release... OK
Booting...
Starting base/first... [ OK ]
Mounting virtual filesystems... [ OK ]

      _____
     / \         / / \ \
    /   \       / /   \ \
   /     \     / /     \ \
  /       \   / /       \ \
 /         \ / /         \ \
/_____ \ / /_____ \ \

Allied Telesis Inc.
AlliedWare Plus (TM) v5.4.8A
Current release filename: x950-5.4.8A-1.2.rel
Built: Xxx Xxx XX XX:XX:XX UTC XXXX
Mounting static filesystems... [ OK ]
Checking flash filesystem... [ OK ]
Mounting flash filesystem... [ OK ]
...

done!

awplus login:
```

- 4 本製品起動後、「awplus login:」プロンプトが表示されます。

2.16 操作の流れ

本製品に設定を行う際の操作の流れについて説明します。

設定方法についての詳細は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」をご覧ください。「コマンドリファレンス」の「運用・管理 / システム」で、システム関連の基本的な操作や設定方法について順を追って説明しています。初期導入時には、まずはじめに「運用・管理 / システム」を参照してください。

ファームウェアの更新手順についても「運用・管理 / システム」に説明があります。

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ファームウェアの更新手順

STEP 1 コンソールを接続する

コンソールケーブル (CentreCOM VT-Kit2 plus、CentreCOM VT-Kit2、または AT-VT-Kit3) で、本製品のコンソールポートと、コンソールの USBポートまたはシリアルポートを接続します。

 **参照** 89ページ「コンソールを接続する」



STEP 2 コンソールターミナルを設定する

コンソールの通信ソフトウェアを本製品のインターフェース仕様に合わせて設定します。

 **参照** 97ページ「コンソールターミナルを設定する」



STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。
ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。
ユーザー名、パスワードは大文字小文字を区別します。

awplus login: **manager** ...「manager」と入力して **[Enter]**キーを押します。

Password: **friend** ...「friend」と入力して **[Enter]**キーを押します。

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ログイン



STEP 4 設定をはじめめる (コマンドモード)

コマンドラインインターフェースで、本製品に対して設定を行います。
本製品のコマンドラインインターフェースには「コマンドモード」の概念があります。各コマンドはあらかじめ決められたモードでしか実行できないため、コマンドを実行するときは適切なモードに移動し、それからコマンドを入力することになります。

○ ログイン直後は「非特権 EXECモード」です。

```
awplus login: manager [Enter]  
Password: friend [Enter] (実際には表示されません)
```

```
AlliedWare Plus (TM) 5.4.7B xx/xx/xx xx:xx:xx  
awplus>
```

コマンドプロンプト末尾の「>」が、非特権 EXEC モードであることを示しています。

2.16 操作の流れ



非特権EXECモードでは、原則として情報表示コマンド (show xxxx) の一部しか実行できません。

- 非特権EXECモードでenableコマンドを実行すると、「特権EXECモード」に移動します。

```
awplus> enable [Enter]
awplus#
```

コマンドプロンプト末尾の「#」が、特権EXECモードであることを示しています。

特権EXECモードでは、すべての情報表示コマンド (show xxxx) が実行できるほか、システムの再起動や設定保存、ファイル操作など、さまざまな「実行コマンド」(コマンドの効果がその場かぎりであるコマンド。ネットワーク機器としての動作を変更する「設定コマンド」と対比してこう言う)を実行することができます。

- 特権EXECモードでconfigure terminalコマンドを実行すると、「グローバルコンフィグモード」に移動します。

```
awplus# configure terminal [Enter]
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
awplus(config)#
```

コマンドプロンプト末尾の「(config)#」が、グローバルコンフィグモードであることを示しています。

グローバルコンフィグモードは、システム全体にかかわる設定コマンドを実行するためのモードです。本解説編においては、ログインパスワードの変更やホスト名の設定、タイムゾーンの設定などをこのモードで行います。

実際には、ここに示した3つのほかにも多くのコマンドモードがあります。詳細については、「コマンドリファレンス」をご覧ください。

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / コマンドモード](#)



STEP 5 各種設定を行う(コマンド入力例)

以下にコマンドの入力例を示します。

- ユーザーアカウントを作成する

権限レベル15のユーザー「zein」を作成する。パスワードは「xyzxyzxyz」。

```
awplus(config)# username zein privilege 15 password xyzxyzxyz [Enter]
```

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / ユーザー認証 / ユーザーアカウントの管理](#)

- ログインパスワードを変更する

ログイン後、managerアカウントのパスワードを変更する。パスワードは「xyzxyzxyz」。

```
awplus(config)# username manager password xyzxyzxyz [Enter]
```

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / パスワードの変更](#)



○ ホスト名を設定する

ホスト名として「myswitch」を設定する。

```
awplus(config)# hostname myswitch Enter  
myswitch(config)#
```

コマンド実行とともに、コマンドプロンプトの先頭が「awplus」から「myswitch」に変更されます。

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ホスト名の設定

○ IP インターフェースを作成する

vlan1 に IP アドレス 192.168.10.1/24 を設定する。

```
myswitch(config)# interface vlan1 Enter  
myswitch(config-if)# ip address 192.168.10.1/24 Enter
```

マネージメントポート (ETH0) に 192.168.0.1/24 を設定する。

```
myswitch(config)# interface eth0 Enter  
myswitch(config-if)# ip address 192.168.0.1/24 Enter
```

 **参照** コマンドリファレンス / IP / IP インターフェース

デフォルトゲートウェイとして 192.168.10.5 を設定する。

```
myswitch(config-if)# exit Enter  
myswitch(config)# ip route 0.0.0.0/0 192.168.10.5 Enter
```

 **参照** コマンドリファレンス / IP / 経路制御

○ システム時刻を設定する

本製品は電池によってバックアップされる時計 (リアルタイムクロック) を内蔵しており、起動時には内蔵時計から現在時刻を取得してシステム時刻が再現されます。

ログなどの記録日時を正確に保つため、システム時刻は正確に合わせて運用することをおすすめします。

タイムゾーンを日本標準時 (JST。UTC より 9 時間進んでいる) に設定する (グローバルコンフィグモード)。

```
myswitch(config)# clock timezone JST plus 9 Enter
```

システム時刻 (日付と時刻) を「2017 年 11 月 24 日 17 時 5 分 0 秒」に設定する (特権 EXEC モード)。

```
myswitch(config)# exit Enter  
myswitch# clock set 17:05:00 24 Nov 2017 Enter
```

NTP を利用して時刻を自動調整する場合は、NTP サーバーの設定をします。

NTP サーバーの IP アドレスを指定する (グローバルコンフィグモード)。

```
myswitch# configure terminal Enter  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
myswitch(config)# ntp server 192.168.10.2 Enter  
Translating "192.168.10.2"... [OK]
```

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / システム時刻の設定

2.16 操作の流れ



STEP 6 設定を保存する

設定した内容を保存します。

ランニングコンフィグ(現在の設定内容)をスタートアップコンフィグ(起動時コンフィグ)にコピーして保存します。

copy コマンドの代わりに write file コマンドや write memory コマンドを使うこともできます。

```
myswitch# copy running-config startup-config [Enter]
```



コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / 設定の保存



STEP 7 ログアウトする

コマンドラインインターフェースでの操作が終了したら、ログアウトします。

```
myswitch# exit [Enter]
```



コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / コマンドモード

3

付 録

この章では、トラブル解決、本製品の仕様、製品保証について説明しています。

3.1 困ったときに

本製品の使用中になんらかのトラブルが発生したときの解決方法を紹介します。

自己診断テストの結果を確認する

本製品は自己診断機能を備えています。異常発生時には起動メッセージにエラー内容が表示されます。正常な起動時には次のようなメッセージが表示されます。



起動メッセージの内容は機種やファームウェアのバージョンによって異なります。下記はあくまでも一例であり、内容も省略してありますので、ご了承ください

```
Bootloader X.X.X loaded
Press <Ctrl+B> for the Boot Menu

Loading flash:x950-5.4.8A-1.2.rel...
Verifying release... OK
Booting...
Starting base/first...           [ OK ]
Mounting virtual filesystems...  [ OK ]

      /\
     /\
    /\
   /\
  /\
 /\
/\

Allied Telesis Inc.
AlliedWare Plus (TM) v5.4.8A
Current release filename: x950-5.4.8A-1.2.rel
Built: Xxx Xxx XX XX:XX:XX UTC XXXX
Mounting static filesystems...   [ OK ]
Checking flash filesystem...     [ OK ]
Mounting flash filesystem...     [ OK ]
...
done!
awplus login:
```

モジュールごとに、下記の3つステータスで結果が表示されます。

OK	該当のモジュールが正常にロードされました
INFO	該当のモジュールでエラーが発生しています。ただし、本製品の動作は可能な状態です
ERROR	該当のモジュールでエラーが発生し、本製品の動作に影響がでる可能性があります

上記以外に、特定の情報がINFOまたはERRORで起動メッセージ内に表示される場合があります。



起動メッセージは、本製品にTelnetでログインしているときは表示されません。

LED 表示を確認する

LEDの状態を観察してください。LEDの状態は問題解決に役立ちますので、お問い合わせの前にどのように表示されるかを確認してください。

ログを確認する

本製品が生成するログを見ることにより、原因を究明できる場合があります。
メモリーに保存されているログ、すなわち、bufferedログ(ランタイムメモリー)と permanentログ(フラッシュメモリー)の内容を見るには、それぞれ特権EXECモードの show log コマンド、show log permanent コマンドを使います。



ヒント これらのコマンドは、グローバルコンフィグモードでも実行可能です。

```
awplus# show log [Enter]

<date> <time> <facility>.<severity> <program[<pid>]>: <message>
-----
2018 Apr 06 14:16:00 kern.notice awplus ...
...
```

本製品が生成するログメッセージは次の各フィールドで構成されています。

<date> <time> <facility>.<severity> <program[<pid>]>: <message>

各フィールドの意味は次のとおりです。

フィールド名	説明
date	メッセージの生成日付
time	メッセージの生成時刻
facility	ファシリティ。どの機能グループに関連するメッセージかを示す(別表を参照)
severity	ログレベル。メッセージの重大さを示す(別表を参照)
program[pid]	メッセージを生成したプログラムの名前とプロセスID (PID)
message	メッセージ本文

ファシリティ (facility) には次のものがあります。

名称	説明
auth	認証サブシステム
authpriv	認証サブシステム (機密性の高いもの)
cron	定期実行デーモン (crond)
daemon	システムデーモン
ftp	ファイル転送サブシステム
kern	カーネル
lpr	プリンタースプーラーサブシステム
mail	メールサブシステム
news	ネットニュースサブシステム
syslog	syslog デーモン (syslogd)
user	ユーザープロセス
uucp	UUCPサブシステム

3.1 困ったときに

ログレベル (severity) には次のものがあります。

各レベルには番号と名称が付けられており、番号は小さいほど重大であることを示します。

数字	名称	説明
0	emergencies	システムが使用不能であることを示す
1	alerts	ただちに対処を要する状況であることを示す
2	critical	重大な問題が発生したことを示す
3	errors	一般的なエラーメッセージ
4	warnings	警告メッセージ
5	notices	エラーではないが、管理者の注意を要するかもしれないメッセージ
6	informational	通常運用における詳細情報
7	debugging	きわめて詳細な情報

異常高温時の電源シャットダウン機能

本製品には、シャーシの内部温度が規定のしきい値を超えたとき、自動的にシステム電源をシャットダウンすることで、高温による部品へのダメージを回避する機能が備わっています*。

※ ファームウェアバージョン 5.4.9-1.1 以降でサポート

温度しきい値は「警告」と「シャットダウン」の2段階になっており、それぞれ次のように設定されています。

CLI表示名*	警告しきい値	シャットダウンしきい値
Internal	70/75℃	85℃
Fan Tray A	70℃	80℃
Fan Tray B	70℃	80℃
Switch front	65/70℃	80℃
Switch rear	75/80℃	90℃
PSU Bays	70/75℃	85℃
Console	70/75℃	85℃

※ show system environment コマンド

上記の7つのうち、いずれかが4つ以上のセンサー値がしきい値を超えたとき、システムが温度しきい値を超えた（しきい値超過状態）と判断され、次の高温シャットダウンプロセスが実行されます。

- 製品稼働中、システムが「警告」しきい値を超えると、警告ログメッセージが出力されます。
- さらに、システムが「シャットダウン」しきい値を超えると、高温シャットダウンプロセスが開始されます。このときログメッセージが出力されます。高温シャットダウンプロセス開始後、60秒以内にしきい値超過状態が解消された場合、高温シャットダウンプロセスは中断されます。このときもログメッセージが出力されます。
- 高温シャットダウンプロセス開始後、60秒以内にしきい値超過状態が解消されなかった場合は、システム電源が強制的にシャットダウンされ、システムが停止します。

このとき、AC電源・DC電源ユニットのLED(黄)が消灯かつLED(緑)が点滅状態となり、これらのLED表示は、再度電源が起動されるまで継続します。

AC電源・DC電源		
LED色	黄	緑
状態	消灯	点滅

また、本機能によるシャットダウン後の最初の起動時にはログメッセージが出力されます。

強制的にシャットダウン処理が行われた場合は、AC電源ケーブルの抜き差し、または電源設備のブレーカーをOFFにし、再度ONにすることで復旧します。

電源の異常検知について

電源の異常を示すログやSNMPトラップが一時的に出力されても、復旧を示すログやトラップが出力されていれば製品の異常ではありません。

電源エラーに関するログやトラップが出力され続けたり、show system environment上で異常の状態が恒常的に継続する場合は製品の故障である可能性がありますので124 ページ 弊社修理受付窓口へご連絡ください。

例えば、電源の瞬断が発生すると以下のログやトラップが出力されますが、その後、show system environmentで正常状態を示していれば問題ありません。

- Fault: Alarm asserted. Yes.
- Fault: Alarm cleared. No.

トラブル例

電源をオンにしてもステータス(7セグメント)LEDまたは電源ユニットのLEDが緑に点灯しない

電源ユニットは正しく取り付けられていますか

 65 ページ「電源ユニットを取り付ける」

正しいAC電源ケーブルを使用していますか

本製品をAC100Vで使用する場合は、AT-PWR600-70またはAT-PWR600R-70に同梱のAC電源ケーブルをお使いください。AC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。

 91 ページ「AC電源に接続する」

正しいDC電源ケーブルを使用していますか

UL規格に対応した下記サイズの銅線を別途ご用意ください。本製品にDC電源ケーブルは同梱されていません。

DC入力線、FG線	18AWG(線径1.024mm)～16AWG(線径1.291mm)
-----------	-----------------------------------

 93 ページ「DC電源に接続する」

3.1 困ったときに

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

 91 ページ「AC 電源に接続する」

 93 ページ「DC 電源に接続する」

AC/DC 電源に異常はありませんか

AC/DC 電源から本製品に対して電源が正常に供給されているか確認してください。

 91 ページ「AC 電源に接続する」

 93 ページ「DC 電源に接続する」

ステータスLEDまたは電源ユニットLEDは緑に点灯するが、正しく動作しない

電源をオフにした後、すぐにオンにしていますか

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

 91 ページ「AC 電源に接続する」

 93 ページ「DC 電源に接続する」

電源ユニットLEDが黄に点灯していませんか

電源ユニットのファン異常、内部温度異常、DC 出力過電流、入力電圧の低下のいずれかの事象が起こっています。CLIでshow system environment コマンド（非特権EXECモード）を実行して詳細を確認してください。

 34 ページ「電源ユニットLED」

ケーブルを接続してもL/A LED（緑または橙）が点灯しない

接続先の機器の電源は入っていますか

接続先の機器のネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか

コマンドでポートの通信モードを設定することができます。接続先の機器を確認して、通信モードが正しい組み合わせになるように設定してください。

エコLEDに設定されていませんか

LED ON/OFF ボタン、またはCLIのecofriendly led コマンド（グローバルコンフィグモード）の設定を確認してください。LED OFFにすると、ステータスLED（7セグメントLEDの横セグメント）とマネージメントポートLEDを除く、すべてのLEDが消灯します。show ecofriendly コマンド（特権EXECモード）でLED ON/OFFの設定を確認できます。

 26 ページ「LED ON/OFF ボタン」

ポートが無効に設定されていませんか

CLIのshow interface コマンド（非特権EXECモード）でポートステータス(administrative state)を確認してください。

無効に設定されているポートを有効化するには、shutdownコマンド（インターフェースモード）をno形式で実行してください。

（10/100/1000BASE-Tポート）正しいUTPケーブルを使用していますか

○ UTPケーブルのカテゴリ

10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用してください。

○ UTPケーブルのタイプ

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

○ UTPケーブルの長さ

ケーブル長は最大100mと規定されています。

 78ページ「ネットワーク機器を接続する」

（100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポート、1000/10GBASE-Tポート、1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポート）正しいUTP/STPケーブルを使用していますか

○ UTP/STPケーブルのカテゴリ

(AT-x950-28XTQm・AT-x950-52XTQm・AT-XEM2-12XT・AT-XEM2-12XTm・AT-XEM2-8XSTm)
100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000/2.5G/5GBASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上、10GBASE-Tの場合はカテゴリ 6のUTP/STPケーブル、カテゴリ 6AのUTP/STPケーブルのいずれかを使用してください。

(AT-SP10T・AT-SP10Ta) 1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上、10GBASE-Tの場合は、カテゴリ 6AのUTP/STPケーブル、カテゴリ 7のSTPケーブルのいずれかを使用してください。

(AT-SP10TM) 1000/2.5G/5GBASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上、10GBASE-Tの場合は、カテゴリ 6AのUTP/STPケーブル、カテゴリ 7のSTPケーブルのいずれかを使用してください。

○ UTP/STPケーブルのタイプ

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができますが、不要なトラブルを避けるためストレートタイプを使用することをおすすめします。

○ UTP/STPケーブルの長さ

(AT-x950-28XTQm・AT-x950-52XTQm・AT-XEM2-12XT・AT-XEM2-12XTm・AT-XEM2-8XSTm)
100/1000/2.5G/5GBASE-Tの場合は最大100m、10GBASE-Tの場合はUTPカテゴリ 6は最大55m、STPカテゴリ 6とUTP/STPカテゴリ 6Aは最大100mです。

(AT-SP10T) 1000BASE-Tの場合は最大100mです。10GBASE-Tの場合、サポートされるケーブルの長さは最大20mです。

(AT-SP10Ta) 1000/10GBASE-Tは最大100mです。

3.1 困ったときに

(**AT-SP10TM**) 1000/2.5G/5G/10GBASE-Tは最大100mです。

なお、2.5G/5G/10GBASE-Tの最大伝送距離は理論値であり、実際の伝送距離は使用環境によって異なりますので、ご注意ください。

 78ページ「ネットワーク機器を接続する」

正しい光ファイバーケーブルを使用していますか

○ 光ファイバーケーブルのタイプ

マルチモードファイバーの場合は、コア/クラッド径が50/125 μ m、または62.5/125 μ mのものを使用してください。

シングルモードファイバーの場合は、ITU-T G.652準拠のものを使用してください。

SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28の種類によって、使用する光ファイバーが異なります。

LCコネクタのマルチモードファイバーを使用：

AT-SPSX、AT-SPSX2、AT-SPBDM-A・B、AT-SP10SR、AT-QSFPSR4LC

LCコネクタのシングルモードファイバーを使用：

**AT-SPLX10/I、AT-SPLX40、AT-SPLX40/I、AT-SPZX80、AT-SPZX120/I、
AT-SPBD10-13・14、AT-SPBD10/I-13・14、AT-SPBD40-13/I・14/I、AT-SPBD80-A・B、
AT-SP10LR、AT-SP10LRa/I、AT-SP10ER40/I、AT-SP10ER40a/I、AT-SP10ZR80/I、
AT-SP10BD10/I-12・13、AT-SP10BD20-12・13、AT-SP10BD40/I-12・13、
AT-SP10BD80/I-14・15、AT-QSFPLR4、AT-QSFPER4、AT-QSFP28LR4、
AT-QSFP28ZR4**

LCコネクタのマルチモードファイバーまたはシングルモードファイバーを使用：

AT-SPLX10、AT-SPLX10a

※ AT-SPLX10、AT-SPLX10aの接続にマルチモードファイバーを使用する場合は、対応するモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。

MPOコネクタの8心マルチモードファイバーを使用：

AT-QSFPSR、AT-QSFPSR4、AT-QSFP28SR4

また、以下の製品は、使用環境によっては、アッテネーターが必要となる場合があります。

**AT-SPLX40、AT-SPLX40/I、AT-SPZX80、AT-SPZX120/I、AT-SPBD40-13/I・14/I、
AT-SPBD80-A・B、AT-SP10ER40/I、AT-SP10ER40a/I、AT-SP10ZR80/I、
AT-SP10BD20-12・13、AT-SP10BD40/I-12・13、AT-SP10BD80/I-14・15、
AT-QSFPER4、AT-QSFP28ZR4**

○ 光ファイバーケーブルの長さ

最大伝送距離は、78ページ「ネットワーク機器を接続する」でご確認ください。光ファイバーケーブルの仕様や使用環境によって伝送距離が異なりますので、ご注意ください。

○ 光ファイバーケーブルは正しく接続されていますか

AT-SPBDシリーズ、AT-SP10BDシリーズ以外のSFP/SFP+、AT-QSFPSR4LC、

AT-QSFPLR4、AT-QSFPER4、AT-QSFP28LR4、AT-QSFP28ZR4で使用する光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。本製品のTXを接続先の機器のRXに、本製品のRXを接続先の機器のTXに接続してください。

AT-SPBDシリーズ、AT-SP10BDシリーズは、送受信で異なる波長の光を用いるため、1本の光ファイバーケーブルで通信ができます。

 78ページ「ネットワーク機器を接続する」

コンソールターミナルに文字が入力できない

ケーブルや変換コネクタが正しく接続されていますか

本製品のコンソールポートは、RJ-45 コネクタを使用しています。ケーブルは弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、CentreCOM VT-Kit2、またはAT-VT-Kit3を使用してください。

CentreCOM VT-Kit2 plusおよびCentreCOM VT-Kit2は、シリアルポートへの接続が可能です。ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン（オス）以外の場合は、別途変換コネクタをご用意ください。

CentreCOM VT-Kit2 plusおよびAT-VT-Kit3は、USBポートへの接続が可能です。USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

 89ページ「コンソールを接続する」

通信ソフトウェアを2つ以上同時に起動していませんか

同一のCOMポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COMポートにおいて競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

通信ソフトウェアの設定内容(通信条件)は正しいですか

本製品を接続しているCOMポート名と、通信ソフトウェアで設定しているCOMポート名が一致しているかを確認してください。

また、通信速度の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度は9,600bpsです。

 97ページ「コンソールターミナルを設定する」

コンソールターミナルで文字化けする

COMポートの通信速度は正しいですか

通信速度の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度は9,600bpsです。COMポートの設定が9,600bps以外に設定されていると文字化けを起こします。

 97ページ「コンソールターミナルを設定する」

文字入力モードは英数半角モードになっていますか

全角文字や半角カナは入力しないでください。通常、AT互換機では`[Alt]`キーを押しながら`[全角/半角]`キーを押して入力モードの切り替えを行います。

 97ページ「コンソールターミナルを設定する」

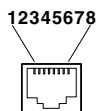
3.2 仕様

コネクタ・ケーブル仕様

10/100/1000BASE-T・100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tインターフェース

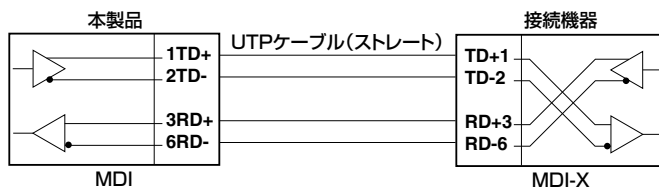
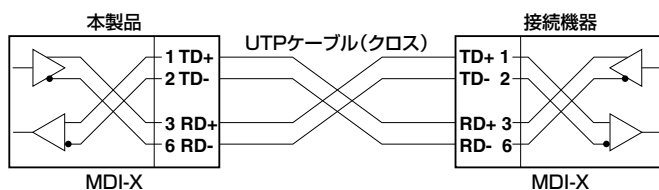
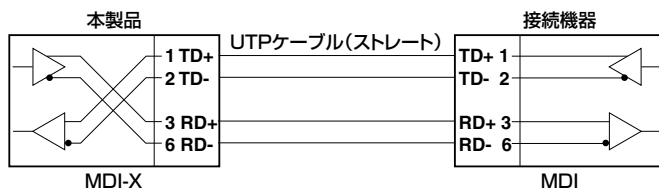
RJ-45型のモジュージャックを使用しています。

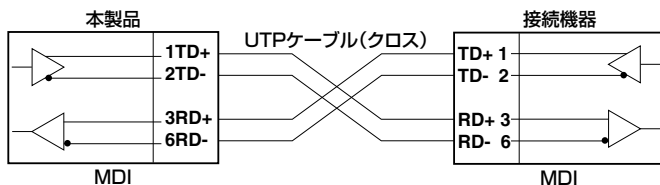
コンタクト	1000/2.5G/5G/10GBASE-T		10BASE-T 100BASE-TX	
	MDI	MDI-X	MDI信号	MDI-X信号
1	BI_DA +	BI_DB +	TD + (送信)	RD + (受信)
2	BI_DA -	BI_DB -	TD - (送信)	RD - (受信)
3	BI_DB +	BI_DA +	RD + (受信)	TD + (送信)
4	BI_DC +	BI_DD +	未使用	未使用
5	BI_DC -	BI_DD -	未使用	未使用
6	BI_DB -	BI_DA -	RD - (受信)	TD - (送信)
7	BI_DD +	BI_DC +	未使用	未使用
8	BI_DD -	BI_DC -	未使用	未使用



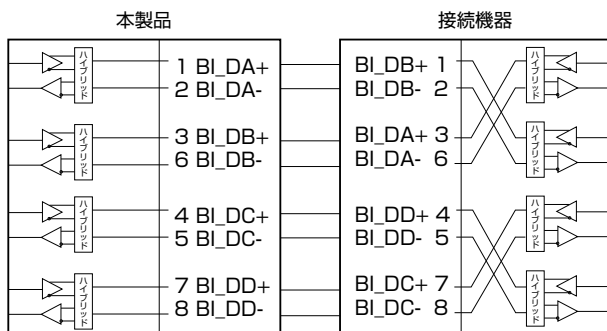
UTPケーブルの結線は下図のとおりです。

○ 10BASE-T/100BASE-TX



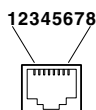


○ 1000/2.5G/5G/10GBASE-T



RS-232 インターフェース

RJ-45型のモジュラージャックを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS 規格)	信号内容
1	RTS (RS)	送信要求
2	NOT USED	未使用
3	TXD (SD)	送信データ
4	GND (SG)	信号用接地
5	GND (SG)	信号用接地
6	RXD (RD)	受信データ
7	NOT USED	未使用
8	CTS (CS)	送信可

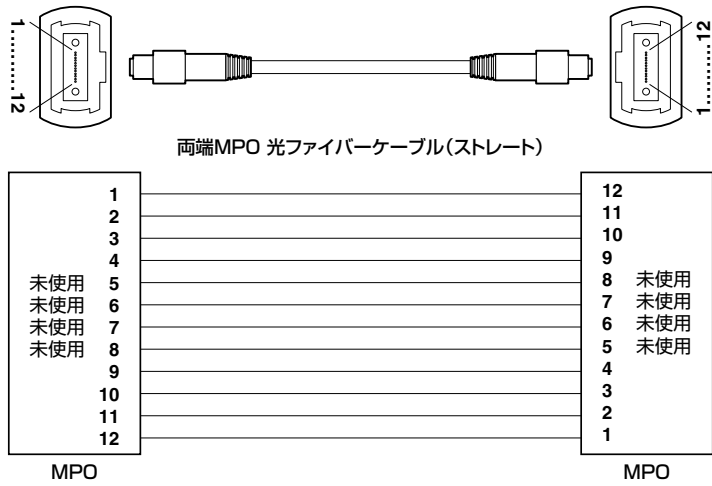
USB インターフェース

USB 2.0のタイプA(メス)コネクタを使用しています。

3.2 仕様

40GBASE-SR4/100GBASE-SR4用光ファイバーケーブル

40GBASE-SR4 QSFP+同士、100GBASE-SR4 QSFP28同士の接続時に使用するケーブルの結線は下図のとおりです。



本製品の仕様



SFP/SFP+/QSFP+/QSFP28の仕様については、各製品に付属のインストレーションガイド
ヒントを参照してください。

スイッチ本体

準拠規格	
IEEE 802.3 10BASE-T ^{*1}	
IEEE 802.3u 100BASE-TX	
IEEE 802.3z 1000BASE-LX/SX	
IEEE 802.3ab 1000BASE-T	
IEEE 802.3ah 1000BASE-BX10	
IEEE 802.3bz 2.5GBASE-T/5GBASE-T	
IEEE 802.3ae 10GBASE-ER/LR/SR	
IEEE 802.3an 10GBASE-T	
IEEE 802.3ba 40GBASE-CR4/LR4/SR4/ER4	
IEEE 802.3ba 100GBASE-LR4	
IEEE 802.3bj 100GBASE-CR4	
IEEE 802.3bm 100GBASE-SR4	
IEEE 802.3x Flow Control	
IEEE 802.3az Energy-Efficient Ethernet ^{*2}	
IEEE 802.1D-2004 Spanning Tree, Rapid Spanning Tree ^{*3}	
IEEE 802.1Q-2003 GVRP	
IEEE 802.1Q-2005 VLAN Tagging, Multiple Spanning Tree ^{*4}	
IEEE 802.1X Port Based Network Access Control	
IEEE 802.1AB Link Layer Discovery Protocol	
IEEE 802.1AX-2008 Link Aggregation (static and dynamic) ^{*5}	
IEEE 802.1p Class of Service, priority protocol	
IEEE 802.1ad Provider Bridges (Q-in-Q)	
IEEE 802.1ag Connectivity Fault Management	
ITU-T G.8032 ERPS	
適合規格 ^{*6} (AT-x950-28XSQ・AT-x950-28XTQm・AT-x950-52XSQ)	
CE	
安全規格	UL60950-1, CSA-C22.2 No.60950-1
EMI規格	VCCIクラスA
電気通信事業法に 基づく技術基準 ^{*7}	AT-x950-28XTQm
	P25-0073001 L25-0014
EU RoHS 指令	
適合規格 ^{*6} (AT-x950-52XTQm)	
CE	
安全規格	UL62368-1, CSA-C22.2 No.62368-1
EMI規格	VCCIクラスA
EU RoHS 指令	
環境条件	
動作時温度	0～50℃
	0～45℃ (QSFP28モジュール使用時)
	0～40℃ (リバースエアフロー使用時)
動作時湿度	5～90%(ただし、結露なきこと)
保管時温度	-25～70℃

3.2 仕様

保管時湿度	5～95%(ただし、結露なきこと)
外形寸法(突起部含まず)	
AT-x950-28XSQ AT-x950-28XTQm	441 (W) × 447 (D) × 44 (H) mm
AT-x950-52XSQ AT-x950-52XTQm	441 (W) × 449 (D) × 44 (H) mm
質量	
AT-x950-28XSQ AT-x950-28XTQm	7.3kg ^{*8}
AT-x950-52XSQ AT-x950-52XTQm	7.5kg ^{*9} 7.6kg ^{*9}
スイッチング方式	
ストア&フoward	
MAC アドレス登録数	
160000 ^{*10}	
メモリー容量	
フラッシュメモリー	4GByte
メインメモリー	4GByte
USB ポート	
コネクター	タイプA (メス)
USB	USB2.0
サポートするMIB	
MIB II (RFC1213) IP フォワーディングテーブルMIB (RFC2096) 拡張ブリッジMIB (RFC2674) ^{*11} インターフェース拡張グループMIB (RFC2863) SNMPv3 MIB (RFC3411～RFC3415) SNMPv2 MIB (RFC3418) イーサネットMIB (RFC3635) IEEE 802.3 MAUs MIB (RFC3636) ブリッジMIB (RFC4188) RSTP MIB (RFC4318) DISMAN ping MIB (RFC4560) VRRPv3 MIB (RFC6527) エンティティ MIB (RFC6933) LLDP MIB (IEEE 802.1AB) LLDP-MED MIB (ANSI/TIA-1057) プライベートMIB	

- ※1 マネージメントポート使用時
- ※2 100/1000/10GBASE-Tポート・100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートのみ
- ※3 IEEE 802.1w Rapid Spanning Tree 包含
- ※4 IEEE 802.1s Multiple Spanning Tree 包含
- ※5 IEEE 802.3ad と同等
- ※6 当該製品においては「中国版RoHS指令 (China RoHS)」で求められる Environment Friendly Use Period (EFUP) ラベル等を記載している場合がありますが、日本国内での使用および日本から中国を含む海外へ輸出した場合も含め、弊社では未サポートとさせていただきます。証明書等の発行も原則として行いません。
- ※7 AT-x950-28XTQmはハードウェアリビジョン Rev.T以降適合。
100/1000/2.5G/5G/10GBASE-Tポートは10/100/1000M接続時、QSFP+/QSFP28スロットはAT-QSFP28SR4を使用した100G接続時が対象。電源ユニットAT-PWR600-70、AT-PWR600-80、AT-PWR600R-70、AT-PWR600R-80使用時のみ対象。拡張モジュールAT-XEM2シリーズは対象外。

- ※ 8 以下の標準装備品を含みます。
ファンモジュール×2個、電源ユニットスロット用カバーパネル×1個、拡張モジュールスロット用カバーパネル×1
- ※ 9 以下の標準装備品を含みます。
ファンモジュール×2個、電源ユニットスロット用カバーパネル×1個
- ※ 10 platform silicon-profile profile1 コマンド設定時。未設定の場合、96000。
- ※ 11 Q-BRIDGE-MIBのみサポート

電源ユニット (AT-PWR600-70)

電源部	
定格入力電圧	AC100-240V
入力電圧範囲	AC90-264V
定格周波数	50/60Hz
定格入力電流	8.7A
外形寸法 (突起部含まず)	
—	51 (W) × 255 (D) × 41 (H) mm
質量	
—	830g

電源ユニット (AT-PWR600-80)

電源部	
定格入力電圧	DC36-72V
入力電圧範囲	DC36-72V
外形寸法 (突起部含まず)	
—	51 (W) × 255 (D) × 41 (H) mm
質量	
—	800g

電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-70)

電源部	
定格入力電圧	AC100-240V
入力電圧範囲	AC90-264V
定格周波数	50/60Hz
定格入力電流	8.7A
外形寸法 (突起部含まず)	
—	51 (W) × 255 (D) × 41 (H) mm
質量	
—	830g

電源ユニット リバースエアフロー (AT-PWR600R-80)

電源部	
定格入力電圧	DC36-72V
入力電圧範囲	DC36-72V
外形寸法 (突起部含まず)	
—	51 (W) × 255 (D) × 41 (H) mm
質量	
—	800g

3.2 仕様

スベアファンモジュール (AT-FAN05)

外形寸法 (突起部含まず)
152 (W) × 80 (D) × 43 (H) mm
質量
350g

スベアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R)

外形寸法 (突起部含まず)
152 (W) × 80 (D) × 43 (H) mm
質量
350g

拡張モジュール

外形寸法 (突起部含まず)				
—	全拡張モジュール共通			
—	130 (W) × 166 (D) × 40 (H) mm			
質量				
—	AT-XEM2-12XT	AT-XEM2-12XTm	AT-XEM2-12XS	AT-XEM2-12XS v2
—	750g	750g	750g	750g
—	AT-XEM2-8XSTm	AT-XEM2-4QS	AT-XEM2-1CQ	
—	700g	660g	620g	

電源仕様

システム全体の最大入力電流、最大消費電力、平均消費電力、最大発熱量、平均発熱量は以下のとおりです。本体や拡張モジュールには、以下のSFP+/QSFP+/QSFP28を装着した場合の値をもとに概算しています。

AT-x950-28XSQ

本体	AT-SP10ZR80/I × 24個、AT-QSFP28LR4 × 4個使用時
AT-XEM2-12XS	AT-SP10ZR80/I × 12個使用時
AT-XEM2-12XS v2	AT-SP10ZR80/I × 12個使用時
AT-XEM2-8XSTm	AT-SP10ZR80/I × 4個使用時
AT-XEM2-4QS	AT-QSFPLR4 × 4個使用時
AT-XEM2-1CQ	AT-QSFP28ZR4 × 1個使用時

—	最大入力電流 (実測値)	平均消費電力	平均発熱量
AT-PWR600-70 × 1 台使用時 ^{※1,2}			
拡張モジュールなし	2.6A	180W (最大230W)	710kJ/h (最大820kJ/h)
AT-XEM2-12XT	3.1A	220W (最大280W)	890kJ/h (最大990kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	3.0A	210W (最大260W)	840kJ/h (最大950kJ/h)
AT-XEM2-12XS	3.0A	210W (最大260W)	850kJ/h (最大950kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	2.9A	200W (最大260W)	820kJ/h (最大920kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	2.8A	190W (最大250W)	790kJ/h (最大900kJ/h)
AT-XEM2-4QS	2.8A	190W (最大250W)	780kJ/h (最大890kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	2.7A	180W (最大240W)	740kJ/h (最大850kJ/h)
AT-PWR600-70 × 2 台使用時 ^{※1,2}			
拡張モジュールなし	2.9A	200W (最大250W)	810kJ/h (最大920kJ/h)
AT-XEM2-12XT	3.4A	240W (最大300W)	980kJ/h (最大1080kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	3.2A	230W (最大290W)	940kJ/h (最大1040kJ/h)
AT-XEM2-12XS	3.3A	230W (最大290W)	940kJ/h (最大1040kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	3.2A	220W (最大280W)	910kJ/h (最大1020kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	3.1A	220W (最大280W)	880kJ/h (最大990kJ/h)
AT-XEM2-4QS	3.1A	220W (最大270W)	880kJ/h (最大980kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	3.0A	210W (最大260W)	840kJ/h (最大950kJ/h)
AT-PWR600-80 × 1 台使用時 ^{※1,2}			
拡張モジュールなし	6.2A	160W (最大220W)	660kJ/h (最大800kJ/h)
AT-XEM2-12XT	7.5A	200W (最大270W)	830kJ/h (最大980kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	7.1A	190W (最大260W)	780kJ/h (最大930kJ/h)
AT-XEM2-12XS	7.2A	190W (最大260W)	790kJ/h (最大930kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	7.0A	190W (最大250W)	760kJ/h (最大900kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	6.8A	180W (最大240W)	730kJ/h (最大880kJ/h)
AT-XEM2-4QS	6.7A	180W (最大240W)	730kJ/h (最大870kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	6.4A	170W (最大230W)	690kJ/h (最大830kJ/h)

3.2 仕様

AT-PWR600-80 × 2台使用時 ^{*12}			
拡張モジュールなし	6.7A	180W (最大240W)	730kJ/h (最大870kJ/h)
AT-XEM2-12XT	8.0A	220W (最大290W)	900kJ/h (最大1040kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	7.6A	210W (最大270W)	850kJ/h (最大990kJ/h)
AT-XEM2-12XS	7.7A	210W (最大280W)	860kJ/h (最大1000kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	7.4A	200W (最大270W)	830kJ/h (最大970kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	7.3A	200W (最大260W)	810kJ/h (最大940kJ/h)
AT-XEM2-4QS	7.2A	200W (最大260W)	800kJ/h (最大930kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	6.9A	190W (最大250W)	760kJ/h (最大900kJ/h)
AT-PWR600R-70 × 1台使用時 ^{*13}			
拡張モジュールなし	2.7A	190W (最大250W)	770kJ/h (最大890kJ/h)
AT-XEM2-12XT	3.3A	230W (最大300W)	950kJ/h (最大1060kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	3.1A	220W (最大280W)	900kJ/h (最大1020kJ/h)
AT-XEM2-12XS	3.1A	220W (最大280W)	910kJ/h (最大1020kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	3.1A	220W (最大280W)	880kJ/h (最大990kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	3.0A	210W (最大270W)	850kJ/h (最大970kJ/h)
AT-XEM2-4QS	3.0A	210W (最大270W)	840kJ/h (最大960kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	2.8A	200W (最大260W)	810kJ/h (最大920kJ/h)
AT-PWR600R-70 × 2台使用時 ^{*13}			
拡張モジュールなし	3.0A	210W (最大270W)	860kJ/h (最大980kJ/h)
AT-XEM2-12XT	3.5A	260W (最大320W)	1030kJ/h (最大1140kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	3.3A	240W (最大300W)	990kJ/h (最大1100kJ/h)
AT-XEM2-12XS	3.4A	250W (最大310W)	990kJ/h (最大1100kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	3.3A	240W (最大300W)	960kJ/h (最大1080kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	3.2A	230W (最大290W)	930kJ/h (最大1050kJ/h)
AT-XEM2-4QS	3.2A	230W (最大290W)	930kJ/h (最大1040kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	3.1A	220W (最大280W)	890kJ/h (最大1010kJ/h)
AT-PWR600R-80 × 1台使用時 ^{*13}			
拡張モジュールなし	6.6A	180W (最大240W)	720kJ/h (最大860kJ/h)
AT-XEM2-12XT	8.0A	220W (最大290W)	890kJ/h (最大1030kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	7.6A	210W (最大270W)	840kJ/h (最大990kJ/h)
AT-XEM2-12XS	7.7A	210W (最大280W)	850kJ/h (最大990kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	7.4A	200W (最大270W)	820kJ/h (最大960kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	7.2A	200W (最大260W)	800kJ/h (最大940kJ/h)
AT-XEM2-4QS	7.2A	190W (最大260W)	790kJ/h (最大930kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	6.9A	190W (最大250W)	750kJ/h (最大900kJ/h)
AT-PWR600R-80 × 2台使用時 ^{*13}			
拡張モジュールなし	7.1A	200W (最大260W)	800kJ/h (最大930kJ/h)
AT-XEM2-12XT	8.5A	240W (最大310W)	970kJ/h (最大1100kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	8.1A	230W (最大290W)	920kJ/h (最大1050kJ/h)
AT-XEM2-12XS	8.1A	230W (最大290W)	930kJ/h (最大1060kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	7.9A	220W (最大290W)	900kJ/h (最大1030kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	7.7A	220W (最大280W)	880kJ/h (最大1010kJ/h)
AT-XEM2-4QS	7.7A	220W (最大280W)	870kJ/h (最大1000kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	7.4A	210W (最大270W)	840kJ/h (最大960kJ/h)

※ 12 標準装備またはスベアファンモジュール (AT-FAN05) 2台装備時

※ 13 スベアファンモジュール リバースエアフロー (AT-FAN05R) 2台装備時

AT-x950-52XSQ

本体	AT-SP10ZR80/I × 48個、AT-QSFP28LR4 × 4個使用時
----	--

最大入力電流(実測値)	平均消費電力	平均発熱量
AT-PWR600-70 × 1台使用時 ^{*12}		
3.1A	230W(最大270W)	910kJ/h(最大980kJ/h)
AT-PWR600-70 × 2台使用時 ^{*12}		
3.3A	250W(最大290W)	1010kJ/h(最大1050kJ/h)
AT-PWR600-80 × 1台使用時 ^{*12}		
7.0A	210W(最大250W)	870kJ/h(最大910kJ/h)
AT-PWR600-80 × 2台使用時 ^{*12}		
7.5A	230W(最大270W)	940kJ/h(最大980kJ/h)
AT-PWR600R-70 × 1台使用時 ^{*13}		
3.3A	230W(最大290W)	940kJ/h(最大1050kJ/h)
AT-PWR600R-70 × 2台使用時 ^{*13}		
3.4A	250W(最大310W)	1020kJ/h(最大1110kJ/h)
AT-PWR600R-80 × 1台使用時 ^{*13}		
7.4A	220W(最大270W)	880kJ/h(最大970kJ/h)
AT-PWR600R-80 × 2台使用時 ^{*13}		
7.9A	240W(最大290W)	960kJ/h(最大1040kJ/h)

AT-x950-28XTQm

本体	AT-QSFP28LR4 × 4個使用時
AT-XEM2-12XS	AT-SP10ZR80/I × 12個使用時
AT-XEM2-12XS v2	AT-SP10ZR80/I × 12個使用時
AT-XEM2-8XSTm	AT-SP10ZR80/I × 4個使用時
AT-XEM2-4QS	AT-QSFPLR4 × 4個使用時
AT-XEM2-1CQ	AT-QSFP28ZR4 × 1個使用時

—	最大入力電流(実測値)	平均消費電力	平均発熱量
AT-PWR600-70 × 1台使用時 ^{*12}			
拡張モジュールなし	2.9A	200W(最大260W)	830kJ/h(最大930kJ/h)
AT-XEM2-12XT	3.5A	250W(最大310W)	1010kJ/h(最大1110kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	3.4A	240W(最大290W)	960kJ/h(最大1060kJ/h)
AT-XEM2-12XS	3.4A	240W(最大300W)	960kJ/h(最大1070kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	3.3A	230W(最大290W)	930kJ/h(最大1040kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	3.2A	220W(最大280W)	910kJ/h(最大1010kJ/h)
AT-XEM2-4QS	3.2A	220W(最大280W)	900kJ/h(最大1000kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	3.0A	210W(最大270W)	860kJ/h(最大960kJ/h)
AT-PWR600-70 × 2台使用時 ^{*12}			
拡張モジュールなし	3.2A	230W(最大280W)	920kJ/h(最大1010kJ/h)
AT-XEM2-12XT	3.7A	270W(最大330W)	1090kJ/h(最大1170kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	3.5A	260W(最大310W)	1050kJ/h(最大1130kJ/h)
AT-XEM2-12XS	3.6A	260W(最大310W)	1050kJ/h(最大1130kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	3.5A	250W(最大310W)	1020kJ/h(最大1110kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	3.4A	250W(最大300W)	1000kJ/h(最大1080kJ/h)
AT-XEM2-4QS	3.4A	250W(最大300W)	990kJ/h(最大1080kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	3.3A	240W(最大290W)	950kJ/h(最大1040kJ/h)

3.2 仕様

AT-PWR600-80 × 1 台使用時 ^{*12}			
拡張モジュールなし	6.8A	200W (最大240W)	800kJ/h (最大880kJ/h)
AT-XEM2-12XT	8.2A	240W (最大290W)	970kJ/h (最大1060kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	7.8A	230W (最大280W)	920kJ/h (最大1010kJ/h)
AT-XEM2-12XS	7.8A	230W (最大280W)	930kJ/h (最大1020kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	7.6A	220W (最大270W)	900kJ/h (最大990kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	7.4A	220W (最大270W)	870kJ/h (最大960kJ/h)
AT-XEM2-4QS	7.3A	210W (最大260W)	860kJ/h (最大950kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	7.0A	200W (最大250W)	830kJ/h (最大920kJ/h)
AT-PWR600-80 × 2 台使用時 ^{*12}			
拡張モジュールなし	7.3A	220W (最大260W)	870kJ/h (最大950kJ/h)
AT-XEM2-12XT	8.6A	260W (最大310W)	1040kJ/h (最大1120kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	8.2A	250W (最大300W)	990kJ/h (最大1070kJ/h)
AT-XEM2-12XS	8.3A	250W (最大300W)	1000kJ/h (最大1080kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	8.0A	240W (最大290W)	970kJ/h (最大1050kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	7.9A	230W (最大280W)	940kJ/h (最大1020kJ/h)
AT-XEM2-4QS	7.8A	230W (最大280W)	940kJ/h (最大1010kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	7.5A	220W (最大270W)	900kJ/h (最大980kJ/h)
AT-PWR600R-70 × 1 台使用時 ^{*13}			
拡張モジュールなし	3.0A	210W (最大270W)	870kJ/h (最大980kJ/h)
AT-XEM2-12XT	3.6A	260W (最大320W)	1050kJ/h (最大1160kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	3.4A	250W (最大310W)	1000kJ/h (最大1110kJ/h)
AT-XEM2-12XS	3.4A	250W (最大310W)	1010kJ/h (最大1120kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	3.4A	240W (最大300W)	980kJ/h (最大1090kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	3.3A	240W (最大300W)	950kJ/h (最大1060kJ/h)
AT-XEM2-4QS	3.3A	230W (最大290W)	940kJ/h (最大1060kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	3.1A	230W (最大280W)	910kJ/h (最大1020kJ/h)
AT-PWR600R-70 × 2 台使用時 ^{*13}			
拡張モジュールなし	3.2A	240W (最大300W)	960kJ/h (最大1060kJ/h)
AT-XEM2-12XT	3.7A	280W (最大340W)	1140kJ/h (最大1220kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	3.6A	270W (最大330W)	1090kJ/h (最大1180kJ/h)
AT-XEM2-12XS	3.6A	270W (最大330W)	1100kJ/h (最大1190kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	3.5A	260W (最大320W)	1070kJ/h (最大1160kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	3.5A	260W (最大320W)	1050kJ/h (最大1140kJ/h)
AT-XEM2-4QS	3.4A	260W (最大310W)	1040kJ/h (最大1130kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	3.3A	250W (最大300W)	1000kJ/h (最大1090kJ/h)
AT-PWR600R-80 × 1 台使用時 ^{*13}			
拡張モジュールなし	7.1A	210W (最大260W)	840kJ/h (最大930kJ/h)
AT-XEM2-12XT	8.4A	250W (最大310W)	1010kJ/h (最大1100kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	8.1A	240W (最大290W)	960kJ/h (最大1060kJ/h)
AT-XEM2-12XS	8.1A	240W (最大300W)	970kJ/h (最大1060kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	7.9A	230W (最大290W)	940kJ/h (最大1030kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	7.7A	230W (最大280W)	910kJ/h (最大1010kJ/h)
AT-XEM2-4QS	7.6A	220W (最大280W)	910kJ/h (最大1000kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	7.4A	220W (最大270W)	870kJ/h (最大960kJ/h)

AT-PWR600R-80 × 2 台使用時 ^{*13}			
拡張モジュールなし	7.6A	230W (最大280W)	920kJ/h (最大1000kJ/h)
AT-XEM2-12XT	8.9A	270W (最大320W)	1090kJ/h (最大1170kJ/h)
AT-XEM2-12XTm	8.6A	260W (最大310W)	1040kJ/h (最大1120kJ/h)
AT-XEM2-12XS	8.6A	260W (最大310W)	1050kJ/h (最大1130kJ/h)
AT-XEM2-12XS v2	8.4A	250W (最大310W)	1020kJ/h (最大1100kJ/h)
AT-XEM2-8XSTm	8.2A	250W (最大300W)	990kJ/h (最大1080kJ/h)
AT-XEM2-4QS	8.1A	240W (最大300W)	990kJ/h (最大1070kJ/h)
AT-XEM2-1CQ	7.9A	230W (最大290W)	950kJ/h (最大1030kJ/h)

AT-x950-52XTQm

本体	AT-QSFP28LR4 × 4 個使用時
----	-----------------------

最大入力電流 (実測値)	平均消費電力	平均発熱量
AT-PWR600-70 × 1 台使用時 ^{*12}		
3.4A	250W (最大300W)	1020kJ/h (最大1090kJ/h)
AT-PWR600-70 × 2 台使用時 ^{*12}		
3.6A	280W (最大320W)	1110kJ/h (最大1150kJ/h)
AT-PWR600-80 × 1 台使用時 ^{*12}		
8.0A	240W (最大290W)	980kJ/h (最大1040kJ/h)
AT-PWR600-80 × 2 台使用時 ^{*12}		
8.3A	260W (最大300W)	1050kJ/h (最大1080kJ/h)
AT-PWR600R-70 × 1 台使用時 ^{*13}		
3.6A	260W (最大320W)	1040kJ/h (最大1160kJ/h)
AT-PWR600R-70 × 2 台使用時 ^{*13}		
3.7A	280W (最大340W)	1120kJ/h (最大1210kJ/h)
AT-PWR600R-80 × 1 台使用時 ^{*13}		
8.4A	250W (最大300W)	990kJ/h (最大1090kJ/h)
AT-PWR600R-80 × 2 台使用時 ^{*13}		
8.7A	260W (最大320W)	1060kJ/h (最大1140kJ/h)

3.3 製品保証

保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。保証期間内における本製品の故障の際には、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

<http://www.allied-tesis.co.jp/support/repair/>

Tel:  0120-860332

携帯電話／PHSからは: 045-476-6218

月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00 13:00～17:00

※ 本製品は保守契約必須製品です。保守契約にご加入済みの場合は、契約締結時にご案内した保守サービス窓口までご連絡ください。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）につきましても、弊社はその責を一切負わないものとします。

ファームウェアのバージョンアップ

ファームウェアバージョンアップのご利用には保守契約へのご加入が必要です。

保守契約

保守契約の詳細につきましては、本製品をご購入いただいた代理店にご相談ください。

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2018-2025 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOMはアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

本書の中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

輸出管理と国外使用について

お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出または「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。

弊社販売製品は日本国内仕様であり、日本国外においては製品保証および品質保証の対象外になり、製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

マニュアルバージョン

2018年 11月	Rev.A	初版
2019年 1月	Rev.B	改版
2019年 6月	Rev.C	改版
2019年 8月	Rev.D	改版
2019年 12月	Rev.E	改版
2020年 1月	Rev.F	改版
2020年 9月	Rev.G	改版
2021年 8月	Rev.H	改版
2021年 10月	Rev.J	改版
2023年 4月	Rev.K	改版
2025年 8月	Rev.L	改版

